ユーザライブラリサンプル説明書

NTTアドバンステクノロジ株式会社

Copyright © 2013-2026 NTT, Inc. & NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION

目次

Ⅰ. はじめに xv
Ⅱ. ユーザライブラリサンプル使用方法1 xv
Ⅲ. ユーザライブラリサンプル使用方法2 xvi
Ⅳ. ユーザライブラリサンプルのバージョン情報 xvii
Ⅴ. ファイルパスやフォルダパスの指定 xix
Ⅵ. 商標について xx
Ⅶ. 本書に関する注意 xx
Ⅷ. 制限事項 xx
1 WinActor 制御 1
1.1 WinActor ウィンドウ 1
1.1.1 WinActor ウィンドウを元に戻す 1
1.1.2 WinActor ウィンドウを最小化 1
1.2 シナリオ制御 2
1.2.1 WinActor 終了 2
1.2.2 シナリオ Goto 3
1.2.3 シナリオ Goto 変数値クリア 5
1.2.4 シナリオ Goto 変数値ダンプ 5
1.2.5 シナリオ Goto 変数値引き継ぎ 5
1.2.6 シナリオ停止 5
1.3 スロー実行の設定 6
1.3.1 スロー実行の設定 6
1.4 ループ関連 7
1.4.1 ループの最初で分岐 7
1.4.2 ループの最後で分岐 9
1.5 誤操作防止設定 11
1.5.1 誤操作防止(OFF) 11
1.5.2 誤操作防止(ON) 11
1.6 シナリオ情報 12
1.6.1 シナリオファイル名取得 12
1.6.2 データー覧ファイル名取得 12
1.7 デバッグ 13
1.7.1 SPV エラー情報収集 13
1.7.2 デバッグ：ウィンドウ状態 14
1.7.3 デバッグ：ウィンドウ状態保存 15
1.7.4 デバッグ：ウィンドウ識別 16
1.7.5 デバッグ：ウィンドウ識別保存 17
1.7.6 デバッグ：変数値保存 18

1.8 実行ログ 19
1.8.1 ログメッセージ出力 19
1.8.2 ログ出力（ファイル指定） 19
2 エラー処理 20
2.1 エラー 20
2.2 エラー処理の例（音を鳴らす） 20
2.3 エラー情報クリア 20
2.4 エラー情報収集 21
2.5 データー覧未使用時エラー 23
2.6 例外を発生させる 23
3 変数 24
3.1 csv ファイル読み込み 24
3.1.1 csv ファイル→変数値 24
3.2 辞書と配列 25
3.2.1 辞書操作(ダンプ) 25
3.2.2 辞書操作(初期化) 25
3.2.3 辞書操作(情報削除) 26
3.2.4 辞書操作(情報取得) 27
3.2.5 辞書操作(情報更新) 28
3.2.6 １次元配列操作(ダンプ) 28
3.2.7 １次元配列操作(初期化) 29
3.2.8 １次元配列操作(情報取得) 29
3.2.9 １次元配列操作(情報挿入) 30
3.2.10 １次元配列操作(情報更新) 30
3.2.11 １次元配列操作(指定インデックスの情報初期化) 31
3.2.12 ２次元配列操作(ダンプ) 32
3.2.13 ２次元配列操作(初期化) 33
3.2.14 ２次元配列操作(情報取得) 33
3.2.15 ２次元配列操作(情報更新) 34
3.2.16 ２次元配列操作(指定インデックスの情報初期化) 35
3.3 暗号化復号 36
3.3.1 復号 36
3.3.2 暗号化 36
3.4 変数の現在値を取得 37
3.5 文字数カウント 37
4 自動記録アクション 38
4.1 デバッグ 38
4.1.1 UI オートメーションダンプ 38
4.2 UI オートメーション 40
4.2.1 UI オートメーション 40

4.2.2 クリック(UIA) 41
4.2.3 タブ選択(UIA) 41
4.2.4 チェック状態設定(UIA) 42
4.2.5 ラジオボタン選択(UIA) 42
4.2.6 リスト一括取得(UIA) 43
4.2.7 リスト位置取得(UIA) 43
4.2.8 リスト位置選択(UIA) 43
4.2.9 リスト値取得(UIA) 44
4.2.10 リスト値選択(UIA) 44
4.2.11 展開する(UIA) 44
4.2.12 折り畳む(UIA) 45
4.2.13 文字列取得(UIA) 45
4.2.14 文字列設定(UIA) 45
4.3 エミュレーション 46
4.4 クリック(IE) 48
4.5 クリック(WIN32) 49
4.6 タブ選択(WIN32) 50
4.7 チェック状態取得(IE) 51
4.8 チェック状態取得(WIN32) 52
4.9 リスト一括取得(IE) 53
4.10 リスト一括取得(WIN32) 54
4.11 リスト取得(IE) 55
4.12 リスト取得(WIN32) 56
4.13 リスト選択(IE) 57
4.14 リスト選択(WIN32) 58
4.15 文字列取得(IE) 59
4.16 文字列取得(WIN32) 60
4.17 文字列設定(IE) 61
4.18 文字列設定(WIN32) 62
4.19 有効無効状態取得(IE) 63
4.20 有効無効状態取得(WIN32) 64
4.21 表の値取得(IE) 65
4.22 Microsoft Edge (Chromium)の IE モードについて 67
4.22.1 Edge の IE モードに対する WinActor の動作 67
5 計算 69
5.1 カウントダウン 69
5.2 剰余演算 69
5.3 税込金額計算 70
5.4 通貨型四則演算 71
6 文字列比較 72

6.1 前方一致比較 72
6.2 後方一致比較 74
6.3 数値大小比較(Dbl 精度) 76
6.4 文字列比較 77
6.5 正規表現(文字列存在確認) 78
6.6 部分一致比較 79
7 文字列操作 81
7.1 変換・整形 81
7.1.1 トリミング 81
7.1.2 不要な 0 を除去(整数) 81
7.1.3 大文字化／小文字化 82
7.1.4 小書き文字変換 82
7.1.5 括弧書きの内側を取り出す 83
7.1.6 改行コード追加 83
7.1.7 数値の桁数合わせ(ゼロパディング) 84
7.1.8 文字列置換 84
7.1.9 正規表現(文字列置換) 85
7.2 切り出し・分割 86
7.2.1 文字列を前後に分割 86
7.2.2 文字列を3つに分割 86
7.2.3 文字列分割 87
7.2.4 文字列切り出し(先頭何文字分) 88
7.2.5 文字列切り出し(後方何文字分) 88
7.2.6 文字列切り出し(途中文字) 88
7.2.7 文字列削除 89
7.2.8 正規表現(文字列抽出) 90
7.3 連結 91
7.3.1 文字列の連結（2つ） 91
7.3.2 文字列の連結（3つ） 91
7.3.3 文字列の連結（4つ） 92
7.3.4 文字列の連結（5つ） 92
7.4 数値に関する変換 93
7.4.1 10 進数を N 進数に変換 93
7.4.2 16 進数を 10 進数に変換 93
7.4.3 数値の書式変換 94
8 日付関連 95
8.1 n 時間後の時刻計算 95
8.2 平日・休日判定 96
8.2.1 祝日情報ファイルの定義 96
8.3 年月日時分秒取得(yyyymmddhhmmss) 97

8.4 日付分割 98
8.5 日付取得(指定した年・月の最終日) 98
8.6 日付取得(yyyymmdd) 99
8.7 日付取得(書式指定) 99
8.8 日付取得(西暦年のみ／月のみ／日のみ) 100
8.9 日付差計算 101
8.10 日付書式変換 102
8.11 日付計算(n 年後／n 月後／n 日後) 103
8.12 時間差取得 104
8.13 曜日判定 104
9 待機 105
9.1 指定時間待機(変数指定可) 105
10 ダイアログ 106
10.1 Yes・No 待機ボックス(Java) 106
10.2 Yes・No 待機ボックス(Java 詳細) 106
10.3 Yes・No 待機ボックス(Python) 107
10.4 オリジナルインプットボックス(詳細) 108
10.5 オリジナルインプットボックス 109
10.6 オリジナル待機ボックス 110
10.7 パスワードインプットボックス 111
10.8 ファイル選択ボックス(Java) 112
10.9 フォルダ選択ボックス(Java) 112
10.10 フォルダ選択ボックス(Win) 112
10.11 待機ボックス(タイムアウト付き) 113
10.12 待機ボックス(位置指定可) 113
11 ウィンドウ関連 114
11.1 ウィンドウの表示変更 114
11.2 ウィンドウを閉じる 115
11.3 ウィンドウハンドル取得 115
11.4 ウィンドウの前面化 116
11.5 ウィンドウ識別クリア 118
11.6 保存、終了(CTRL + S、ALT + F4) 118
11.7 画面サイズ、位置取得(影無し) 119
11.8 画面サイズ、位置取得 120
11.9 画面サイズ、位置設定 122
12 マウス関連 123
12.1 マウスドラッグ(画像マッチング箇所へ) 123
12.2 マウスドラッグ 124
12.3 マウスドラッグ 2 124
12.4 マウスホイール操作 125

12.5 マウス中クリック 125
12.6 マウス位置取得 126
12.7 マウス位置取得 2 126
12.8 マウス右クリック 127
12.9 マウス左クリック 128
12.10 マウス移動(画像マッチング箇所) 129
12.11 マウス移動 129
12.12 マウス移動 2 129
13 ファイル関連 130
13.1 テキストファイル操作 130
13.1.1 テキストファイルの中身をコピー 130
13.1.2 テキストファイル書込 132
13.1.3 テキストファイル行数取得 132
13.1.4 テキストファイル読込(行指定) 133
13.1.5 テキストファイル読込 134
13.1.6 テキストファイル追記 134
13.1.7 ログ記録 135
13.2 ファイル操作 136
13.2.1 Zip 関連 136
13.2.2 Explorer でファイル開く 139
13.2.3 コマンド実行 139
13.2.4 コマンド実行結果をファイル保存 140
13.2.5 デスクトップにあるファイルを開く 140
13.2.6 ファイルと関連づいているアプリ起動 141
13.2.7 ファイルコピー 141
13.2.8 ファイル削除(ワイルドカード指定) 142
13.2.9 ファイル削除 142
13.2.10 ファイル存在有無チェック 143
13.2.11 ファイル情報取得(更新日時) 143
13.2.12 ファイル移動 144
13.2.13 読み取り属性チェック 144
13.3 フォルダ操作 145
13.3.1 フォルダコピー 145
13.3.2 フォルダ作成 145
13.4 ファイル一覧 146
13.4.1 ファイルリスト作成 146
13.4.2 ファイルリスト作成(拡張子指定) 146
13.4.3 ファイル一覧(ファイル名)取得(ソート順あり) 147
13.4.4 ファイル一覧(ファイル名)取得 147
13.4.5 ファイル一覧(ファイル数)取得 148

13.4.6 ファイル検索 148
13.4.7 フォルダリスト作成 149
13.4.8 先頭ファイルの取得 149
13.5 ファイル名 150
13.5.1 シナリオフォルダのファイルパス 150
13.5.2 デスクトップフォルダのファイルパス 151
13.5.3 デスクトップフォルダ取得 152
13.5.4 ファイルパスからフォルダパスとファイル名を取得 152
13.5.5 ファイル名から拡張子を取得 153
13.5.6 ファイル名変更(ファイル名指定) 153
13.5.7 フォルダパスとファイル名の連結 154
13.5.8 マイドキュメントフォルダのファイルパス 154
13.5.9 マイドキュメントフォルダ取得 155
14 入力欄操作 156
14.1 エミュレーションで文字送信 156
14.2 テキスト入力グループ 157
14.3 テキスト入力欄に貼り付け 159
14.4 テキスト入力欄に貼り付け(追記) 159
14.5 テキスト入力欄をコピー 160
14.6 テキスト入力欄を空にする 161
14.7 テキスト読取りグループ 162
14.8 テキスト転記グループ 164
14.9 名前を付けて保存画面ファイル名入力 168
14.10 次の入力欄へ 170
15 画像マッチング関連 171
15.1 画像マッチング(ファイル指定) 171
15.2 画像マッチング箇所の取得 172
16 画面キャプチャ色判定 173
16.1 画面キャプチャ(アクティブなウィンドウ) 173
16.2 画面キャプチャ(デスクトップ) 174
16.3 画面キャプチャ(指定画面) 174
16.4 直前画像マッチング箇所の色判定 175
16.5 色判定 175
17 IE 関連 176
17.1 IE デバッグ 176
17.1.1 IE 操作(Debug class 名指定 情報出力) 176
17.1.2 IE 操作(Debug Class 情報) 177
17.1.3 IE 操作(Debug Href 情報) 178
17.1.4 IE 操作(Debug ID 情報) 179
17.1.5 IE 操作(Debug id 指定 情報出力) 180

17.1.6 IE 操作(Debug Name 情報) 181
17.1.7 IE 操作(Debug name 指定 情報出力) 182
17.1.8 IE 操作(Debug Value 情報) 183
17.1.9 IE 操作(Debug タグ名指定 情報出力) 184
17.1.10 IE 操作(Debug 表示検索) 185
17.1.11 IE 操作(Debug 全タグ情報簡易版) 186
17.1.12 IE 操作(Debug 全タグ情報詳細版) 187
17.2 クリック 188
17.2.1 IE 操作(イメージマップをクリック) 188
17.2.2 IE 操作(指定 CLASS をクリック) 190
17.2.3 IE 操作(指定タグの指定テキストをクリック) 191
17.2.4 IE 操作(指定テキストをクリック) 192
17.2.5 IE 操作(指定リンクをクリック) 193
17.2.6 IE 操作(表内のコントロールをクリック1) 194
17.2.7 IE 操作(表内のコントロールをクリック2) 196
17.3 テキスト取得 197
17.3.1 IE 操作(指定 CLASS 内のテキストを取得) 197
17.3.2 IE 操作(指定 ID 内のテキストを取得) 198
17.3.3 IE 操作(指定タグの指定 ID 内のテキストを取得) 199
17.4 Edge 200
17.4.1 MicrosoftEdge 起動 200
17.5 HTTP ファイルダウンロード 200
17.6 IE 操作(IE を閉じてから URL を開く) 201
17.7 IE 操作(URL 指定) 202
17.8 IE 操作(位置・サイズ変更) 203
17.9 IE 操作(全て閉じる) 204
17.10 IE 操作(指定 CLASS 内のリンク先を取得) 204
17.11 IE 操作(指定 URL の IE を Close) 205
17.12 IE 操作(表の値取得) 206
17.13 IE 操作(読込完了待ち) 206
17.14 IE 操作(読込完了待ち_タイムアウト付き) 207
17.15 URL を指定して IE 起動 207
17.16 リンクの文字列取得 208
18 Excel 関連 209
18.1 ファイル操作 209
18.1.1 Excel ファイル名取得 209
18.1.2 Excel 使用中チェック 210
18.1.3 Excel 操作(csv を xls 形式で保存) 211
18.1.4 Excel 操作(CSV 形式で保存) 211
18.1.5 Excel 操作(上書き保存) 212

18.1.6 Excel 操作(保存なしで閉じる) 213
18.1.7 Excel 操作(全て閉じる) 213
18.1.8 Excel 操作(名前を付けて保存) 214
18.1.9 Excel 操作(新規作成) 215
18.1.10 Excel 開く(前面化) 215
18.1.11 Excel 開く(書き込みパスワード付き) 216
18.1.12 Excel 開く(読み取りパスワード付き) 217
18.1.13 Excel 開く(読み取り＆書き込みパスワード付き) 217
18.2 シート操作 218
18.2.1 Excel 操作(yyyy.mm.dd のシート数取得) 218
18.2.2 Excel 操作(シートコピー) 219
18.2.3 Excel 操作(シート削除) 220
18.2.4 Excel 操作(シート名取得) 221
18.2.5 Excel 操作(シート名変更) 221
18.2.6 Excel 操作(シート数取得) 222
18.2.7 Excel 操作(シート追加) 223
18.2.8 Excel 操作(シート選択) 224
18.2.9 Excel 操作(別 Book のシートコピー) 225
18.3 行列操作 226
18.3.1 Excel 操作(列の読み取り) 226
18.3.2 Excel 操作(列コピー) 227
18.3.3 Excel 操作(列ペースト) 228
18.3.4 Excel 操作(列削除) 229
18.3.5 Excel 操作(列挿入) 230
18.3.6 Excel 操作(列移動) 231
18.3.7 Excel 操作(列複製) 232
18.3.8 Excel 操作(最終行取得　その1) 233
18.3.9 Excel 操作(最終行取得　その2) 234
18.3.10 Excel 操作(最終行取得　その3) 235
18.3.11 Excel 操作(最終行取得　その4) 236
18.3.12 Excel 操作(行の読み取り) 237
18.3.13 Excel 操作(行コピー) 238
18.3.14 Excel 操作(行ペースト) 239
18.3.15 Excel 操作(行列変換ペースト) 240
18.3.16 Excel 操作(行削除) 241
18.3.17 Excel 操作(行挿入) 242
18.3.18 Excel 操作(行移動) 243
18.3.19 Excel 操作(行複製) 244
18.4 セル操作 245
18.4.1 Excel 操作(HyperLink をクリック) 245

18.4.2 Excel 操作(アクティブセルから指定位置の値取得) 246
18.4.3 Excel 操作(アクティブセルのセル位置を取得) 247
18.5 数式 248
18.5.1 Excel 操作(数式の取得) 248
18.5.2 Excel 操作(数式の設定) 249
18.6 文字色＆背景色 250
18.6.1 Excel 操作(文字色を付ける(セル指定)) 250
18.6.2 Excel 操作(文字色を付ける(範囲指定)) 251
18.6.3 Excel 操作(背景色を付ける(セル指定)) 252
18.6.4 Excel 操作(背景色を付ける(範囲指定)) 253
18.6.5 Excel 操作(背景色クリア(セル指定)) 254
18.6.6 Excel 操作(背景色クリア(範囲指定)) 255
18.7 コピー＆ペースト 256
18.7.1 Excel 操作(カーソル位置へペースト) 256
18.7.2 Excel 操作(カーソル位置へ値のみペースト) 257
18.7.3 Excel 操作(ペースト) 258
18.7.4 Excel 操作(値のみペースト) 259
18.7.5 Excel 操作(書式を含めたコピー) 260
18.7.6 Excel 操作(コピー状態解除) 262
18.8 範囲 263
18.8.1 Excel 操作(AutoFill) 263
18.8.2 Excel 操作(ソート) 264
18.8.3 Excel 操作(範囲を指定して置換) 265
18.8.4 Excel 操作(範囲コピー) 266
18.8.5 Excel 操作(範囲値削除) 267
18.8.6 Excel 操作(範囲指定貼り付け) 268
18.8.7 Excel 操作(範囲検索) 269
18.8.8 Excel 操作(範囲選択) 271
18.9 セル位置 272
18.9.1 A1 形式→R1C1 形式 その１ 272
18.9.2 A1 形式→R1C1 形式 その２ 272
18.9.3 A1 形式 次の行へ 273
18.9.4 Excel 関連(次の列のセル位置を取得) 274
18.9.5 R1C1 形式→A1 形式 その１ 274
18.9.6 R1C1 形式→A1 形式 その２ 275
18.9.7 R1C1 形式 列移動(上書き) 275
18.9.8 R1C1 形式 列移動(複製) 276
18.9.9 R1C1 形式 次の列へ 276
18.9.10 R1C1 形式 次の行へ 276
18.9.11 R1C1 形式 行列移動(上書き) 277

18.9.12 R1C1 形式　行列移動(複製) 277
18.9.13 R1C1 形式　行移動(上書き) 278
18.9.14 R1C1 形式　行移動(複製) 278
18.10 フィルタ操作 279
18.10.1 Excel 操作(フィルタ条件設定) 279
18.10.2 Excel 操作(フィルタ条件設定、件数取得) 281
18.10.3 Excel 操作(フィルタ複数条件設定(論理演算)) 282
18.10.4 Excel 操作(フィルタ複数条件設定) 283
18.10.5 Excel 操作(フィルタ解除) 285
18.10.6 Excel 操作(フィルタ設定) 286
18.11 カーソル操作 287
18.11.1 Excel 操作(カーソル位置の読み取り) 287
18.11.2 Excel 操作(カーソル移動) 288
18.12 書式 289
18.12.1 Excel の書式設定 289
18.13 Excel 操作(PDF 形式で出力) 291
18.14 Excel 操作(データー覧連携) 292
18.15 Excel 操作(マクロ実行) 293
18.16 Excel 操作(マッチング) 293
18.17 Excel 操作(値、書式設定) 295
18.18 Excel 操作(値の取得) 296
18.19 Excel 操作(値の取得2) 297
18.20 Excel 操作(値の設定) 298
18.21 Excel 操作(値の設定2) 299
18.22 Excel 操作(印刷) 300
18.23 Excel 操作(引数付きでマクロを実行) 301
18.24 Excel 操作(検索一致) 302
18.25 Excel 操作(重複データの削除) 304
19 Word 関連 305
19.1 Word 操作(ブックマークの前へ挿入) 305
19.2 Word 操作(ブックマークの後ろへ挿入) 305
19.3 Word 操作(上書き保存) 306
19.4 Word 操作(名前を付けて保存) 306
19.5 Word 操作(検索) 306
19.6 Word 操作(表の内容修正) 307
19.7 Word 操作(表の内容修正 2) 307
19.8 Word 操作(閉じる) 308
19.9 Word 操作(開く) 308
20 メール関連 309
20.1 Outlook 操作 309

20.1.1 Outlook メールと添付ファイルを保存 309
20.1.2 Outlook メール送信 310
20.1.3 Outlook メール送信(メーラ起動、停止含む) 311
20.1.4 Outlook メール送信(添付ファイル付) 312
20.1.5 Outlook メール送信(添付ファイル付)(メーラ起動、停止含む) 313
20.1.6 Outlook 予定の検索 314
20.1.7 Outlook 受領メールを全員に返信(送信前) 314
20.1.8 Outlook 新しい予定の登録 315
20.1.9 Outlook 条件を指定して対象メール件数取得 316
20.1.10 Outlook 条件を指定して対象メール保存 317
20.1.11 Outlook メーラ終了 319
20.1.12 Outlook メーラ起動 319
20.1.13 Outlook メーラ起動 2 321
20.1.14 Outlook メーラ起動確認 322
20.1.15 Outlook 操作(メール下書き保存) 323
20.2 ThunderBird 操作 324
20.2.1 ThunderBird メール送信 324
20.3 WinActor メール管理 327
20.4 メール送信 327
21 PowerPoint 関連 328
21.1 PowerPoint 操作(テキスト挿入) 328
22 OS 関連 329
22.1 HDD 情報収集 329
22.2 イベントログ登録(エラー) 329
22.3 コンピュータ名取得 329
22.4 ネットワーク情報収集 330
22.5 マシン情報収集 330
23 ブラウザ関連 331
23.1 ブラウザ操作 331
24 Java 関連 332
24.1 Java アプリケーション操作 332
25 WinActor ノート 333
25.1 WinActor ノート 333
26 WinActorEye 334
26.1 WinActorEye 334
27 MicrosoftGraph 関連 335
27.1 Excel 335
27.1.1 値の取得 335
27.1.2 値の設定 336
27.2 Outlook 337

27.2.1 イベント一覧取得 337
27.2.2 イベント作成 338
27.2.3 メール下書き作成 339
27.2.4 メール検索 340
27.2.5 メール送信 342
27.2.6 メール添付ファイル保存 342
98 構造データ関連 344
98.1 JSON 344
98.1.1 JSON ファイル 配列サイズ 344
98.1.2 JSON ファイル 配列読み取り 345
98.1.3 JSON 変数 ファイル保存 346
98.1.4 JSON 変数 新規オブジェクト 346
98.1.5 JSON 変数 新規配列 346
98.1.6 JSON 変数 要素追加 347
98.1.7 JSON 変数 読み取り 348
98.1.8 JSON 変数 配列サイズ 348
98.1.9 JSON 変数 配列要素追加 349
98.1.10 JSON 変数 配列読み取り 350
98.1.11 JSON 形式書き込み 351
98.1.12 JSON 形式読み取り 351
98.2 JSON 352
98.2.1 デバッグ 352
98.2.2 JSON オブジェクト キーの一覧の取得 352
98.2.3 JSON オブジェクト キーの削除 353
98.2.4 JSON オブジェクト キーの数の取得 354
98.2.5 JSON オブジェクト 値の取得 355
98.2.6 JSON オブジェクト 値の設定 356
98.2.7 JSON オブジェクト 配列指定 値の削除 357
98.2.8 JSON オブジェクト 配列指定 値の取得 358
98.2.9 JSON オブジェクト 配列指定 値の設定 359
98.2.10 JSON オブジェクト 配列指定 値の追加 360
98.2.11 JSON オブジェクト 配列指定 全要素削除 361
98.2.12 JSON オブジェクト 配列指定 要素数取得 361
98.2.13 雛形・データ 書き込み 362
98.2.14 雛形・データ 表形式指定 ソート 363
98.2.15 雛形・データ 表形式指定 フィルタリング 364
98.2.16 雛形・データ 表形式指定 値の取得 365
98.2.17 雛形・データ 表形式指定 値の設定 366
98.2.18 雛形・データ 表形式指定 結合 367
98.2.19 雛形・データ 表形式指定 行または列の削除 369

98.2.20 雛形・データ 表形式指定 行または列の挿入 370
98.2.21 雛形・データ 表形式指定 重複データの削除 372
98.2.22 雛形・データ 読み取り 373
99 外部サービス連携 375
99.1 OAuth 関連 375
99.2 HTTP 関連 375
99.2.1 HTTP(詳細) 375
99.2.2 HTTP 385
99.3 Syslog 関連 386
99.3.1 syslog 送信 386
99.4 Socket 関連 387
99.4.1 Socket 通信 387

Ⅰ．はじめに

ユーザライブラリサンプルは、WinActor のシナリオ作成時に利用可能な部品集です。
本書では、ユーザライブラリサンプル(v7.0)のそれぞれの利用方法について解説します。
ユーザライブラリサンプル(v7.0)は、WinActor v7.0 で動作するものです。

ユーザライブラリサンプルは、WinActor ご購入のお客様に無償で提供している部品集です。PC の設定、アプリケーションの設定によっては想定通りの動作にならない可能性がございますことをご承諾の上、ご利用ください。

Ⅱ．ユーザライブラリサンプル使用方法 1

サンプルライブラリをフローチャートに追加する場合、下記の手順で行います。

① ライブラリパレットのサンプルライブラリを選択し、「フローチャートに追加」アイコンをクリックします。

② 選択したサンプルライブラリがフローチャート表示エリアの空きエリアに追加されます。

※グループまたはサブルーチングループは閉じた状態でフローチャートに追加されます。

図 1-1 フローチャート追加

Ⅲ. ユーザライブラリサンプル使用方法２

サンプルライブラリをフローチャートに追加する場合、下記の手順で行います。

① ライブラリパレットのサンプルライブラリを選択し、フローチャート表示エリアの追加したい場所にドラッグアンドドロップします。

② 選択したサンプルライブラリがフローチャート表示エリアに追加されます。

※グループまたはサブルーチングループは閉じた状態でフローチャートに追加されます。

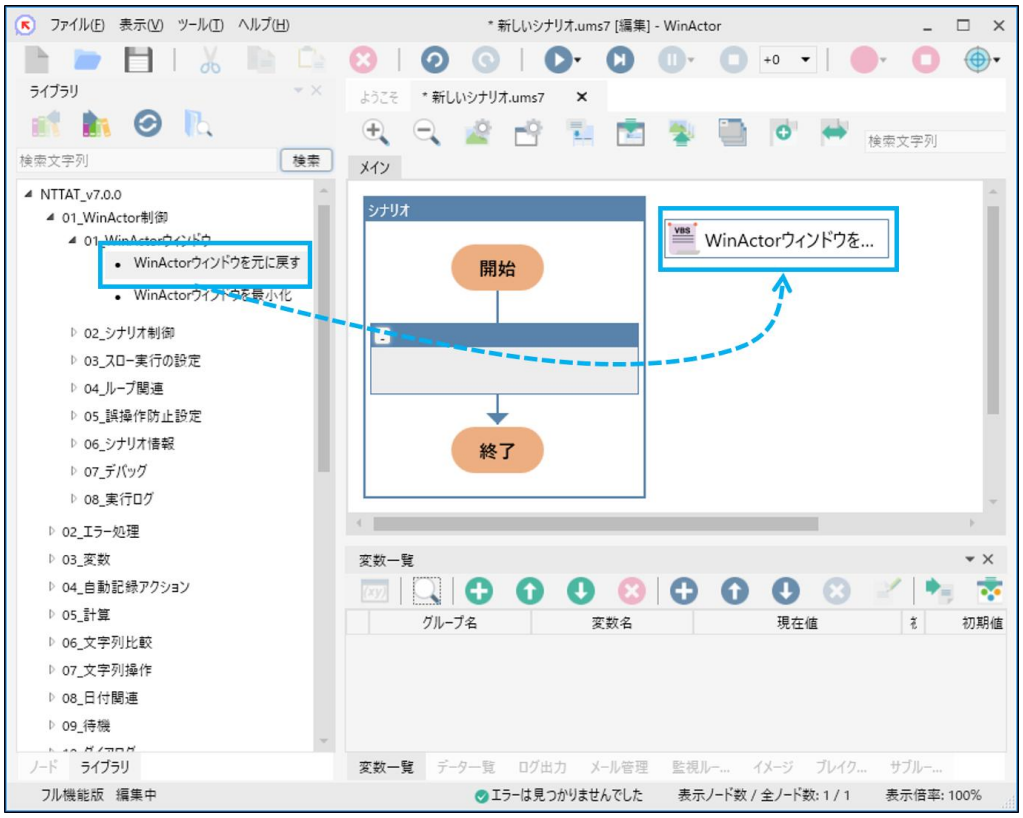


図 1-2 フローチャート追加（ドラッグアンドドロップ）

Ⅳ. ユーザライブラリサンプルのバージョン情報

サンプルライブラリのうち、スクリプト実行ノードを利用しているものについては、プロパティ画面に“バージョン情報”タブが表示され、シナリオで利用しているライブラリの情報を確認することができます。“バージョン情報“タブは、Ver.6.2.0 以降のライブラリにのみ表示されます。
“バージョン情報”タブの内容は、“スクリプト”タブの内容を変更した状態でプロパティ画面の[更新]ボタンをクリックすると削除され、以降“バージョン情報”タブは表示されなくなります。

表 1-1 バージョン情報タブ表示項目

No.	項目	内容
①	ライブラリ名	ライブラリの名前が表示されます。 ノードの名前を変更してもライブラリ名は変更されません。
②	ライブラリ ID	ライブラリを一意に特定する ID が表示されます。 ライブラリが更新されても ID は変更されません。
③	バージョン	ライブラリのバージョンが表示されます。
④	提供元	ライブラリの提供者情報が表示されます。

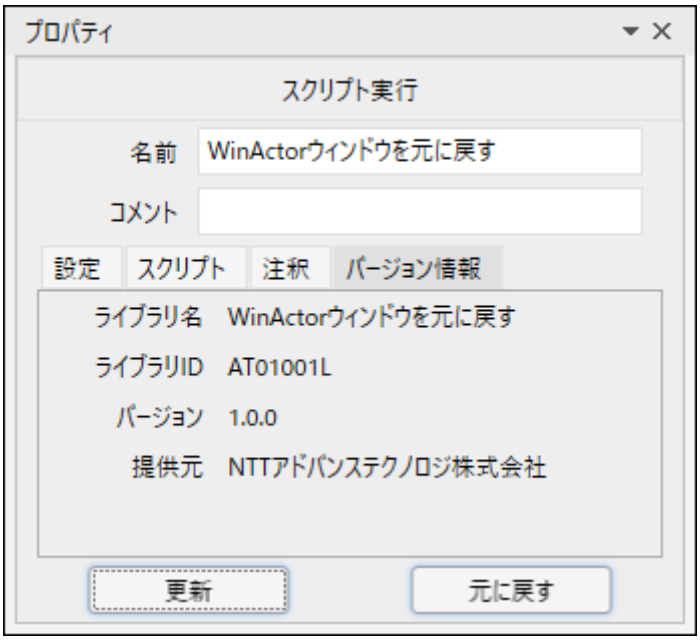


図 1-3 バージョン情報タブ

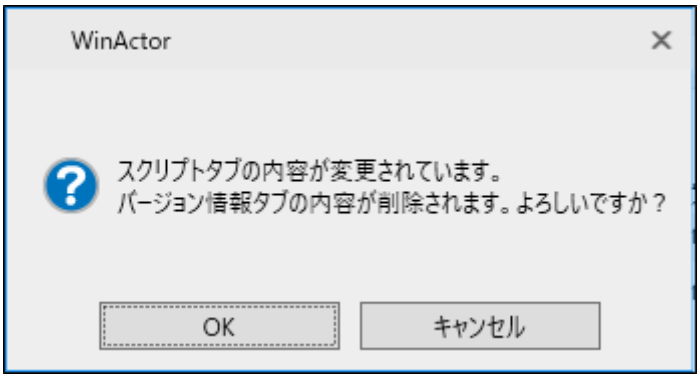


図 1-4 バージョン情報タブ内容削除確認ダイアログ

Ⅴ. ファイルパスやフォルダパスの指定

サンプルライブラリには、操作したいファイルやフォルダのパスを必要とするものがあります。ファイルパスやフォルダパスとして使用できる文字列は以下の通りです。

表 1-2 ファイルパスやフォルダパスの指定方法

No.	指定方法	内容
①	絶対パス	対象のファイルやフォルダのパスを、絶対パスで指定します。
②	相対パス	対象のファイルやフォルダのパスを、特定フォルダからの相対パスで指定します。 WinActor は、以下の優先順位で各フォルダを基準とする相対パスを確認し、最初に見つかったファイルやフォルダを操作対象として採用します。 1. 実行中のシナリオファイルが配置されているフォルダ 2. %USER_PROFILE%Documents¥WinActor 3. WinActor7.exe の起動フォルダ
③	URL	対象のファイルやフォルダのパスを URL で指定します。 URL 指定は、主に Microsoft Office に関連するサンプルライブラリで対応します。 URL による指定は、サンプルライブラリによって使用可否が異なります。個々のサンプルライブラリでの使用可否は、本書や各サンプルライブラリの注釈をご確認ください。

「ファイルを開く」など、既存のファイルやフォルダのみが対象となる操作の場合、絶対パスおよび相対パス（サンプルライブラリによっては絶対パス、相対パスおよび URL）のいずれでも対象のファイルやフォルダが見つけられない場合はファイル・フォルダが見つからない旨のエラーを出力します。

「ファイルを保存する」など、新規のファイルやフォルダが対象となり得る操作の場合は、対象のファイルやフォルダそのものが存在しなくても構いません。但し、「対象のファイルやフォルダの上位フォルダ」が存在しない場合は対象のファイルやフォルダを作成することができませんので、無効なファイルパス・フォルダパスである旨のエラーを出力します。

Ⅵ. 商標について

本書において以下に記載された名称、およびその他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では TM、®、©マークは省略しています。

- WinActor は NTT アドバンステクノロジ株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows※1、Microsoft Edge、Excel、VBScript※2 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

  ※1 Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
  ※2 VBScript の正式名称は、Microsoft Visual Basic Scripting Edition です。
- その他の記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

Ⅶ. 本書に関する注意

- 本書および提供するソフトウェア類に付された著作権表示「Copyright © 2013-2026 NTT, Inc. & NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION」の変更、削除をすることはできません。
  本書の著作権は NTT 株式会社及び NTT アドバンステクノロジ株式会社に帰属します。
- 本書では、Windows の操作方法や機能を理解されていることを前提として説明しています。本書に記載されていないことについては、Microsoft が提供しているドキュメントなどをご覧ください。

Ⅷ. 制限事項

ユーザライブラリサンプルを使用するにあたっての制限事項は以下のとおりです。

- 特にありません。

1 WinActor 制御

1.1 WinActor ウィンドウ

1.1.1 WinActor ウィンドウを元に戻す

WinActor ウィンドウをタスクトレイから元に戻します。
※表示状態に戻します。

1.1.2 WinActor ウィンドウを最小化

WinActor ウィンドウを最小化し、タスクトレイに格納します。

1.2 シナリオ制御

1.2.1 WinActor 終了

現在実行されている WinActor を終了します。

表 1-1 WinActor 終了ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	データー覧上書き要否	WinActor 終了時にデーター覧を上書き保存する場合は、true を指定します。 WinActor 終了時にデーター覧を上書き保存しない場合は、false を指定します。 データー覧を使用せず WinActor を終了する場合は、指定した値は無視されます。

1.2.2 シナリオ Goto

次のシナリオを読み込んで実行します。
次のシナリオに同名の変数が使われている場合は、変数の現在値を次のシナリオに引き継ぐことができます。次のシナリオの先頭に「シナリオ Goto 変数値引き継ぎ」のノードを配置してください。
次のシナリオに設定されているパスワードが、直前に開いたシナリオと同一である場合は、「シナリオパスワード」画面が表示されずに、次のシナリオの実行が開始されます。
オプション画面の「シナリオ GoTo で他のシナリオファイルを呼び出したときに、呼び出し元のシナリオファイルを閉じる」が有効になっている場合、次のシナリオに移る際に、現在のシナリオファイルを閉じます。
ただし、有効になっていても、シナリオ実行前に現在のシナリオファイルが手動で既に開かれていた場合は、現在のシナリオファイルを閉じません。
初期設定は有効になっています。

表 1-2 シナリオ Goto ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	シナリオファイル名	次に実行するシナリオのファイルパスを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。 指定できるシナリオファイルは、「.ums7」「.uss7」「.wsb7」「.ums6」「.ums5」のいずれかの拡張子が付いたファイルです。 シナリオファイル名の拡張子(.ums7、.uss7、.wsb7、.ums6、.ums5)は省略できます。指定されたフォルダ内に、拡張子だけが異なるシナリオファイルが複数ある場合には、 1. シナリオファイル名.ums7 2. シナリオファイル名.uss7 3. シナリオファイル名.wsb7 4. シナリオファイル名.ums6 5. シナリオファイル名.ums5 の優先順位で、実行するシナリオファイルが決まります。

No.	項目	内容
②	データー覧上書き要否	シナリオ遷移時にデーター覧を上書きする場合は、true を指定します。 シナリオ遷移時にデーター覧を上書きしない場合は、false を指定します。 データー覧を使用せずシナリオ遷移する場合は、指定した値は無視されます。

注意事項

データー覧の状態はシナリオ Goto で引き継がれません。

パスワードの引継ぎは、直前に実行したシナリオではなく、直前に開いたシナリオのパスワードが引き継がれます。

1.2.3 シナリオ Goto 変数値クリア

シナリオ Goto を使ってシナリオ間で引き継がれる変数値情報をクリアします。

1.2.4 シナリオ Goto 変数値ダンプ

シナリオ Goto を使ってシナリオ間で引き継がれる変数値情報を指定したファイルに出力します。
シナリオ Goto 実行タイミングで変数値情報がキャッシュされており、シナリオ Goto 変数値ダンプを実行することでキャッシュされている全ての変数値情報を出力します。

表 1-3 シナリオ Goto 変数値ダンプライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	出力ファイル名	出力ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

1.2.5 シナリオ Goto 変数値引き継ぎ

シナリオ Goto を使って次のシナリオを実行した場合、次のシナリオの先頭に配置することで、前のシナリオの変数値を引き継ぐことができます。

1.2.6 シナリオ停止

現在実行されているシナリオを停止します。

表 1-4 シナリオ停止ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	停止方法	WinActor Manager on Cloud から実行されたシナリオがこのライブラリで停止した際に、正常終了するか異常終了するかを指定してください。

1.3 スロー実行の設定

1.3.1 スロー実行の設定

シナリオの実行速度を設定します。
待機時間を設けない場合は 0 を、
実行時に+1.0 秒の待機時間を設ける場合は 10 を設定します。

表 1-5 スロー実行の設定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	実行速度	各ノードを実行する前に設ける待機時間を 0～10 の値で設定します。 値が増えるごとに 0.1 秒ずつ待機時間が増えます。

注意事項

シナリオが終了すると実行速度は元に戻ります。

1.4 ループ関連

1.4.1 ループの最初で分岐

本ライブラリは、データー覧を使ったループ実行と合わせて使用します。

本ライブラリは 1 つのノードから構成されています。

ノード(名前)

・分岐グループ(ループの最初で分岐)

データー覧を使ったループ実行時の最初のループで分岐します。
ライブラリをフローチャートに展開すると次のように表示されます。
ループの最初に実行したいノードを左側「True」に、それ以外で実行したいノードは右側「False」に配置してください。
ループ実行については、『WinActor 操作マニュアル』の『ループ実行』の章を参照してください。
本ライブラリはノード「分岐グループ(ループの最初で分岐)」の条件式で、特殊変数「$LOOP_NUM」が 1 かつ特殊変数「$DATALIST-FILE」が空でない場合、ループの最初であると判定して左側「True」の処理を実行します。それ以外の場合は、右側「False」を実行します。

「分岐グループ」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『分岐』の章を参照してください。
本ライブラリに設定項目はありません。

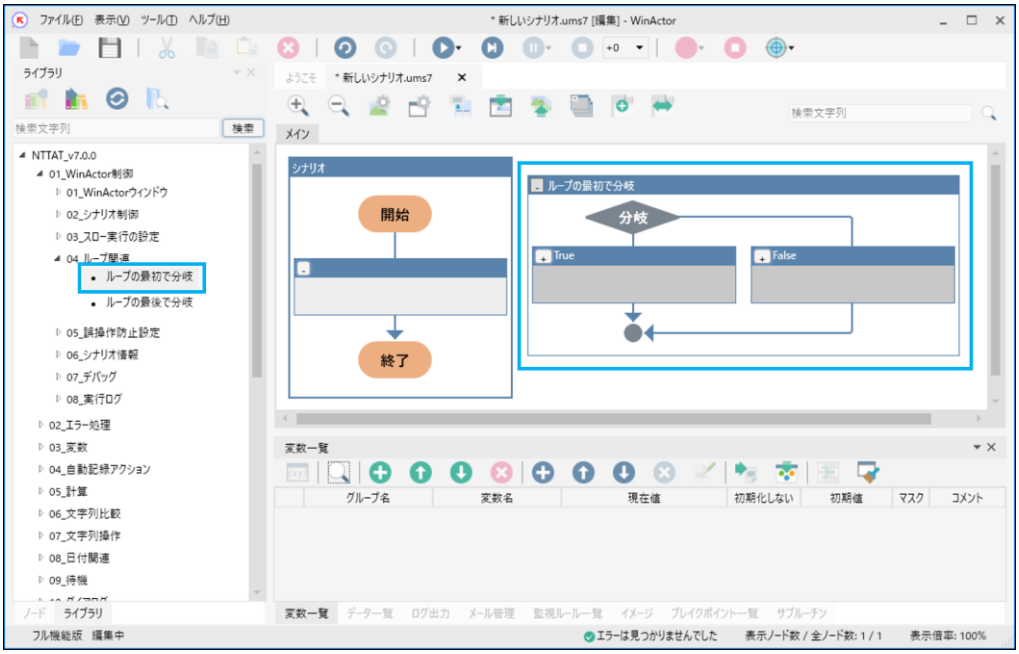


図 1-1 ループの最初で分岐ライブラリ

注意事項

データー覧を使用していない場合は、必ず False 側が実行されます。

「繰り返し」ノードや「後判定繰返」ノードによる繰り返しでは、本ライブラリは分岐いたしません。

1.4.2 ループの最後で分岐

本ライブラリは、データー覧を使ったループ実行と合わせて使用します。

本ライブラリは 1 つのノードから構成されています。

ノード(名前)

・分岐グループ(ループの最後で分岐)

データー覧を使ったループ実行時の最後のループで分岐します。
ライブラリをフローチャートに展開すると次のように表示されます。
ループの最後に実行したいノードを左側「True」に、それ以外で実行したいノードは右側「False」に配置してください。
ループ実行については、『WinActor 操作マニュアル』の『ループ実行』の章を参照してください。
本ライブラリはノード「分岐グループ(ループの最後で分岐)」の条件式で、特殊変数「$LOOP_NUM」が特殊変数「$LOOP_MAX」と等しく、かつ、特殊変数「$DATALIST-FILE」が空でない場合、ループの最後であると判定して左側「True」の処理を実行します。それ以外の場合は、右側「False」を実行します。

「分岐グループ」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『分岐』の章を参照してください。
本ライブラリに設定項目はありません。

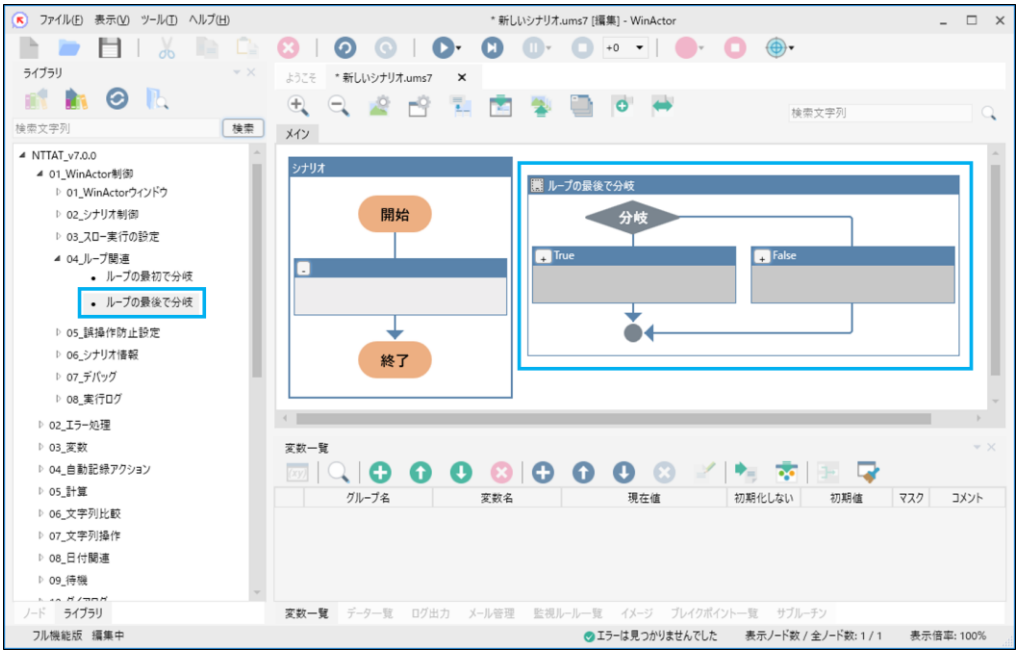


図 1-2 ループの最後で分岐ライブラリ

注意事項

データー覧を使用していない場合は、必ず False 側が実行されます。

「繰り返し」ノードや「後判定繰返」ノードによる繰り返しでは、本ライブラリは分岐いたしません。

1.5 誤操作防止設定

1.5.1 誤操作防止(OFF)

予期せぬマウス／キーボード操作による一時停止を OFF にします。
プロパティ画面内の設定値変更は不要です。

表 1-6 誤操作防止(OFF)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変数名	特殊変数「$DETECT_USER_OPERATION」が設定されています。 設定値変更は不要です。
②	値	「false」が設定されています。 設定値変更は不要です。

1.5.2 誤操作防止(ON)

予期せぬマウス／キーボード操作による一時停止を ON にします。
プロパティ画面内の設定値変更は不要です。

表 1-7 誤操作防止(ON)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変数名	特殊変数「$DETECT_USER_OPERATION」が設定されています。 設定値変更は不要です。
②	値	「true」が設定されています。 設定値変更は不要です。

1.6 シナリオ情報

1.6.1 シナリオファイル名取得

シナリオファイルのフルパス、フォルダ名を取得します。
シナリオが保存されていない場合は、空の情報となります。

表 1-8 シナリオファイル名取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	シナリオフルパス	シナリオファイルのフルパスを格納する変数を指定してください。 シナリオが新規作成の状態の場合は空になります。
②	シナリオフォルダ名	シナリオファイルのフォルダ名を格納する変数を指定してください。 シナリオが新規作成の状態の場合は空になります。

1.6.2 データー覧ファイル名取得

データー覧で読み込まれたファイルのフルパス、フォルダ名を取得します。
データー覧が使われていない場合は、空の情報となります。

表 1-9 データー覧ファイル名取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	データー覧フルパス	データー覧ファイルのフルパスを格納する変数を指定してください。 データー覧が読み込まれていない場合は空になります。
②	データー覧フォルダ名	データー覧ファイルのフォルダ名を格納する変数を指定してください。 データー覧が読み込まれていない場合は空になります。

1.7 デバッグ

1.7.1 SPV エラー情報収集

SPV 内部で発生したエラー情報をクリップボードにコピーします。
ユーザライブラリ開発者向けの機能になります。

1.7.2 デバッグ：ウィンドウ状態

ウィンドウ状態を確認できる画面を表示します。シナリオ作成者向けの機能です。

画面(Hwnd)の一覧とそのウィンドウタイトル（Title）とプロセス名（Process）とウィンドウサイズ（Size）を表示します。

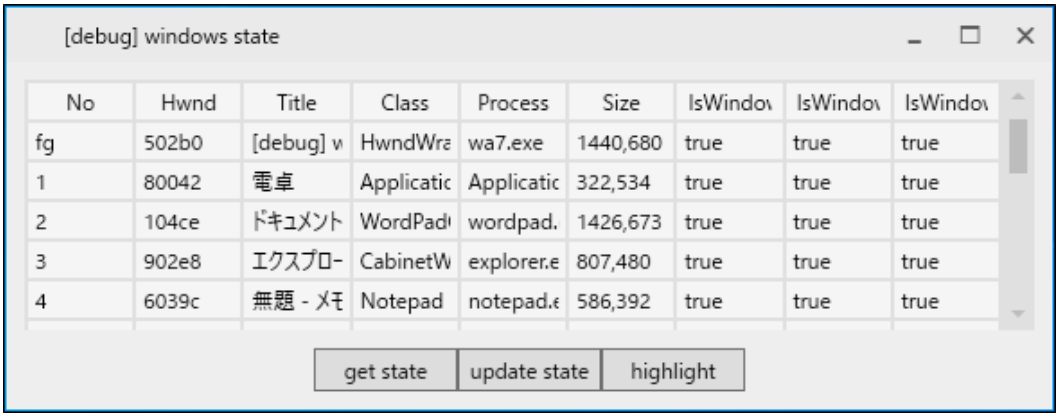


図 1-3 ウィンドウ状態確認用のデバッグ画面

表 1-10 ウィンドウ状態確認用のデバッグ画面操作

No.	項目	内容
①	「get state」ボタン	現在のメモリの状態を表示します。
②	「update state」ボタン	実際の画面に合わせて状態を更新します。
③	「highlight」ボタン	行を選択した状態でボタンを押下すると対応する画面に枠を表示します。

※範囲選択と CTRL+C 操作でコピーができます。

1.7.3 デバッグ：ウィンドウ状態保存

ウィンドウ状態を指定したファイルに保存します。csv 形式で保存します。シナリオ作成者向けの機能です。
画面(Hwnd)の一覧とそのウィンドウタイトル(Title)とプロセス名(Process)とウィンドウサイズ(Size)を保存します。

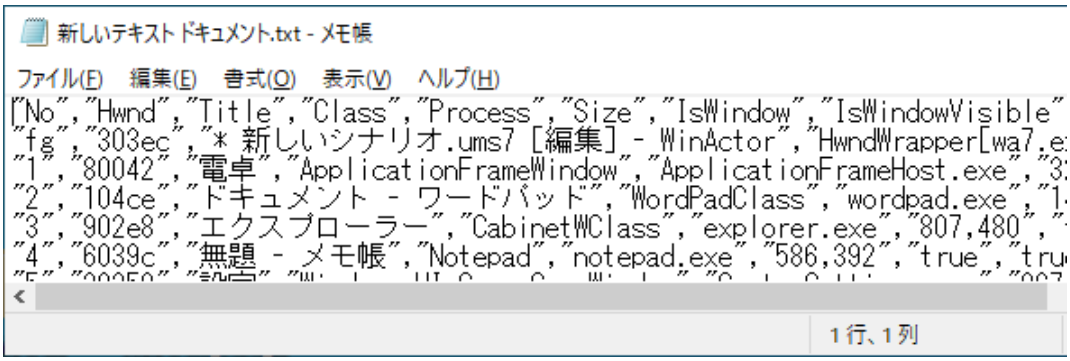


図 1-4 ウィンドウ状態の保存結果

表 1-11 デバッグ：ウィンドウ状態保存ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	保存ファイルパス	保存するファイルパスを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

1.7.4 デバッグ：ウィンドウ識別

ウィンドウ識別情報を確認できる画面を表示します。
シナリオ作成者向けの機能です。

ウィンドウ識別名（Name）のルールとマッチする画面(Hwnd)の一覧と実際に操作対象となっている画面（Current 欄に Yes 表示）を表示します。

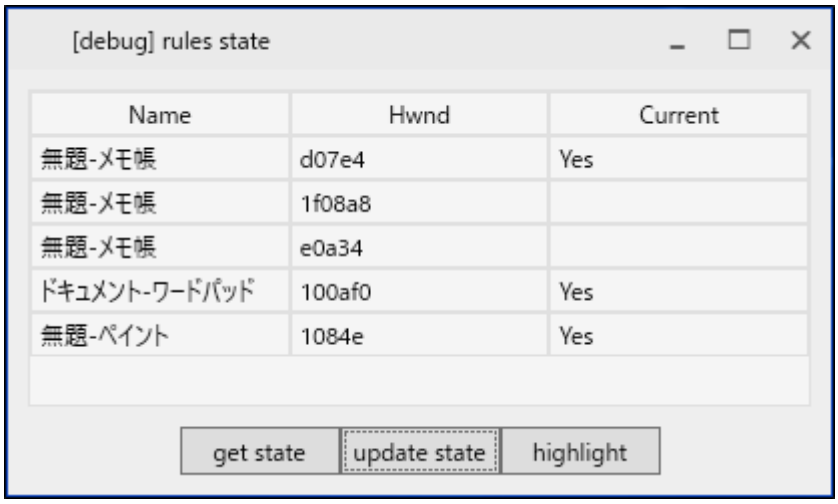


図 1-5 ウィンドウ識別確認用のデバッグ画面

表 1-12 ウィンドウ識別確認用のデバッグ画面操作

No.	項目	内容
①	「get state」ボタン	現在のメモリの状態を表示します。
②	「update state」ボタン	実際の画面に合わせて状態を更新します。
③	「highlight」ボタン	行を選択した状態でボタンを押下すると対応する画面に枠を表示します。

※範囲選択と CTRL+C 操作でコピーができます。

1.7.5 デバッグ：ウィンドウ識別保存

ウィンドウ識別情報を指定したファイルに保存します。シナリオ作成者向けの機能です。

ウィンドウ識別名（Name）のルールとマッチする画面(Hwnd)の一覧と実際に操作対象となっている画面（Current 欄に Yes 表示）を保存します。

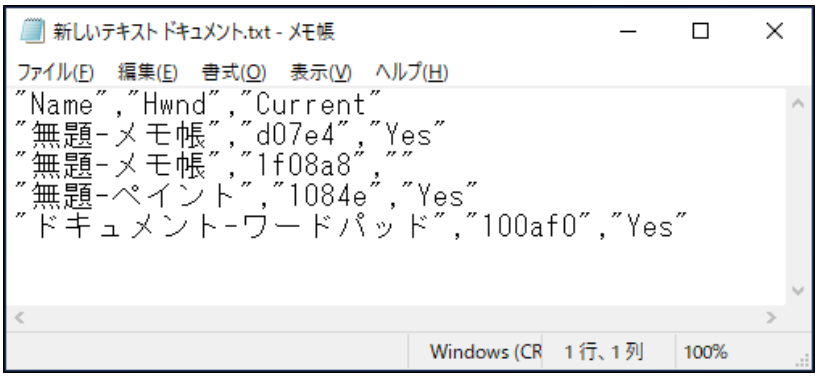


図 1-6 ウィンドウ識別情報の保存結果

表 1-13 デバッグ：ウィンドウ識別情報保存ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	保存ファイルパス	保存するファイルパスを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

1.7.6 デバッグ：変数値保存

変数の現在値を指定したファイルに保存します。
既にファイルがある場合は、ファイル末尾に書き加えます。

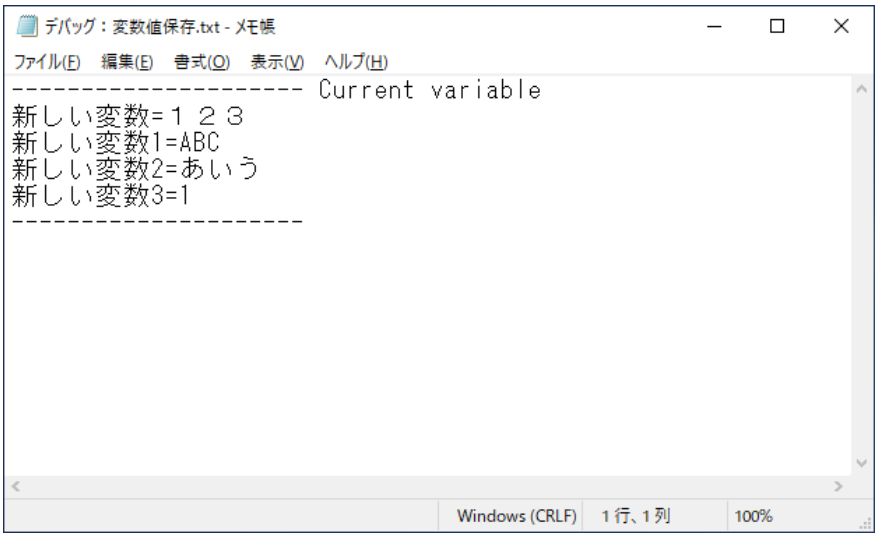


図 1-7 変数値の保存結果

表 1-14 デバッグ：変数値保存ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字コード	出力先のファイルの文字コードを選択してください。 「Default」「Shift-JIS」「UTF-8」のいずれから選択します。 「Default」を選択した場合、デフォルトの文字コードで出力されます。 「Shift-JIS」を選択した場合、文字コードは Shift-JIS で出力されます。 「UTF-8」を選択した場合、文字コードは UTF-8 で出力されます。
②	保存ファイルパス	保存するファイルパスを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

1.8 実行ログ

1.8.1 ログメッセージ出力

ログ出力画面に任意のメッセージを出力します。
オプション画面の「実行ログを常に出力する」が有効になっている場合、ファイルに対してもメッセージが出力されます。

表 1-15 ログメッセージ出力ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	出力メッセージ	出力メッセージを指定してください。

1.8.2 ログ出力（ファイル指定）

実行ログを指定したファイルに出力します。
オプション画面の「実行ログを常に出力する」が有効になっている場合、こちらで指定しているファイルにもログが出力されます。

表 1-16 ログ出力(ファイル指定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ログファイル名	ログを保存するファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

注意事項

指定ファイルが存在する場合は追記されます。

2 エラー処理

2.1 エラー

エラー(アクション例外)を発生させて、シナリオの実行を停止します。
例外処理がある場合は、例外処理の“アクション例外”に制御が移ります。
エラーメッセージを指定できます。

表 2-1 エラーライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	エラーメッセージ	エラーメッセージを指定してください。

2.2 エラー処理の例(音を鳴らす)

シナリオ実行時、エラーが発生した場合に警告音を鳴らします。
正常系にシナリオを配置してください。
異常系にはノード「音」(名前は「アクション実行エラー」)が配置されています。設定項目の詳細については、『WinActor 操作マニュアル』の「音」の章をご参照ください。

2.3 エラー情報クリア

エラー情報(ノード名、ノード ID、エラーメッセージ)をクリアします。

2.4 エラー情報収集

エラーの発生したノード名、ノード ID とエラーメッセージを収集します。

本ライブラリは 2 つのノードと 2 つのライブラリから構成されています。

ノード(名前):

・例外処理グループ(エラー情報収集)

・待機ボックス(エラー情報表示)

ライブラリ:

・エラーサンプル

・エラー情報収集

エラー情報を収集したい処理をライブラリ「エラーサンプル」と置き換えて、左側の「正常系」に配置してください。
本ライブラリをフローチャートに追加時、自動的に変数「エラー発出ノード名」「エラー発出ノード ID」「エラーメッセージ」が追加されます。
エラー発生時にライブラリ「エラー情報収集」にて変数「エラー発出ノード名」「エラー発出ノード ID」「エラーメッセージ」にエラー情報を設定します。
本ライブラリではノード「待機ボックス(エラー情報表示)」にて、上記の各変数を待機ボックスで表示しています。

「例外処理グループ」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『例外処理』の章を参照してください。
「待機ボックス」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『待機ボックス』の章を参照してください。

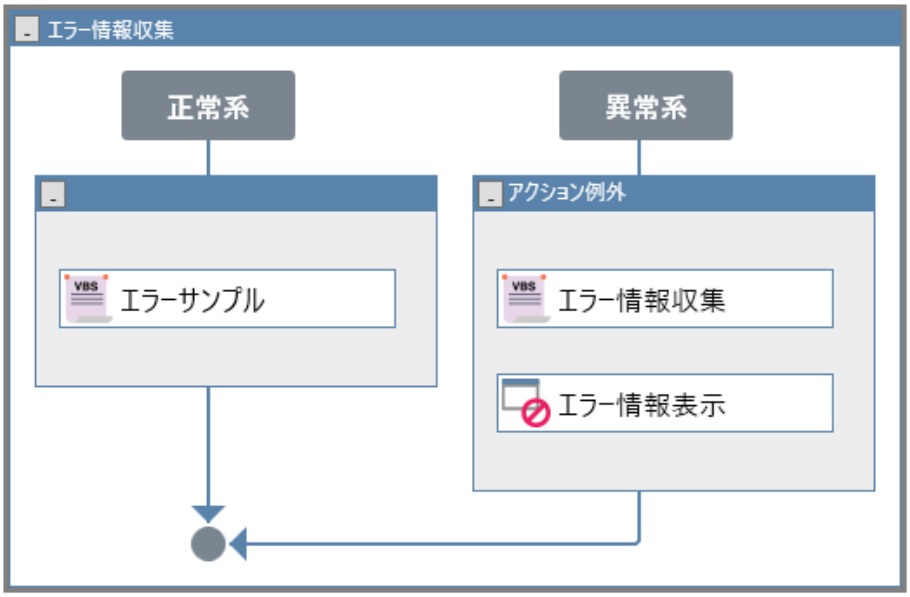


図 2-1 エラー情報収集ライブラリ

表 2-2 エラー情報収集ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	エラー発出ノード名	直前に発生したエラーのエラー発出ノード名を格納する変数を指定してください。 あらかじめ変数「エラー発出ノード名」が指定されています。
②	エラー発出ノード ID	直前に発生したエラーのエラー発出ノード ID を格納する変数を指定してください。 あらかじめ変数「エラー発出ノード ID」が指定されています。
③	エラーメッセージ	直前に発生したエラーのエラーメッセージを格納する変数を指定してください。 あらかじめ変数「エラーメッセージ」が指定されています。

2.5 データー覧未使用時エラー

データー覧未使用時にエラーを発生させます。
データー覧を使う前提のシナリオに組み込むことで、変数一覧の初期値でシナリオが動作してしまうことを防止します。

・データー覧が読み込まれていない場合エラーとなります。
・データー覧にチェックが一つもない場合エラーとなります。
・部分実行の場合エラーとなります。

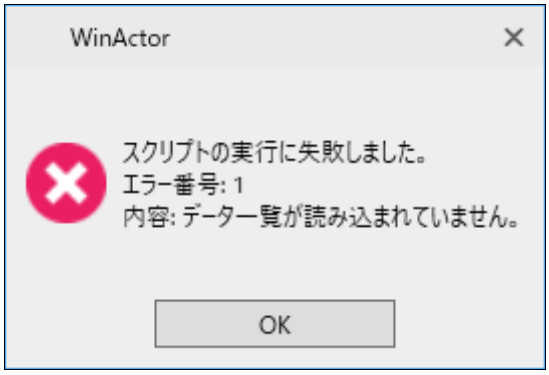


図 2-2 データー覧未使用時に表示されるエラー

2.6 例外を発生させる

任意の例外を発生させます。
例外処理グループ内で実行された場合、指定された例外名に対応する"例外処理"に制御が移ります。
例外処理グループ外で実行された場合、一時停止します。

表 2-3 例外を発生させるライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	例外名	任意の例外名を指定してください。

3 変数

3.1 csv ファイル読み込み

3.1.1 csv ファイル→変数値

データー覧形式のファイルを読み込んで変数に反映します。
シナリオには、あらかじめデータを読み込むための変数を登録しておく必要があります。

※指定のファイルが見つからない場合、指定した行が読み取れない場合は、エラーとなります。
※指定した csv ファイルの文字コードと WinActor の CSV ファイルエンコーディングの設定が一致しない場合、変数値が正しく読み込めません。

表 3-1csv ファイル→変数値ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	csv ファイル名	読み込む csv ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	行数	実際に読み込む行の行番号を指定してください。 ヘッダは行番号に含みません。
③	見出しの重複	見出しの重複を許容するかどうかを指定してください。 許容する場合、同一の見出しの列が複数存在すると、変数値はより後に登場した列の値で上書きされます。 許容しない場合、同一の見出しの列が複数存在するとエラーになります。

3.2 辞書と配列

3.2.1 辞書操作(ダンプ)

辞書の内容をファイルに書き出しします。マイドキュメントの WinActor フォルダに「辞書名.txt」ファイルが作成されます。ファイルが存在する場合は、既存の内容に追記していきます。辞書内容は、キーと情報を「,」区切りで書き込みます。

表 3-2 辞書操作(ダンプ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	辞書名	辞書名を指定してください。 出力フォーマット ： キー,情報

注意事項

「辞書操作(初期化)」ライブラリを使用後、各種辞書操作ライブラリをご使用ください。

3.2.2 辞書操作(初期化)

辞書を初期化します。

注意事項

辞書操作の途中で初期化を行うと、辞書情報が全てクリアされます。

3.2.3 辞書操作(情報削除)

辞書から指定したキーと、そのキーで取得される情報を削除します。

表 3-3 辞書操作(情報削除)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	辞書名	操作対象の辞書名を指定してください。
②	キー	削除するキーを指定してください。
③	辞書有無	辞書の有無確認結果を格納する変数を指定してください。 辞書が存在すれば true、存在しない場合は false が入ります。
④	削除結果	キー削除結果を格納する変数を指定してください。 キーの削除を行えば true、 キーが存在せず削除を行わなかった場合は false が入ります。 (辞書が存在しなかった場合も false が入ります。)

注意事項

「辞書操作(初期化)」ライブラリを使用後、各種辞書操作ライブラリをご使用ください。

3.2.4 辞書操作(情報取得)

辞書から指定されたキーの情報を取得します。

表 3-4 辞書操作(情報取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	辞書名	辞書名を指定してください。
②	キー	キーとなる文字列を指定してください。
③	取得情報	取得した値を格納する変数を指定してください。

注意事項

「辞書操作(初期化)」ライブラリを使用後、各種辞書操作ライブラリをご使用ください。

指定されたキーが存在しない場合、「取得情報」の変数値は変化しません。

3.2.5 辞書操作(情報更新)

辞書のキーと情報を更新します。

表 3-5 辞書操作(情報更新)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	辞書名	辞書名を指定してください。
②	キー	キーとなる文字列を指定してください。
③	情報	辞書の更新する情報を指定してください。

注意事項

「辞書操作(初期化)」ライブラリを使用後、各種辞書操作ライブラリをご使用ください。

3.2.6 1次元配列操作(ダンプ)

1次元配列の情報をファイル出力します。マイドキュメントの WinActor フォルダに「配列名.txt」ファイルが作成されます。
ファイルが存在する場合は、上書きします。

表 3-6 1次元配列操作(ダンプ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。 出力フォーマット ： インデックス 0 の情報 インデックス 1 の情報

注意事項

「1次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、1次元配列操作の更新、挿入、指定インデックスの情報初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。

3.2.7 1次元配列操作(初期化)

1次元配列を初期化します。

注意事項

1次元配列操作の途中で初期化を行うと、1次元配列情報が全てクリアされます。

3.2.8 1次元配列操作(情報取得)

1次元配列の指定インデックスの情報を取得します。

表 3-7 1次元配列操作(情報取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。
②	インデックス	インデックスを指定してください。
③	取得情報	取得した値を格納する変数を指定してください。

注意事項

「1次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、1次元配列操作の更新、挿入、指定インデックスの情報初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。

指定されたインデックスが存在しない場合、「取得情報」の変数値は変化しません。

3.2.9 1次元配列操作(情報挿入)

1次元配列の指定インデックスに情報を挿入します。
指定インデックスに情報がない場合、指定インデックスに情報を設定します。

表 3-8 1次元配列操作(情報挿入)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。
②	インデックス	インデックスを指定してください。
③	情報	配列に追加する情報を指定してください。

注意事項

「1次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、1次元配列操作の更新、挿入、指定インデックスの情報初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。

3.2.10 1次元配列操作(情報更新)

1次元配列の指定インデックスの情報を更新します。
指定インデックスに情報がない場合、指定インデックスに情報を設定します。

表 3-9 1次元配列操作(情報更新)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。
②	インデックス	インデックスを指定してください。
③	情報	配列の更新する情報を指定してください。

注意事項

「1次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、1次元配列操作の更新、挿入、指定インデックスの情報初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。

3.2.11 1次元配列操作(指定インデックスの情報初期化)

1次元配列の指定インデックスの情報を初期化します。初期化を行うと、情報には空文字が設定されます。

表 3-10 1次元配列操作(指定インデックスの情報初期化)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。
②	インデックス	インデックスを指定してください。

注意事項

「1次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、1次元配列操作の更新、挿入、指定インデックスの情報初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。

3.2.12 2次元配列操作(ダンプ)

2次元配列情報をファイル出力します。マイドキュメントの WinActor フォルダに「配列名.txt」ファイルが作成されます。
ファイルが存在する場合は、既存の内容に追記していきます。

表 3-11 2次元配列操作(ダンプ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。 出力フォーマット : 配列(0,0)の情報, 配列(0,1)の情報 配列(1,0)の情報, 配列(1,1)の情報 ※配列(x,y)の情報は、インデックス(x 行,y 列)の情報を意味します。

注意事項

「2次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、2次元配列操作の更新、
指定インデックスの初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。

3.2.13 2次元配列操作(初期化)

2次元配列を初期化します。

注意事項

2次元配列操作の途中で初期化を行うと、2次元配列情報が全てクリアされます。

3.2.14 2次元配列操作(情報取得)

2次元配列の指定インデックスの情報を取得します。

表 3-12 2次元配列操作(情報取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。
②	インデックス(行)	行のインデックスを指定してください。
③	インデックス(列)	列のインデックスを指定してください。
④	取得情報	取得した値を格納する変数を指定してください。

注意事項

「2次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、2次元配列操作の更新、指定インデックスの初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。
指定されたインデックスが存在しない場合、「取得情報」の変数値は変化しません。

3.2.15 2次元配列操作(情報更新)

2次元配列の指定インデックスの情報を更新します。
指定インデックスに情報がない場合、指定インデックスに情報を設定します。

表 3-13 2次元配列操作(情報更新)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。
②	インデックス(行)	行のインデックスを指定してください。
③	インデックス(列)	列のインデックスを指定してください。
④	情報	配列の更新する情報を指定してください。

注意事項

「2次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、2次元配列操作の更新、
指定インデックスの初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。

3.2.16 2次元配列操作(指定インデックスの情報初期化)

2次元配列の指定インデックスの情報を初期化します。
初期化を行うと、情報には空文字が設定されます。

表 3-14 2次元配列操作(指定インデックスの情報初期化)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	配列名	配列名を指定してください。
②	インデックス(行)	行のインデックスを指定してください。
③	インデックス(列)	列のインデックスを指定してください。

注意事項

「2次元配列操作(初期化)」ライブラリを使用後、2次元配列操作の更新、指定インデックスの情報初期化、取得、ダンプライブラリをご使用ください。
指定されたインデックスが存在しない場合、エラーとなります。

3.3 暗号化復号

3.3.1 復号

指定した変数値の復号を行います。

表 3-15 復号ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	暗号鍵	暗号鍵を設定します。 デフォルトで「砂糖と塩を少々加えます。」が設定されています。
②	復号対象文字列	復号したい変数を設定してください。
③	結果	復号した結果を格納する変数を指定してください。

3.3.2 暗号化

指定した変数値の暗号化を行います。

表 3-16 暗号化ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	暗号鍵	暗号鍵を設定します。 デフォルトで「砂糖と塩を少々加えます。」が設定されています。
②	暗号化対象文字列	暗号化したい変数を設定してください。
③	結果	暗号化した結果を格納する変数を指定してください。 暗号化対象文字列と同じ変数を指定することも可能です。

3.4 変数の現在値を取得

変数名を指定して変数の現在値を取得します。

表 3-17 変数の現在値取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変数名	「現在値を取得したい変数の変数名」を下記のどちらかの方法で設定してください。 ・[値⇒]で「現在値を取得したい変数の変数名」を指定する ・「現在値を取得したい変数の変数名」が格納された変数を指定する
②	取得結果	取得した結果を格納する変数を指定してください。

3.5 文字数カウント

指定した文字列の文字数をカウントします。

表 3-18 文字数カウントライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	対象文字列	カウント対象の文字列を指定してください。
②	格納先変数	取得した値を格納する変数を指定してください。

4 自動記録アクション

4.1 デバッグ

4.1.1 UI オートメーションダンプ

ウィンドウが持つ UI オートメーション要素の情報をダンプし、指定したファイルに出力します。

表 4-1 UI オートメーションダンプライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	出力ファイル名	出力先のファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。 相対パスを指定した場合は、現在実行しているシナリオが保存されているフォルダからの相対パスになります。 ファイルが存在する場合は、上書きします。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

表 4-2 出力ファイルのフォーマット

No.	タグ	説明
①	tree	そのウィンドウに関する element タグを束ねる最上位のタグです。
②	element	UI オートメーション要素の情報です。下表の属性を持ちます。 子要素がある場合は、その element タグを持ちます。

表 4-3 element タグの属性

No.	属性	説明
①	id	要素を特定する id です。UI オートメーションノードのコントロールパスに表示される id と同じです。 id を持たない場合は空文字列になります。
②	name	要素が持つラベルです。UI オートメーションノードのコントロールパスに表示される name と同じです。 ラベルを持たない場合は空文字列になります。
③	pattern	要素に対して指定可能な操作の種類を、空白文字区切りで示します。 UI オートメーションノードのコントロールパターンに表示される操作と同じです。

4.2 UI オートメーション

4.2.1 UI オートメーション

指定したウィンドウに対し、設定した操作を実行します。

表 4-4 UI オートメーションライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	基本設定タブ	基本設定を表示します。
②	ウィンドウ識別名	リストの中から選択、もしくは的マークのボタンをクリックして、操作対象のウィンドウを選択してください。
③	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックして、対象となるコントロールを選択してください。
④	待ち時間	対象コントロールの指定開始までの待ち時間を「即時」、「3秒」、「10秒」、「30秒」から選択できます。
⑤	コントロールパターン	対象コントロールに対する操作の種類を、「共通」、「折り畳みメニュー」、「ボタン」、「スクロール」、「選択」、「選択要素」、「トグル」、「値の設定と取得」から選択します。
⑥	アクション	コントロールパターン毎に定められた操作を選択します。
⑦	アクション設定	アクション毎に定められた設定項目が表示されます。 設定がない場合は何も表示されません。
⑧	対象コントロール指定	対象コントロールのコントロールパスを表示します。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

UI オートメーションプロパティの詳細については、『WinActor 操作マニュアル』の「UI オートメーションのプロパティ」の章をご参照ください。

4.2.2 クリック（UIA）

クリックします。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「ボタン」を選択し、アクションに「クリック」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.3 タブ選択（UIA）

他の選択要素を選択解除状態にして、この要素を選択状態にします。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「選択要素」を選択し、アクションに「この要素を選択する」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.4 チェック状態設定(UIA)

現在のトグル状態に関わらず、トグルを指定した状態に設定します。
UI オートメーションノードのコントロールパターンは「トグル」ですが、本アクションは UI オートメーションノードでは選択できません。

表 4-5 チェック状態設定(UIA)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	アクション設定	設定する状態を「設定値」に指定します。オンであれば「true」、オフであれば「false」を指定します。変数名または、値が指定できます。

プロパティの他の設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.5 ラジオボタン選択(UIA)

他の選択要素を選択解除状態にして、この要素を選択状態にします。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「選択要素」を選択し、アクションに「この要素を選択する」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.6 リスト一括取得（UIA）

選択可能な全ての要素の値をカンマ区切りのテキスト文字列で取得します。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「選択」を選択し、アクションに「選択可能な要素をテキストで取得」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.7 リスト位置取得（UIA）

選択した要素をカンマ区切りのインデックス文字列で取得します。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「選択」を選択し、アクションに「選択要素をインデックスで取得」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.8 リスト位置選択（UIA）

指定したインデックスの要素を選択します。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「選択」を選択し、アクションに「指定したインデックスの要素を選択」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.9 リスト値取得（UIA）

選択した要素をカンマ区切りのテキスト文字列で取得します。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「選択」を選択し、アクションに「選択要素をテキストで取得」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.10 リスト値選択（UIA）

指定した値を持つ要素を選択します。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「選択」を選択し、アクションに「指定した値を持つ要素を選択」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.11 展開する（UIA）

折り畳まれている要素を開きます。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「折り畳みメニュー」を選択し、アクションに「開く」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.12 折り畳む（UIA）

開いている要素を折り畳みます。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「折り畳みメニュー」を選択し、アクションに「閉じる」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.13 文字列取得（UIA）

値を取得します。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「値の設定と取得」を選択し、アクションに「値を取得する」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.2.14 文字列設定（UIA）

指定した値を設定します。
UI オートメーションノードで、コントロールパターンに「値の設定と取得」を選択し、アクションに「値を設定する」を選択した場合と同じ操作を実行します。
プロパティの設定項目は、UI オートメーションと同じです。『4.2.1 UI オートメーション』を参照してください。
プロパティ画面にコントロールパターンとアクションの設定は表示されず、変更することはできません。

4.3 エミュレーション

指定したウィンドウに対し、設定した操作を実行します。

表 4-6 エミュレーションライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
④	操作	マウス、キーボード、移動、待機から選択してください。

No.	項目	内容
⑤	操作内容	• 操作対象が「マウス」の場合 操作と座標を設定します。 操作は、「左ボタン」、「右ボタン」、「ミドルボタン」とボタンの「Down」、「Up」を組み合わせて設定します。 座標は、原点を設定し、操作位置を「座標」または「%」で設定します。操作位置を直接設定する方法と、座標確認ボタン(+)を使って設定する方法があります。操作位置が「%」の場合、操作位置はウィンドウの相対値(0～100%)で設定されます。 • 操作対象が「キーボード」の場合 操作を実行するキーと操作内容を設定します。 対象キーとボタンの「Down」、「Up」を組み合わせて設定します。 • 操作対象が「待機」の場合 待機時間(ミリ秒)を指定してください。 • 操作対象が「移動」の場合 設定項目はありません。
⑥	▲	選択した操作の順序を 1 つ上にします。
⑦	▼	選択した操作の順序を 1 つ下にします。
⑧	追加	選択した操作を追加します。 ※移動は使用できません。
⑨	更新	選択した操作の内容を変更します。
⑩	削除	選択した操作を削除します。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

エミュレーションのプロパティの詳細については、『WinActor 操作マニュアル』「エミュレーションのプロパティ」 の章をご参照ください。

4.4 クリック(IE)

IE の指定されたコントロールをクリックします。

表 4-7 クリック(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、クリック対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、クリックするコントロールを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
クリック(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」 の章をご参照ください。

4.5 クリック(WIN32)

アプリの指定されたコントロールをクリックします。

表 4-8 クリック(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、クリック対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、クリックするコントロールを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した操作対象のコントロールを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

クリック(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.6 タブ選択(WIN32)

アプリの指定されたタブを選択します。

表 4-9 タブ選択(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、タブ選択対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、操作対象のタブを選択してください。
③	選択内容	選択するタブ項目を値かインデックスから選択し、値を指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した操作対象のタブを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

タブ選択(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」 の章をご参照ください。

4.7 チェック状態取得(IE)

IE の指定されたコントロールの ON・OFF 状態を取得します。

表 4-10 チェック状態取得(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のコントロールを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
⑤	取得結果	取得したチェック状態を格納する変数を指定してください。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
チェック状態取得(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.8 チェック状態取得(WIN32)

アプリの指定されたコントロールの ON・OFF 状態を取得します。

表 4-11 チェック状態取得(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のコントロールを選択してください。
③	取得結果	取得したチェック状態を格納する変数を指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した取得対象のコントロールを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
チェック状態取得(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.9 リストー括取得(IE)

IE の指定されたリスト・コンボボックス内の文字列を csv ファイルに保存します。

表 4-12 リストー括取得(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のコントロールを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
⑤	ファイル名	取得した情報を保存するファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
リストー括取得(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」 の章をご参照ください。

4.10 リストー括取得(WIN32)

アプリの指定されたリスト・コンボボックス内の文字列を csv ファイルに保存します。

表 4-13 リストー括取得(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のコントロールを選択してください。
③	ファイル名	取得した情報を保存するファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した取得対象のコントロールを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

リストー括取得(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.11 リスト取得(IE)

IE の指定されたリスト・コンボボックスの文字列またはインデックスを取得します。

表 4-14 リスト取得(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、リスト取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のリスト・コンボボックスを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
⑤	取得結果	値かインデックスを選択し、値またはインデックス値を格納する変数を指定してください。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
リスト取得(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」 の章をご参照ください。

4.12 リスト取得(WIN32)

アプリの指定されたリスト・コンボボックスの文字列またはインデックスを取得します。

表 4-15 リスト取得(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、リスト取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のリスト・コンボボックスを選択してください。
③	取得結果	値かインデックスを選択し、値またはインデックス値を格納する変数を指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した取得対象のリスト・コンボボックスを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
リスト取得(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」 の章をご参照ください。

4.13 リスト選択(IE)

IE の指定された項目を選択します。

表 4-16 リスト選択(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、リスト選択対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、操作対象のリストを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
⑤	選択内容	選択するリスト項目を値かインデックスから選択し、値を指定してください。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
リスト選択(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」 の章をご参照ください。

4.14 リスト選択(WIN32)

アプリの指定された項目を選択します。

表 4-17 リスト選択(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、リスト選択対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、操作対象のリストを選択してください。
③	選択内容	選択するリスト項目を値かインデックスから選択し、値を指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した操作対象のリストを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

リスト選択(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」 の章をご参照ください。

4.15 文字列取得(IE)

IE の指定されたテキストボックスの文字列を取得します。

表 4-18 文字列取得(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、文字列取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のテキストボックスを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
⑤	取得結果	取得した文字列を格納する変数を指定してください。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
文字列取得(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」 の章をご参照ください。

4.16 文字列取得(WIN32)

アプリの指定されたテキストボックスの文字列を取得します。

表 4-19 文字列取得(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、文字列取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のテキストボックスを選択してください。
③	取得結果	取得した文字列を格納する変数を指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した取得対象のテキストボックスを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

文字列取得(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.17 文字列設定(IE)

IE の指定されたテキストボックスに文字列を設定します。

表 4-20 文字列設定(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、文字列設定対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、文字列を設定するテキストボックスを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
⑤	設定値	テキストボックスに設定する文字列を指定してください。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
文字列設定(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.18 文字列設定(WIN32)

アプリの指定されたテキストボックスに文字列を設定します。

表 4-21 文字列設定(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、文字列設定対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、文字列を設定するテキストボックスを選択してください。
③	設定値	テキストボックスに設定する文字列を指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した操作対象のテキストボックスを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

文字列設定(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.19 有効無効状態取得(IE)

IE の指定されたコントロールの有効・無効状態を取得します。

表 4-22 有効無効状態取得(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のコントロールを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
⑤	取得結果	取得した有効無効状態を格納する変数を指定してください。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。

有効無効状態取得(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.20 有効無効状態取得(WIN32)

アプリの指定されたコントロールの有効・無効状態を取得します。

表 4-23 有効無効状態取得(WIN32)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のコントロールを選択してください。
③	取得結果	取得した有効無効状態を格納する変数を指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)	「対象コントロール指定」で指定した取得対象のコントロールを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
有効無効状態取得(WIN32)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(イベントモードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.21 表の値取得(IE)

IE の指定された表の情報を取得します。

表 4-24 表の値取得(IE)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、取得対象のウィンドウを選択してください。
②	対象コントロール指定	的マークのボタンをクリックし、取得対象のコントロールを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)	状態が変化するまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
⑤	処理内容	取得したい情報を選択してください。
⑥	行番号	行番号を指定してください。 (セルの値取得、セルの存在チェックのみ)
⑦	列番号	列番号を指定してください。 (セルの値取得、セルの存在チェックのみ)
⑧	取得結果	「セルの値取得」「セルの存在チェック」「行数取得」「列数取得」の結果を格納する変数を指定してください。
⑨	ファイル名	「表の一括取得」の取得結果を保存する csv ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

注意事項

操作対象のウィンドウによっては使用できない場合があります。
表の値取得(IE)のプロパティの詳細設定タブについては、『WinActor 操作マニュアル』「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」の章をご参照ください。

4.22 Microsoft Edge (Chromium)の IE モードについて

Microsoft Edge (Chromium)(以下、Edge)の IE モードは、Internet Explorer(以下 IE)に特化した Web コンテンツを、Edge でシームレスに表示できるモードです。
Edge の IE モードで表示している際は、Edge の URL 表示の左部分に IE のアイコンが表示されます。

図 4-1 Edge の IE モード

Edge の IE モードの詳細、または Edge の IE モードの設定方法については、Microsoft の公式なドキュメントを参照してください。

4.22.1 Edge の IE モードに対する WinActor の動作

WinActor では、IE を操作するライブラリの実行や WinActor の IE モードでの記録が、Edge の IE モードでの表示に対しても、IE で表示されているものと同様に動作します。

注意事項

(1) 記録モード選択

WinActor のツールバーの記録対象アプリケーション選択ボタンをクリックして、Edge のウィンドウを選択した場合、アクティブなタブの状態によって記録モードは異なります。

- タブが通常の Edge モードであれば、WinActor の記録モードは Edge モードになります
- タブが Edge の IE モードであれば、WinActor の記録モードは IE モードになります

なお、記録モードが設定されてからタブを変更するなど、本来の記録モードと異なる状態から記録を開始しようとすると、「対象のアプリケーションが起動していないか、または記録対象外です。」と表示されて、記録開始エラーとなります。

(2) 対象ウィンドウや対象コントロールが見つからない場合

WinActorは、指定されたウィンドウ識別名が一致したウィンドウで操作を実行します。ノードのプロパティで「対象コントロール指定」が設定されている場合は、ウィンドウ識別名の一致に加えて、指定されたコントロールが存在することを確認します。
IE に対する操作を行うノードで、対象ウィンドウや対象コントロールが見つからない場合、以下のように動作します。

- IE で動作している全てのウィンドウのタブを順に切り替えながら、一致するウィンドウ識別名・対象コントロールを探します
- Edge で動作している全てのウィンドウのタブを順に切り替えながら、Edge の IE モードで動作しているかどうかをチェックし、一致するウィンドウ識別名・対象コントロールを探します

(3) IE と Edge の IE モードのウィンドウ識別名

WinActor のウィンドウ識別名は、IE と Edge の IE モードで共通化されており、どちらも IE として扱われます。IE のウィンドウを WinActor の IE モードで記録したシナリオや、IE 関連ライブラリを使って手動で作成したシナリオを、Edge の IE モードのウィンドウで動作させること、またはその逆も可能です。

5 計算

5.1 カウントダウン

指定した変数の数値をカウントダウンします。

表 5-1 カウントダウンライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	カウンタ	カウントダウン対象の変数名を指定してください。

5.2 剰余演算

剰余を算出します。

表 5-2 剰余演算ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	値	除算する元の値を指定してください。
②	除数	除算する除数を指定してください。
③	答え	変数を指定してください。計算結果が格納されます。

注意事項

整数の剰余のみに対応しています。「値」、「除数」に整数以外の値が指定された状態でシナリオ実行するとエラーとなります。

5.3 税込金額計算

税抜き金額から税込み金額を計算します。

表 5-3 税込金額計算ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	金額(税抜)	税抜き金額を指定してください。
②	税率(%)	税率を指定してください。(例)消費税 8%の場合、[値⇒8]を指定。
③	税込み金額	計算結果の税込み金額を格納する変数を指定してください。

5.4 通貨型四則演算

四則演算を行います。
通貨型に変換したのちに計算を行うため、計算時の丸めによる誤差が生じません。
整数部分は 15 桁まで、小数部分は 4 桁までの精度を保証するため、金融機関等の通貨計算に有効です。

例）
通常の四則演算…（1 / 3）* 3 = 0
通貨型四則演算…（1 / 3）* 3 = 0.9999

表 5-4 通貨型四則演算ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	結果	計算結果を格納する変数を指定してください。
②	入力 1	演算する値を指定してください。
③	演算子	「+」「-」「*」「/」「%」のいずれから選択します。 「+」を選択した場合、加算を行います。 「-」を選択した場合、減算を行います。 「*」を選択した場合、乗算を行います。 「/」を選択した場合、除算を行います。 「%」を選択した場合、剰余を計算します。※結果は整数に丸められます。
④	入力 2	演算する値を指定してください。

注意事項

「入力 1」、「入力 2」は通貨型の整数と小数のみに対応しています。「入力 1」、「入力 2」に通貨型の整数、または小数以外の値が指定された状態でシナリオ実行するとエラーとなります。
また、「演算子」は特定の半角記号のみに対応しています。対応している半角記号以外の値、または全角記号が指定された状態でシナリオ実行するとエラーとなります。

6 文字列比較

6.1 前方一致比較

文字列の前方一致条件で分岐を行います。

本ライブラリは 1 つのノードと 1 つのライブラリから構成されています。

ノード:

・分岐グループ

ライブラリ:

・比較実行(前方一致)

本ライブラリをフローチャートに追加時、自動的に変数「比較結果(前方一致)」が追加されます。

ライブラリ「比較実行(前方一致)」で指定した文字列の前方一致比較を実施し、結果を変数「比較結果(前方一致)」に格納します。

ノード「分岐グループ」で変数「比較結果(前方一致)」の結果が True の場合は左側 True、False の場合は右側 False に配置された処理を実行します。一致した場合に実行したい処理を分岐グループの左側 True に、一致しなかった場合に実行したい処理を分岐グループの右側 False に配置してください。

「分岐グループ」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『分岐』の章を参照してください。

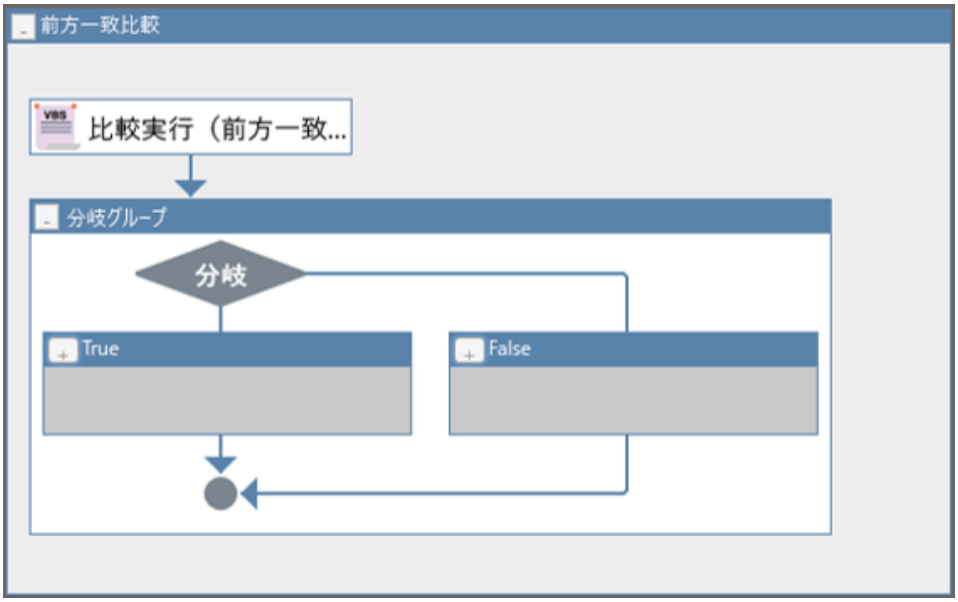


図 6-1 前方一致比較ライブラリ

表 6-1 前方一致比較／比較実行(前方一致)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	比較文字列	比較対象の文字列を指定してください。
②	前方一致文字列	前方一致比較する文字列を指定してください。
③	結果	比較結果を格納する変数を指定してください。

6.2 後方一致比較

文字列の後方一致条件で分岐を行います。

本ライブラリは 1 つのノードと 1 つのライブラリから構成されています。

ノード:

・分岐グループ

ライブラリ:

・比較実行(後方一致)

本ライブラリをフローチャートに追加時、自動的に変数「比較結果(後方一致)」が追加されます。

ライブラリ「比較実行(後方一致)」で指定した文字列の後方一致比較を実施し、結果を変数「比較結果(後方一致)」に格納します。

ノード「分岐グループ」で変数「比較結果(後方一致)」の結果が True の場合は左側 True、False の場合は右側 False に配置された処理を実行します。一致した場合に実行したい処理を分岐グループの左側 True に、一致しなかった場合に実行したい処理を分岐グループの右側 False に配置してください。

「分岐グループ」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『分岐』の章を参照してください。

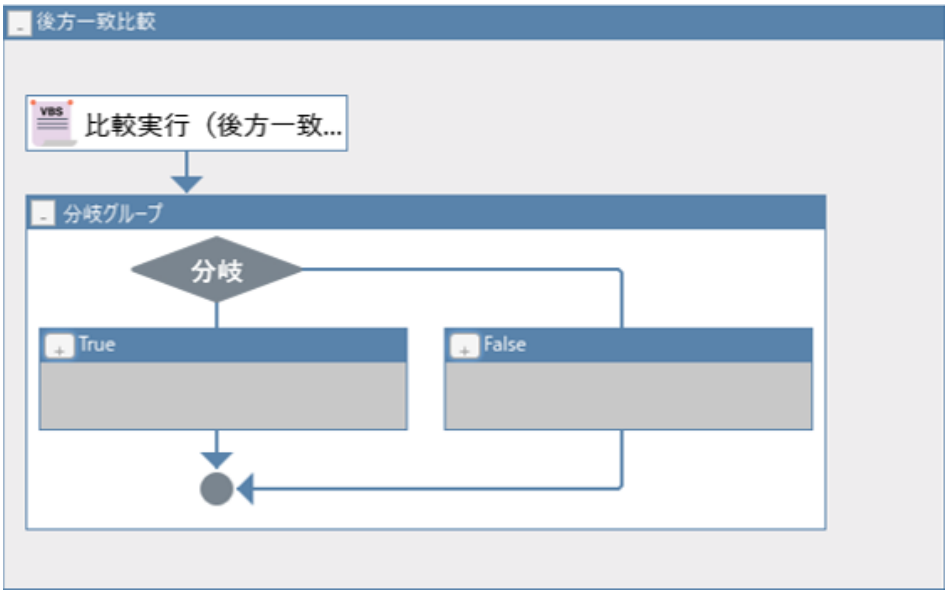


図 6-2 後方一致比較ライブラリ

表 6-2 後方一致比較／比較実行(後方一致)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	比較文字列	比較対象の文字列を指定してください。
②	後方一致文字列	後方一致比較する文字列を指定してください。
③	結果	比較結果を格納する変数を指定してください。

6.3 数値大小比較(Dbl 精度)

Dbl 精度で数値を比較します。

例)
数値 1 → 100 , 数値 2 → 100 … 比較結果は 0 になります。
数値 1 → 200 , 数値 2 → 100 … 比較結果は 1 になります。
数値 1 → 100 , 数値 2 → 200 … 比較結果は -1 になります。

表 6-3 数値大小比較(Dbl 精度)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	数値 1	比較する数値を指定してください。
②	数値 2	比較する数値を指定してください。
③	比較結果	比較結果を格納する変数を指定してください。 数値 1 ＝ 数値 2 … 比較結果に 0 が格納されます。 数値 1 ＞ 数値 2 … 比較結果に 1 が格納されます。 数値 1 ＜ 数値 2 … 比較結果に -1 が格納されます。

6.4 文字列比較

文字列の比較を行います。(バイナリモード)

例)
文字列 1 → ABCD , 文字列 2 → ABCD … 比較結果は 0 になります。
文字列 1 → abcd , 文字列 2 → ABCD … 比較結果は 1 になります。
文字列 1 → ABCD , 文字列 2 → abcd … 比較結果は -1 になります。

表 6-4 文字列比較ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列 1	比較する文字列を指定してください。
②	文字列 2	比較する文字列を指定してください。
③	比較結果	比較結果を格納する変数を指定してください。 文字列 1 ＝ 文字列 2 … 比較結果に 0 が格納されます。 文字列 1 ＞ 文字列 2 … 比較結果に 1 が格納されます。 文字列 1 ＜ 文字列 2 … 比較結果に -1 が格納されます。

6.5 正規表現(文字列存在確認)

指定した文字列に対して正規表現を用いた検索を行い、検索結果と該当件数を取得します。
本ライブラリの正規表現処理は Python 標準ライブラリの re モジュールを用いて実現します。

表 6-5 正規表現(文字列存在確認)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列	対象の文字列を指定してください。
②	正規表現パターン	正規表現パターンを指定してください。 正規表現パターンは、Python 標準ライブラリの re モジュールの仕様に従って指定してください。 (例) abcdefg 以外の文字が存在するか検索する場合 文字列:abcidefg 正規表現パターン:[^a-g] ⇒検索結果:True
③	大文字小文字の区別	大文字小文字の区別をするかしないかを指定してください。
④	全体検索	全体検索をするかしないかを指定してください。
⑤	文字列の行数	複数行として扱うか単一行として扱うかを指定してください。
⑥	検索結果	検索結果を格納する変数名を指定してください。 正規表現パターンに該当する箇所が 1 つ以上ある場合は True、ない場合は False が変数に格納されます。
⑦	件数	正規表現パターンに該当した件数を格納する変数名を指定してください。

6.6 部分一致比較

文字列の部分一致条件で分岐を行います。

本ライブラリは 1 つのノードと 1 つのライブラリから構成されています。

ノード:

・分岐グループ

ライブラリ:

・比較実行(部分一致)

本ライブラリをフローチャートに追加時、自動的に変数「比較結果(部分一致)」が追加されます。

ライブラリ「比較実行(部分一致)」で指定した文字列の部分一致比較を実施し、結果を変数「比較結果(部分一致)」に格納します。

ノード「分岐グループ」で変数「比較結果(部分一致)」の結果が True の場合は左側 True、False の場合は右側 False に配置された処理を実行します。一致した場合に実行したい処理を分岐グループの左側 True に、一致しなかった場合に実行したい処理を分岐グループの右側 False に配置してください。

「分岐グループ」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『分岐』の章を参照してください。

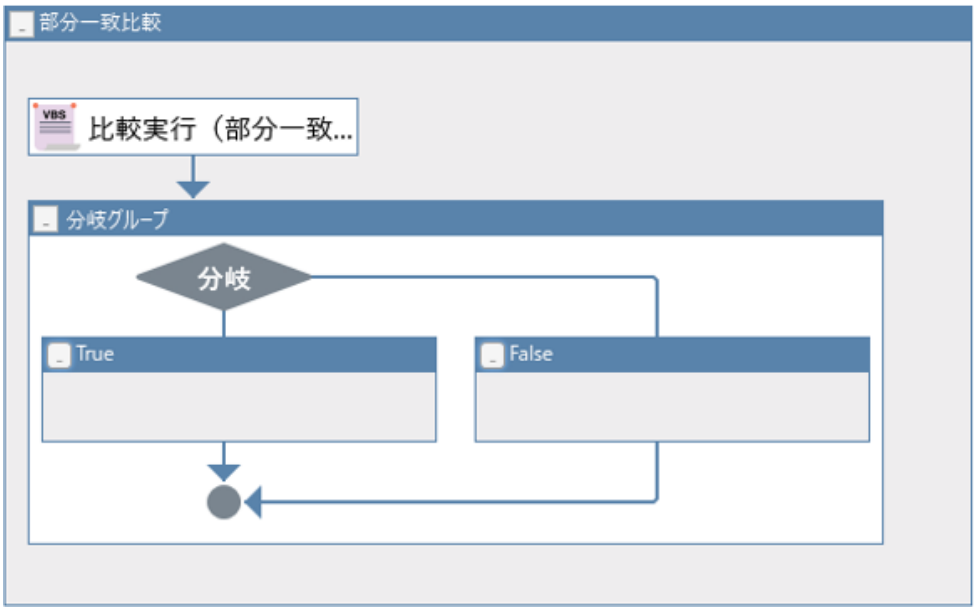


図 6-3 部分一致比較ライブラリ

表 6-6 部分一致比較／比較実行（部分一致）ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	比較文字列	比較対象の文字列を指定してください。
②	部分一致文字列	部分一致比較する文字列を指定してください。
③	結果	比較結果を格納する変数を指定してください。

7 文字列操作

7.1 変換・整形

7.1.1 トリミング

指定された文字列の先頭と末尾の空白を削除します。

表 7-1 トリミングライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列	文字列を指定してください。
②	削除後文字列	トリミング後の文字列を格納する変数を指定してください。
③	オプション	トリミング後に行う処理を選択してください。 “トリミングのみ”を選択した場合、処理は行われません。 “改行を除去する”を選択した場合、改行文字が削除されます。

7.1.2 不要な 0 を除去(整数)

数値形式で不要な 0 を除去します。整数のみが対象です。

表 7-2 不要な 0 を除去(整数)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変換前数値	変換前の値を指定してください。
②	変換後数値	変換後の結果を格納する変数を指定してください。 例）00100 → 100

7.1.3 大文字化／小文字化

英字を大文字、または小文字に変換します。

表 7-3 大文字化／小文字化ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変換前	英字の文字列を指定してください。
②	大文字化／ 小文字化	”大文字化”または”小文字化”のいずれかを選択してください。 ”大文字化”を選択した場合、指定された英字を大文字に変換します。 ”小文字化” を選択した場合、指定された英字を小文字に変換します。
③	変換後	変換後の文字列を格納する変数を指定してください。 ②で大文字を選択した場合 例）aaａａ → AAＡＡ ②で小文字を選択した場合 例）AAＡＡ → aaａａ

7.1.4 小書き文字変換

指定された文字列の小書き文字を変換します。

表 7-4 小書き文字変換ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変換前	小書きの文字列を指定してください。
②	変換後	変換された文字列を格納する変数を指定してください。 例）あいうえおつやゆよわアイウエオツヤユヨワカケ ↓ あいうえおつやゆよわアイウエオツヤユヨワカケ

7.1.5 括弧書きの内側を取り出す

文字列中の括弧書きの内側を取り出します。
取り出せる文字列は最初の「(」とそれ以降の最初の「)」の間になります。

表 7-5 括弧書きの内側を取り出すライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	対象文字列	取り出す文字列を指定してください。
②	開きかっこ	開きかっこ文字列を指定してください。
③	閉じかっこ	閉じかっこ文字列を指定してください。
④	結果	かっこの内側の文字列を格納する変数を指定してください。 例） "あああ(内側)"→"内側"

7.1.6 改行コード追加

指定された文字列の末尾に改行コード CRLF(¥r¥n)を追加します。

表 7-6 改行コード追加ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	結果	改行コード追加後の文字列を格納する変数を指定してください。
②	入力文字列	改行コードを追加したい文字列を指定してください。

7.1.7 数値の桁数合わせ(ゼロパディング)

対象の整数値の左に、指定した桁数までゼロを追加します。

表 7-7 数値の桁数合わせ(ゼロパディング)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	数値	対象の整数値を指定してください。
②	桁数	実行結果の桁数を指定してください。 桁数は、数値の桁数よりも大きい値を設定してください。
③	格納先変数	実行結果を格納する変数を指定してください。

7.1.8 文字列置換

文字列を置換することができます。

「変換文字列」に指定した文字列から「置換前」の文字列を検索して、「置換後」の文字列に置き換えます。

表 7-8 文字列置換ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変換文字列	置換を行う文字列を指定してください。
②	置換前	検索する文字列を指定してください。
③	置換後	置換する文字列を指定してください。

注意事項

置換前の文字列が見つからない場合、元の文字列のままとなります。

変換文字列から特定の文字列を消去していきたい場合は、置換前に消去したい文字、置換後は空で指定します。

7.1.9 正規表現(文字列置換)

指定した文字列に対して正規表現を用いた検索を行い、該当した箇所を置換文字列で置換した結果を取得します。
本ライブラリの正規表現処理は Python 標準ライブラリの re モジュールを用いて実現します。

表 7-9 正規表現(文字列置換)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列	対象の文字列を指定してください。
②	正規表現パターン	正規表現パターンを指定してください。 正規表現パターンは、Python 標準ライブラリの re モジュールの仕様に従って指定してください。 (例) 数字を「,」に置換する場合 文字列:ab1cd2ef3g 正規表現パターン:[0-9] 置換文字列:, ⇒結果:ab,cd,ef,g
③	置換文字列	置換文字列を指定してください。
④	大文字小文字の区別	大文字小文字の区別をするかしないかを指定してください。
⑤	全体検索	全体検索をするかしないかを指定してください。
⑥	文字列の行数	複数行として扱うか単一行として扱うかを指定してください。
⑦	置換結果	置換結果を格納する変数を指定してください。 正規表現パターンに該当しない場合は、文字列がそのまま結果に格納されます。

7.2 切り出し・分割

7.2.1 文字列を前後に分割

指定された「区切文字列」で文字列を前後に分割します。

表 7-10 文字列を前後に分割ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	分割元文字列	分割する文字列を指定してください。
②	区切文字列	分割箇所を指定する文字列を指定してください。
③	前	区切り文字より前の値を格納する変数を指定してください。
④	後	区切り文字より後の値を格納する変数を指定してください。

注意事項

「分割元文字列」中に指定された「区切文字列」が複数含まれる場合は、
最初に見つかった「区切文字列」の前後で分割します。

7.2.2 文字列を3つに分割

分割元文字列を「区切文字列」で指定した位置で3つに分割します。

表 7-11 文字列を3つに分割ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	分割元文字列	分割を行う文字列を指定してください。
②	区切文字列	分割箇所を指定する文字列を指定してください。
③	分割文字列 1	1つ目の「区切文字列」より前の値を格納する変数を指定してください。
④	分割文字列 2	1つ目と2つ目の「区切文字列」の間の値を格納する変数を指定してください。
⑤	分割文字列 3	2つ目の「区切文字列」より後（3つ目の「区切文字列」まで）の値が格納されます。

7.2.3 文字列分割

「分割元文字列」を「区切文字列」で分割します。分割結果より何番目の情報を読み取るかを「インデックス」で指定します。読み取り結果を「分割文字列」に格納します。いくつの要素に分割できたかを「分割サイズ」に格納します。

例）■ 入力値　分割元文字列：a,b,c,d,e,f,g　区切文字列　：,
　　インデックス：2　※0 から始まる数値を指定してください。
　■ 取得結果　分割文字列：c　分割サイズ：7

表 7-12 文字列分割ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	分割元文字列	分割を行う文字列を指定してください。
②	区切文字列	分割箇所を指定する文字列を指定してください。
③	インデックス	分割結果より何番目の情報を読み取るかを指定してください。
④	分割文字列	変数を指定してください。分割結果の文字列が設定されます。
⑤	分割サイズ	変数を指定してください。分割結果の配列のサイズが設定されます。

7.2.4 文字列切り出し(先頭何文字分)

文字列の先頭から指定された文字数分切り出します。

表 7-13 文字列切り出し(先頭何文字分)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	切り出し元文字列	切り出し対象の文字列を指定してください。
②	切り出し文字数	切り出す文字数を指定してください。
③	切り出し文字	切り出した文字列を格納する変数を指定してください。

7.2.5 文字列切り出し(後方何文字分)

文字列の後方から指定された文字数分切り出します。

表 7-14 文字列切り出し(後方何文字分)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	切り出し元文字列	切り出し対象の文字列を指定してください。
②	切り出し文字数	切り出す文字数を指定してください。
③	切り出し文字	切り出した文字列を格納する変数を指定してください。

7.2.6 文字列切り出し(途中文字)

文字列の指定された位置から文字数分切り出します。

表 7-15 文字列切り出し(途中文字)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	切り出し元文字列	切り出し対象の文字列を指定してください。
②	切り出し開始位置	文字を切り出す開始位置を指定してください。(1～)
③	切り出し文字数	切り出す文字数を指定してください。
④	切り出し文字	切り出した文字列を格納する変数を指定してください。

7.2.7 文字列削除

「元文字列」の先頭もしくは末尾から指定文字数分の文字を削除します。

表 7-16 文字列削除ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	元文字列	文字列を指定してください。
②	削除位置	「前」または「後」から選択します。 「前」を選択した場合、文字列の先頭から削除を行います。 「後」を選択した場合、文字列の末尾から削除を行います。
③	削除文字数	文字数を指定してください。(1～)
④	削除結果	削除後の文字列情報を格納する変数を指定してください。

7.2.8 正規表現(文字列抽出)

指定した文字列に対して正規表現を用いた検索を行い、該当箇所を抽出します。

(例)
「a」を除く 3 番目の文字を抽出する場合
文字列:abadefahi
正規表現パターン:[^a]
インデックス:3
⇒抽出位置:5、抽出結果:e

表 7-17 正規表現(文字列抽出)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列	対象の文字列を指定してください。
②	正規表現パターン	正規表現パターンを指定してください。 正規表現パターンは、Python 標準ライブラリの re モジュールの仕様に従って指定してください。
③	大文字小文字の区別	大文字と小文字を区別する場合は True、区別しない場合は False を選択してください。
④	複数行	文字列を複数行として扱う場合は True、扱わない場合には False を選択してください。
⑤	インデックス	正規表現パターンに該当した箇所のうち抽出したい位置を、1 以上の整数で指定してください。
⑥	抽出位置	抽出結果の文字位置を格納する変数を設定してください。 制御文字も 1 文字としてカウントされます。 例えばタブ文字は 1 文字、改行コードは 2 文字としてカウントされます。
⑦	抽出結果	抽出した文字列を格納する変数を設定してください。 該当する文字列がない場合は、空白が格納されます。

7.3 連結

7.3.1 文字列の連結(2つ)

2つの文字列を連結します。

表 7-18 文字列の連結(2つ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列 1	前方から1番目に連結する文字列を指定してください。
②	文字列 2	前方から2番目に連結する文字列を指定してください。
③	連結結果	連結した文字列を格納する変数を指定してください。

7.3.2 文字列の連結(3つ)

3つの文字列を連結します。

表 7-19 文字列の連結(3つ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列 1	前方から1番目に連結する文字列を指定してください。
②	文字列 2	前方から2番目に連結する文字列を指定してください。
③	文字列 3	前方から3番目に連結する文字列を指定してください。
④	連結結果	連結した文字列を格納する変数を指定してください。

7.3.3 文字列の連結(4つ)

4つの文字列を連結します。

表 7-20 文字列の連結(4つ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列 1	前方から1番目に連結する文字列を指定してください。
②	文字列 2	前方から2番目に連結する文字列を指定してください。
③	文字列 3	前方から3番目に連結する文字列を指定してください。
④	文字列 4	前方から4番目に連結する文字列を指定してください。
⑤	連結結果	連結した文字列を格納する変数を指定してください。

7.3.4 文字列の連結(5つ)

5つの文字列を連結します。

表 7-21 文字列の連結(5つ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	文字列 1	前方から1番目に連結する文字列を指定してください。
②	文字列 2	前方から2番目に連結する文字列を指定してください。
③	文字列 3	前方から3番目に連結する文字列を指定してください。
④	文字列 4	前方から4番目に連結する文字列を指定してください。
⑤	文字列 5	前方から5番目に連結する文字列を指定してください。
⑥	連結結果	連結した文字列を格納する変数を指定してください。

7.4 数値に関する変換

7.4.1 10 進数を N 進数に変換

10 進数を 2 進数または 8 進数、16 進数に変換します。

表 7-22 10 進数を N 進数に変換ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変換前数値	変換対象の 10 進数を指定してください。
②	変換後進数	「2」、「8」、「16」のいずれから選択します。 「2」を選択した場合、2 進数へ変換を行います。 「8」を選択した場合、8 進数へ変換を行います。 「16」を選択した場合、16 進数へ変換を行います。
③	変換後数値	変換後の値を格納する変数を指定してください。

7.4.2 16 進数を 10 進数に変換

16 進数を 10 進数に変換します。

表 7-23 16 進数を 10 進数に変換ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変換前	変換前の数値(16 進数)を指定してください。
②	変換後数値	変換後の値を格納する変数を指定してください。

7.4.3 数値の書式変換

数値を指定された書式に変換します。

表 7-24 数値の書式変換ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変換前数値	変換対象の数値を指定してください。
②	小数点以下の桁数	小数点以下の桁数を指定してください。
③	ゼロ表示有無	「無し」または「有り」から選択します。 「無し」を選択した場合、小数点の左側のゼロを表示しません。 「有り」を選択した場合、小数点の左側のゼロを表示します。
④	区切り文字有無	「無し」または「有り」から選択します。 「無し」を選択した場合、数値の区切り文字を表示しません。 「有り」を選択した場合、数値の区切り文字を表示します。
⑤	変換後数値	変換後の値を格納する変数を指定してください。

8 日付関連

8.1 n 時間後の時刻計算

指定された時刻を基準としてn時間後の時刻を求めます。

Windows の"地域と言語のプロパティの時刻(長い形式)"に表示されている形式で結果を取得します。

表 8-1 n 時間後の時刻計算ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	基準時刻	時刻計算を行う基準となる時刻を指定してください。(h:mm:ss)
②	時間差	求めたい時刻の時間差を指定してください。 小数点以下は切り捨てになります。
③	結果格納先	結果を格納する変数を指定してください。

8.2 平日・休日判定

指定した日付の曜日と、定休日と祝日情報ファイルをもとに平日・休日を判定します。

表 8-2 平日・休日判定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	日付	判定する日付を指定してください。 (例)2019/04/01
②	定休日	定休日の曜日を指定してください。 (例 1)水金 (例 2)土、日、水 ※火曜日と指定した場合、日曜も定休日対象になります。
③	祝日情報ファイル名	祝日情報が記載されたファイルをシナリオファイルと同じディレクトリに配置し、 ファイル名を指定してください。 (例)syukujitsu.csv
④	曜日	日付で指定した曜日を格納する変数を指定してください。
⑤	平日・休日	平日・休日を判定した結果を格納する変数を指定してください。

8.2.1 祝日情報ファイルの定義

祝日情報ファイルは、以下のヘッダで定義された CSV ファイルが対象になります。

国民の祝日・休日月日,国民の祝日・休日名称

※内閣府から配布されているファイルと同等です。

8.3 年月日時分秒取得(yyyymmddhhmmss)

yyyymmddhhmmss の書式で年月日時分秒を取得します。
年月日時分秒のみを取得する場合、接頭辞、接尾辞を空白で指定してください。
【入力例】
実行日時:20191126095520
接頭辞:指定なし
接尾辞:_サンプル.txt
格納先変数:20191126095520_サンプル.txt

表 8-3 年月日時分秒取得(yyyymmddhhmmss)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	接頭辞	接頭辞を指定してください。
②	接尾辞	接尾辞を指定してください。
③	格納先変数	取得した値を格納する変数を指定してください。

8.4 日付分割

yyyy/mm/dd 形式の日付を年,月,日それぞれに分割します。

表 8-4 日付分割ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	日付(yyyy/mm/dd)	分割対象の日付を指定してください。
②	年	年（yyyy の部分）を格納する変数を指定してください。
③	月	月（mm の部分）を格納する変数を指定してください。
④	日	日（dd の部分）を格納する変数を指定してください。

8.5 日付取得(指定した年・月の最終日)

指定した年・月の最終日を取得します。

※yyyy/mm/dd の形式で取得します。

※100 年 1 月～9999 年 12 月の範囲で入力が可能です。

表 8-5 日付取得(指定した年・月の最終日)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	年	対象の年を指定してください。
②	月	対象の月を指定してください。
③	格納先変数	取得した値を格納する変数を指定してください。

8.6 日付取得(yyyymmdd)

当日の日付を yyyymmdd 形式で指定の変数に設定します。

表 8-6 日付取得(yyyymmdd)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	日付取得結果	取得した「日付」を格納する変数を指定してください。

8.7 日付取得(書式指定)

当日の日付を指定された書式で取得します。
「フォーマット」には日付を示す文字と、「区切り文字」に設定した文字以外使用できません。

表 8-7 日付取得(書式指定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォーマット	取得する日付の書式を指定してください。 yyyy:年 西暦 4 桁形式 yy :年 西暦の下 2 桁形式 mm :月 2 桁形式 m :月 1～2 桁形式(先頭 0 埋めなし) dd :日 2 桁形式 d :日 1～2 桁形式(先頭 0 埋めなし)
②	区切り文字	年月日の区切り文字を指定してください。
③	結果格納先	変数を指定してください。書式変更した日付が格納されます。

8.8 日付取得(西暦年のみ／月のみ／日のみ)

西暦4桁年のみ／西暦2桁年のみ／月のみ／日のみを指定して日付取得します。

表 8-8 日付取得(西暦年のみ／月のみ／日のみ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォーマット	取得したい日付のフォーマットを指定してください。 "西暦4桁年のみ"を選択した場合、実行時の西暦を 4 桁で取得します。 "西暦2桁年のみ"を選択した場合、実行時の西暦を 2 桁で取得します。 "月のみ"を選択した場合、実行時の月を取得します。 "日"を選択した場合、実行時の日を取得します。
②	パディング	パディング形式を指定してください。 パディングを空にした場合、1 2 3 ... 10 11 12 の形式 パディングを 0 にした場合、01 02 03 ... 10 11 12 の形式 パディングを-にした場合、-1 -2 -3 ... 10 11 12 の形式
③	日付取得結果	取得した「西暦4桁年のみ／西暦2桁年のみ／月のみ／日のみ」の値を格納する変数を指定してください。

8.9 日付差計算

2 つの指定された日付間の差分日数を求めます。

表 8-9 日付差計算ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	基準日	比較の基準となる日付を指定してください。 例:2014/1/1、14/01/01、1/1、2014 年 1 月 1 日、1 月 1 日
②	比較日	比較対象の日付を指定してください。 ※基準日が比較日よりも後の日付の場合はーの値が取得されます。 例:2014/1/1、14/01/01、1/1、2014 年 1 月 1 日、1 月 1 日
③	結果格納先	日付間の差分日数を格納する変数を指定してください。

8.10 日付書式変換

指定された日付をフォーマット文字列に書式変更します。

表 8-10 日付書式変換ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	指定日付	変換を行う日付を指定してください。 例:2014/1/1、14/01/01、1/1、2014 年 1 月 1 日、1 月 1 日
②	フォーマット	変換する書式を指定してください。 yyyy:年 西暦 4 桁形式 yy :年 西暦の下 2 桁形式 mm :月 2 桁形式 m :月 1～2 桁形式(先頭 0 埋めなし) dd :日 2 桁形式 d :日 1～2 桁形式(先頭 0 埋めなし) ※例えば、指定日付を「2014/01/20」、フォーマットを「d.m.yyyy」と指定した場合は、「20.1.2014」が取得されます。
③	結果格納先	書式変更した日付を格納する変数を指定してください。

8.11 日付計算(n 年後／n 月後／n 日後)

指定された日付を基準として、n 年後／n 月後／n 日後の日付を求めます。

表 8-11 日付計算(n 年後／n 月後／n 日後)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	基準日	計算を行う基準となる日付を指定してください。 例:2014/1/1、14/01/01、1/1、2014 年 1 月 1 日、1 月 1 日
②	差分n	求めたい日付の年数差、または、月数差、日数差。
③	単位	差分を計算する際の単位を指定してください。 ”年後”を選択した場合、基準日から指定した差分 n 年後の日付を計算します。 ”月後”を選択した場合、基準日から指定した差分 n 月後の日付を計算します。 ”日後”を選択した場合、基準日から指定した差分 n 日後の日付を計算します。
④	結果格納先	基準日から計算された日付を格納する変数を指定してください。 出力フォーマット:yyyy/mm/dd 例:2014/01/01

注意事項

閏年では、例えば「2016/2/29」の 2 年後は「2018/02/28」になります。
「2016/2/28」の 2 日後は「2016/03/01」ですが、「2018/2/28」の 2 日後は「2018/03/02」となります。

8.12 時間差取得

2つの指定された時間の差分を求めます。
基準時間が比較時間よりも後の時間の場合はマイナスの値が取得されます。
時間は「hh:mm:ss」形式で指定してください。23:59:59 を超えた指定はエラーとなります。

表 8-12 時間差取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	設定値	比較の単位を選択してください。(時、分、秒)
②	基準時間	比較の基準となる時間を指定してください。
③	比較時間	比較対象の時間を指定してください。
④	格納先変数	取得した値を格納する変数を指定してください。

8.13 曜日判定

指定された日付の曜日を求めます。

表 8-13 曜日判定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	日付	曜日を取得したい日付を指定してください。 例:2014/1/1、14/01/01、1/1、2014 年 1 月 1 日、1 月 1 日
②	曜日判定結果	取得した曜日を格納する変数を指定してください。 月曜日の場合、「月」となります。

9 待機

9.1 指定時間待機(変数指定可)

待機時間を変数で指定することができます。

表 9-1 指定時間待機(変数指定可)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	待機時間(ミリ秒)	待機する時間を指定してください。

10 ダイアログ

10.1 Yes・No 待機ボックス(Java)

Yes/No の待機ボックスを表示します。

表 10-1Yes・No 待機ボックス(Java)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	メッセージ	メッセージを指定してください。
②	結果	選択されたボタン(Yes/No)を格納する変数を指定してください。 選択されたボタンが「はい」なら「OK」、「いいえ」なら「No」が格納されます。 ×ボタンで閉じた場合は、空となります。

10.2 Yes・No 待機ボックス(Java 詳細)

Yes/No の待機ボックスを表示します。

表 10-2 Yes・No 待機ボックス(Java 詳細)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	幅	ダイアログの幅を指定してください。
②	高さ	ダイアログの高さを指定してください。
③	メッセージ	メッセージを指定してください。
④	フォントサイズ	フォントサイズを指定してください。
⑤	フォントカラー	ダイアログのメッセージのフォント色を指定してください。 HTML のカラーネームと同様の値を指定してください。
⑥	背景色	ダイアログの背景色を指定してください。 HTML のカラーネームと同様の値を指定してください。
⑦	結果	選択されたボタン(Yes/No)を格納する変数を指定してください。 選択されたボタンが「はい」なら「OK」、「いいえ」なら「No」が格納されます。 ×ボタンで閉じた場合は、空となります。

10.3 Yes・No 待機ボックス(Python)

Yes・No 待機ボックスを表示します。

表 10-3 Yes・No 待機ボックス(Python)ライブラリ設定項目

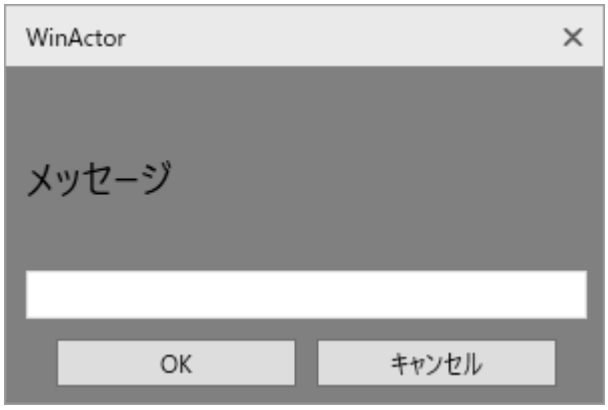
No.	項目	内容
①	表示メッセージ	表示メッセージを指定してください。
②	タイトル	タイトルを指定してください。
③	結果	選択されたボタン(はい/いいえ)を格納する変数を指定してください。

10.4 オリジナルインプットボックス(詳細)

文字サイズ、背景色、サイズ指定できるダイアログを表示します。ユーザがテキストボックスに指定した値を変数値に取得することができます。

表 10-4 オリジナルインプットボックス(詳細)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	幅	ダイアログの幅を数値で指定してください。
②	高さ	ダイアログの高さを数値で指定してください。
③	メッセージ	ダイアログに表示するメッセージを指定してください。
④	フォントサイズ	ダイアログに表示するメッセージのフォントサイズを指定してください。(1～)
⑤	フォントカラー	ダイアログのメッセージのフォント色を指定してください。 HTML のカラーネームと同様の値を指定してください。
⑥	背景色	ダイアログの背景色を指定してください。 HTML のカラーネームと同様の値を指定してください。
⑦	結果	指定した値を格納する変数を指定してください。



ダイアログの幅:300 ダイアログの高さ:200 メッセージ:メッセージ
フォントサイズ:20 フォントカラー:black 背景色:gray

図 10-1 オリジナルインプットボックス

注意事項

キャンセルボタン、×ボタンをクリックした場合、「結果」に設定されている値がクリアされます。

10.5 オリジナルインプットボックス

ユーザがテキストボックスに指定した値を変数値に取得することができます。

表 10-5 オリジナルインプットボックスライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	メッセージ	ダイアログに表示するメッセージを指定してください。
②	結果	指定した値を格納する変数を指定してください。

注意事項

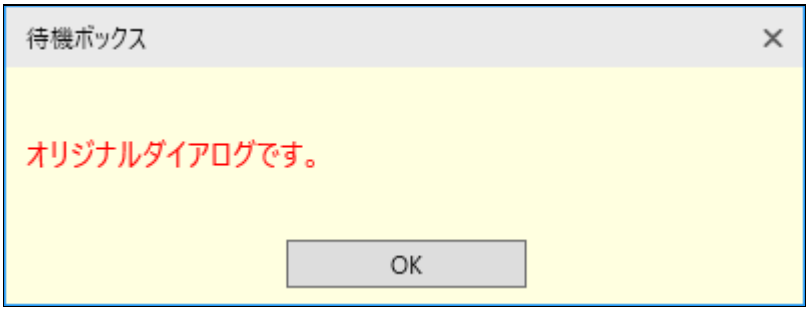
キャンセルボタン、×ボタンをクリックした場合、「結果」に設定されている値がクリアされます。

10.6 オリジナル待機ボックス

文字サイズ、背景色、サイズ指定できるダイアログを表示します。

表 10-6 オリジナル待機ボックスライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	幅	ダイアログの幅を数値で指定してください。
②	高さ	ダイアログの高さを数値で指定してください。
③	メッセージ	ダイアログに表示するメッセージを指定してください。
④	フォントサイズ	ダイアログに表示するメッセージのフォントサイズを指定してください。
⑤	フォントカラー	ダイアログのメッセージのフォント色を指定してください。 HTML のカラーネームと同様の値を指定してください。
⑥	背景色	ダイアログの背景色を指定してください。 HTML のカラーネームと同様の値を指定してください。
⑦	結果	結果を格納する変数を指定してください。 OK ボタンをクリックされた場合、「OK」が設定されます。



ダイアログの幅:400　ダイアログの高さ:150
メッセージ:オリジナルダイアログです。　フォントサイズ:15
フォントカラー:red　背景色:lightyellow

図 10-2 オリジナル待機ボックス

10.7 パスワードインプットボックス

ユーザによるキー入力をマスクするインプットボックスを表示します。

表 10-7 パスワードインプットボックスライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	タイトル	インプットボックスのタイトルを指定してください。
②	メッセージ	インプットボックスに表示されるメッセージを指定してください。
③	結果	インプットボックスに指定した値を格納する変数を指定してください。

注意事項

キャンセルボタン、×ボタンをクリックした場合、「結果」に設定されている値がクリアされます。

インプットボックスに指定した値は変数一覧に表示され、他のユーザに指定した値が見えてしまいます。これを回避したい場合は、「3.3 暗号化復号」を参考に指定値を暗号化してください。

10.8 ファイル選択ボックス(Java)

ユーザがファイルの指定を行うことができるダイアログボックスを表示します。

表 10-8 ファイル選択ボックス(Java)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	拡張子	選択するファイルの拡張子を指定してください。
②	ファイル選択結果	ファイルのパスを格納する変数を指定してください。

10.9 フォルダ選択ボックス(Java)

ユーザがフォルダの指定を行うことができるダイアログボックスを表示します。

表 10-9 フォルダ選択ボックス(Java)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ選択結果	フォルダのパスを格納する変数を指定してください。

10.10 フォルダ選択ボックス(Win)

ユーザがフォルダの指定を行うことができるダイアログボックスを表示します。

表 10-10 フォルダ選択ボックス(Win)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダパス格納先	フォルダのパスを格納する変数を指定してください。

10.11 待機ボックス(タイムアウト付き)

指定時間経過後、自動的に閉じる待機ボックスです。
OK ボタンをクリックされた場合、指定時間経過前に待機ボックスを閉じます。

表 10-11 待機ボックス(タイムアウト付き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	表示メッセージ	待機ボックスに表示するメッセージを指定してください。
②	タイムアウト(秒)	待機ボックスを表示している時間を指定してください。

注意事項

待機ボックス表示中にシナリオ停止ボタンを押下した場合、待機ボックスはそのまま表示されたままとなります。

10.12 待機ボックス(位置指定可)

位置を指定して待機ボックスを表示します。

表 10-12 待機ボックス(位置指定可)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	x 座標	待機ボックスを表示する X 座標を指定してください。
②	y 座標	待機ボックスを表示する Y 座標を指定してください。
③	メッセージ	待機ボックスに表示するメッセージを指定してください。
④	結果	結果を格納する変数を指定してください。 OK ボタンをクリックされた場合、「OK」が設定されます。

11 ウィンドウ関連

11.1 ウィンドウの表示変更

ウィンドウ識別名で指定したウィンドウの表示状態を変更します。

表 11-1 ウィンドウの表示変更ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	表示状態	変更する表示状態を選択してください。 “通常表示”を選択した場合、ウィンドウを通常表示します。 最大化、最小化されていた場合は元の表示位置、サイズに戻します。 “最大化” を選択した場合、ウィンドウを最大化します。 “最小化” を選択した場合、ウィンドウを最小化します。
②	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、表示状態を変更したいウィンドウを選択してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
④	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

11.2 ウィンドウを閉じる

ウィンドウ識別名で指定した画面を閉じます。

表 11-2 ウィンドウを閉じるライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、閉じたいウィンドウを選択してください。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

11.3 ウィンドウハンドル取得

ウィンドウ識別名で指定したウィンドウのハンドルを取得します。

表 11-3 ウィンドウハンドル取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、ハンドルを取得したいウィンドウを選択してください。
②	ウィンドウハンドル	取得したウィンドウハンドルを格納する変数を指定してください

No.	項目	内容
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

11.4 ウィンドウの前面化

ウィンドウ識別名で指定した画面を前面化します。

表 11-4 ウィンドウ前面化ライブラリ設定項目

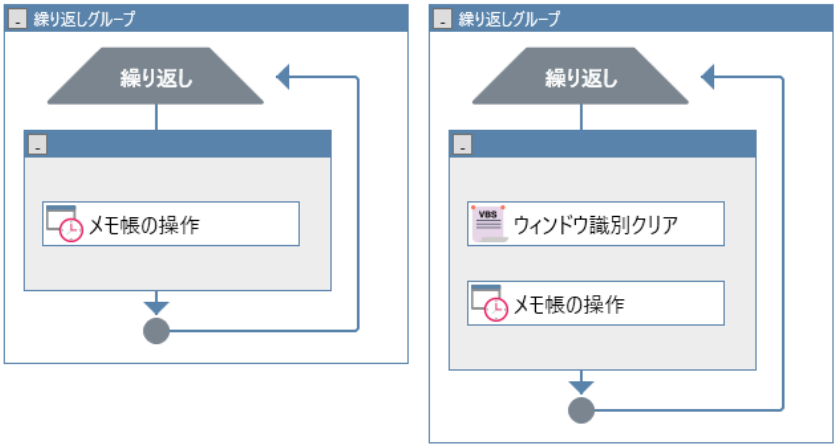
No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、前面化したいウィンドウを選択してください。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。

No.	項目	内容
③	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

11.5 ウィンドウ識別クリア

ウィンドウ識別名のキャッシュをクリアします。
クリック操作の後、親画面と同タイトルのウィンドウが子画面として表示されるようなケースで、操作対象を子画面に切り替える際に使用します。

同タイトルのウィンドウが複数表示されている場合、WinActor は最初に操作したウィンドウをずっと操作しつづけます。
ウィンドウ識別名のキャッシュをクリアすることで、その紐づけがなくなり、より手前にあるウィンドウが次の操作対象になります。



メモ帳が画面に2つ表示されていた場合、左右のシナリオで挙動が変わります
左側のシナリオでは、最初に手前にあったメモ帳が操作対象になり、以降そのメモ帳を操作しつづけます。右側のシナリオでは、より手前にあるメモ帳が操作対象になります。

図 11-1 ウィンドウ識別クリア使用例

11.6 保存、終了(CTRL + S、ALT + F4)

ウィンドウ識別名で指定したウィンドウでの処理を保存し、ウィンドウを閉じて終了します。

表 11-5 保存、終了(CTRL + S、ALT + F4)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、 保存、終了したいウィンドウを選択してください。

②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 時間の範囲は 100～3,600,000 までです。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

11.7 画面サイズ、位置取得(影無し)

ウィンドウ識別名で指定したウィンドウのサイズ、位置を取得します。
※本ライブラリは、Windows の視覚効果である、「ウィンドウの下に影を表示する」で表示される影部分を除外した座標情報を使います。

表 11-6 画面サイズ、位置取得(影無し)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、位置取得したいウィンドウを選択してください。
②	左上(x)	取得した左上(x)を格納する変数を指定してください。
③	左上(y)	取得した左上(y)を格納する変数を指定してください。
④	横幅	取得した横幅を格納する変数を指定してください。
⑤	縦幅	取得した縦幅を格納する変数を指定してください。

No.	項目	内容
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

11.8 画面サイズ、位置取得

ウィンドウ識別名で指定したウィンドウのサイズ、位置を取得します。

表 11-7 画面サイズ、位置取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、位置取得したいウィンドウを選択してください。
②	左上(x)	取得した左上(x)を格納する変数を指定してください。
③	左上(y)	取得した左上(y)を格納する変数を指定してください。
④	横幅	取得した横幅を格納する変数を指定してください。
⑤	縦幅	取得した縦幅を格納する変数を指定してください。

No.	項目	内容
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

11.9 画面サイズ、位置設定

ウィンドウ識別名で指定したウィンドウのサイズ、位置を設定します。

表 11-8 画面サイズ、位置設定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、位置設定したいウィンドウを選択してください。
②	左上(x)	設定する左上(x)を指定してください。
③	左上(y)	設定する左上(y)を指定してください。
④	横幅	設定する横幅を指定してください。
⑤	縦幅	設定する縦幅を指定してください。
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

指定したウィンドウが最小化されている場合は設定が反映されません。

12 マウス関連

12.1 マウスドラッグ(画像マッチング箇所へ)

現在座標から直前の画像マッチング箇所までマウスをドラッグします。直前の画像マッチングが失敗している場合マウスポインタは移動しません。
直前の画像マッチングでマウス操作位置を指定していた場合はその位置までドラッグし、指定していなかった場合はマッチング画像の赤枠の真ん中までドラッグします。

12.2 マウスドラッグ

現在座標から指定された座標へマウスをドラッグします。

表 12-1 マウスドラッグライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	座標指定	座標指定方式を選択してください。 “絶対座標”を選択した場合、指定の座標位置まで移動します。 “相対座標”を選択した場合、現在の座標位置を基点として指定の座標位置まで移動します。
②	x 座標	x 座標の移動分を指定してください。
③	y 座標	y 座標の移動分を指定してください。

12.3 マウスドラッグ 2

現在座標から指定された座標へマウスをドラッグします。

表 12-2 マウスドラッグ 2(相対座標)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	座標指定	座標指定方式を選択してください。 “絶対座標”を選択した場合、指定の座標位置まで移動します。 “相対座標”を選択した場合、現在の座標位置を基点として指定の座標位置まで移動します。
②	x,y 座標	x,y 形式で移動分を指定してください。

12.4 マウスホイール操作

マウスホイールを手前、奥方向に回転させます。

※下側、上側にスクロール

表 12-3 マウスホイール操作ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	回転数	回転数を指定してください。 数値が大きいほどスクロールする幅が大きくなります。
②	回転方向	回転方向を指定してください。 “手前方向”を選択した場合、下側にスクロールします。 “奥方向”を選択した場合、上側にスクロールします。

12.5 マウス中クリック

現在のマウス位置で中クリック※を行います。

※「マウスのミドルボタンのクリック」「マウスホイールのクリック」「センタークリック」と同義です。

表 12-4 マウス中クリックライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	マウス操作	クリックの回数を選択してください。 “中クリック”を選択した場合、1 回クリックします。 “中ダブルクリック”を選択した場合、2 回クリックします。 “中トリプルクリック”を選択した場合、3 回クリックします。
②	クリック間隔(ms)	クリック間の待ち時間を設定します。 未設定の場合や、数字以外の文字、範囲外の値が設定された場合、待ち時間なしで実行します。(範囲: 0～2147483647)

12.6 マウス位置取得

現在のマウスポインタ座標を取得します。

表 12-5 マウス位置取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	x 座標	取得した x 座標を格納する変数を指定してください。
②	y 座標	取得した y 座標を格納する変数を指定してください。

12.7 マウス位置取得 2

現在のマウスポインタ座標を x,y 形式で取得します。

表 12-6 マウス位置取得 2 ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	x,y 座標	取得した x,y 座標を格納する変数を指定してください。

12.8 マウス右クリック

現在のマウス位置で右クリックを行います。

表 12-7 マウス右クリックライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	マウス操作	クリックの回数を選択してください。 “右クリック”を選択した場合、1 回クリックします。 “右ダブルクリック”を選択した場合、2 回クリックします。 “右トリプルクリック”を選択した場合、3 回クリックします。
②	クリック間隔(ms)	クリック間の待ち時間を設定します。 未設定の場合や、数字以外の文字、範囲外の値が設定された場合、待ち時間なしで実行します。(範囲: 0～2147483647)

12.9 マウス左クリック

現在のマウス位置で左クリックを行います。

表 12-8 マウス左クリックライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	マウス操作	クリックの回数を選択してください。 “左クリック”を選択した場合、1 回クリックします。 “左ダブルクリック”を選択した場合、2 回クリックします。 “左トリプルクリック”を選択した場合、3 回クリックします。
②	クリック間隔(ms)	クリック間の待ち時間を設定します。 未設定の場合や、数字以外の文字、範囲外の値が設定された場合、待ち時間なしで実行します。(範囲: 0～2147483647)

12.10 マウス移動(画像マッチング箇所)

直前の画像マッチング箇所にマウスポインタを移動します。直前の画像マッチングが失敗している場合マウスポインタは移動しません。
直前の画像マッチングでマウス操作位置を指定していた場合はその位置に移動し、指定していなかった場合はマッチング画像の赤枠の真ん中に移動します。

12.11 マウス移動

現在の座標位置から指定された座標位置までマウスポインタを移動します。

表 12-9 マウス移動ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	座標指定	座標指定方式を選択してください。 “絶対座標”を選択した場合、指定の座標位置まで移動します。 “相対座標”を選択した場合、現在の座標位置を基点として指定の座標位置まで移動します。
②	x 座標	移動する x 座標を指定してください。
③	y 座標	移動する y 座標を指定してください。

12.12 マウス移動 2

現在の座標位置から指定された座標位置までマウスポインタを移動します。

表 12-10 マウス移動 2 ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	座標指定	座標指定方式を選択してください。 “絶対座標”を選択した場合、指定の座標位置まで移動します。 “相対座標”を選択した場合、現在の座標位置を基点として指定の座標位置まで移動します。
②	x,y 座標	x,y 形式で座標の移動分を指定してください。 例）100,200

13 ファイル関連

13.1 テキストファイル操作

13.1.1 テキストファイルの中身をコピー

指定したテキストファイルの中身をクリップボードにコピーします。

本ライブラリは 2 つのライブラリから構成されています。
・テキストファイルを開く
・テキストファイル全コピー

ライブラリ「テキストファイルを開く」で対象のテキストファイルを紐づけられたアプリケーションで開き、ライブラリ「テキストファイル全コピー」でアプリケーションのウィンドウを指定してエミュレーションで全選択、クリップボードへコピーの操作を実施します。

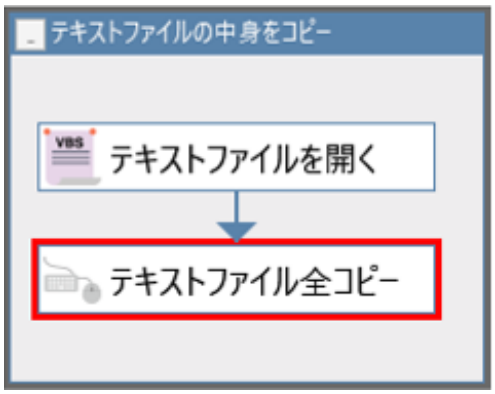


図 13-1 テキストファイルの中身をコピーライブラリ

表 13-1 テキストファイルの中身をコピー／テキストファイルを開くライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	パス	コピーを行うためにアプリケーションで開くテキストファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

表 13-2 テキストファイルの中身をコピー／テキストファイル全コピーライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、コピー対象のテキストファイルを選択してください。

13.1.2 テキストファイル書込

ファイルの書き込み(上書き)を行います。

表 13-3 テキストファイル書込ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	書き込みファイルパス	書き込みを行うファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	書き込みデータ	変数を指定してください。 ファイルに書き込みする値を指定してください。
③	ファイルフォーマット	使用する文字コードを選択してください。

注意事項

書き込みに成功すると上書きして、ファイルの内容が書き込みデータのみになります。

13.1.3 テキストファイル行数取得

指定したテキストファイルの行数を取得します。

表 13-4 テキストファイル行数取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイルパス	行数を取得したいファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	行数	取得した結果を格納する変数を指定してください。

13.1.4 テキストファイル読込(行指定)

指定されたテキストファイルの対象行の読み込みを行います。

表 13-5 テキストファイル読込(行指定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	ファイルフォーマット	使用する文字コードを選択してください。
③	行	読み込み対象の行を 1 以上の数値で指定してください。 0 以下の数値を指定した場合は 1 行目を読み込みます。 対象ファイルの最大行を超えた数値を指定した場合は最終行を読み込みます。
④	格納先変数	取得した値を格納する変数を指定してください。

13.1.5 テキストファイル読込

ファイルの読み込みを行います。

表 13-6 テキストファイル読込ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	読み込みファイルパス	読み込みを行うファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	ファイルフォーマット	使用する文字コードを選択してください。
③	読み込みデータ	変数を指定してください。 ファイルから読み込んだ値が格納されます。

注意事項

変数値の文字数を制限するオプションが有効な場合、ファイルから読み込んだ値が 1025 文字以上になると、1025 文字以降は切り捨てられます。

13.1.6 テキストファイル追記

ファイルの書き込み(追記)を行います。

表 13-7 テキストファイル追記ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	書き込みファイルパス	書き込みを行うファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	書き込みデータ	変数を指定してください。 ファイルに書き込みする値を指定してください。
③	ファイルフォーマット	使用する文字コードを選択してください。

注意事項

ファイルが開いていると、書き込みができずエラーになります。

13.1.7 ログ記録

指定されたファイルに対し、書き込み(追記)を行います。
その際、書き込んだ日時、指定されたラベルも記録します。

表 13-8 ログ記録ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	書き込みファイルパス	書き込みを行うファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	書き込みラベル	追記する文字列を指定してください。 ※未設定の場合、ラベルは記録されません。 (例:【入力処理】、【Excel】)
③	書き込みデータ	追記する文字列を指定してください。
④	ファイルフォーマット	使用する文字コードを選択してください。

注意事項

書き込みを行うファイルを開いた状態でシナリオ実行するとエラーとなります。

13.2 ファイル操作

13.2.1 Zip 関連

13.2.1.1 Zip 圧縮(パスワード付き)

指定されたフォルダを Zip ファイル(パスワード付き)に圧縮します。

表 13-9 Zip 圧縮(パスワード付き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	Zip ファイル	Zip ファイルを作成する場所を絶対パスか相対パスで指定してください。
②	対象フォルダ	Zip ファイルに圧縮したいフォルダを絶対パスか相対パスで指定してください。
③	パスワード指定	設定したいパスワードを指定してください。

13.2.1.2 Zip 圧縮

指定されたフォルダを Zip ファイルに圧縮します。

例)「C:¥user¥desktop¥Test フォルダ」を圧縮したい場合

Zip ファイル → C:¥user¥desktop¥Test フォルダ.zip

対象フォルダ → C:¥user¥desktop¥Test フォルダ

表 13-10 Zip 圧縮ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	Zip ファイル	Zip ファイルを作成する場所を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	対象フォルダ	Zip ファイルに圧縮したいフォルダを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.2.1.3 Zip 解凍(パスワード付き)

指定された Zip ファイル(パスワード付き)を解凍します。
解凍したい Zip ファイルに含まれるファイルやフォルダと同名のファイルやフォルダが対象フォルダに存在した場合は上書きされます。

表 13-11 Zip 解凍(パスワード付き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	Zip ファイル	解凍したい Zip ファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	対象フォルダ	Zip ファイルを解凍する場所を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
③	パスワード指定	Zip ファイルに設定されているパスワードを指定してください。

13.2.1.4 Zip 解凍

指定された Zip ファイルを解凍します。
解凍したい Zip ファイルに含まれるファイルやフォルダと同名のファイルやフォルダが対象フォルダに存在した場合は上書きされます。

例)「C:¥user¥desktop¥Test フォルダ.zip」を解凍したい場合
Zip ファイル → C:¥user¥desktop¥Test フォルダ.zip
対象フォルダ → C:¥user¥desktop¥Test フォルダ

表 13-12 Zip 解凍ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	Zip ファイル	解凍したい Zip ファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	対象フォルダ	Zip ファイルを解凍する場所を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.2.1.5 ファイルエンコーディング指定

ファイルのエンコーディングを指定します。

他言語 OS で「Zip 関連」のライブラリを使用する場合に指定します。

表 13-13 ファイルエンコーディング指定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	エンコーディング	エンコーディングを指定してください。

注意事項

WinActor Ver.7 より前の WinActor で作成したシナリオで、以下のエンコーディングを指定していた場合、WinActor Ver.7 以降ではシナリオ動作が異なる可能性があります。

表 13-14 ファイルエンコーディング指定の注意事項

WinActor Ver.7 より前でのエンコーディング	WinActor Ver.7 以降でのシナリオ動作
UTF-16	バイト順序（エンディアン）の変更のため、読み込みに失敗する可能性があります。（Ver.7 より前：ビッグエンディアン、Ver.7 以降：リトルエンディアン）
Cp1257, Big5_HKSCS, Cp868, Cp918, ISO2022CN, JIS_X0201, JIS_X0212-1990, TIS620, Big5_Solaris, EUC_JP_LINUX, EUC_TW, EUC_JP_Solaris, Cp1006, Cp1046, Cp1097, Cp1098, Cp1112, Cp1122, Cp1123, Cp1124, Cp1166, Cp1364, Cp1381, Cp1383, Cp300, Cp33722, Cp833, Cp834, Cp856, Cp921, Cp922, Cp930, Cp933, Cp935, Cp937, Cp939, Cp942, Cp942C, Cp943, Cp943C, Cp948, Cp949, Cp950, Cp964, Cp970, ISCII91, x-ISO-2022-CN-CNS, x-iso-8859-11, x-JIS0208, JISAutoDetect, MacDingbat, MacRoman, MacSymbol, x-MS950-HKSCS, MS950_HKSCS, x-mswin-936, MS936, PCK, x-SJIS_0213, Cp50220, Cp50221, MS949, MS950, x-windows-iso2022jp	UTF-8 として読み込みます。

13.2.2 Explorer でファイル開く

指定したファイルを explorer で開きます。

表 13-15 Explorer でファイル開くライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	explorer で開くファイルのファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.2.3 コマンド実行

指定された CUI コマンドを実行します。
コマンドは、現在実行しているシナリオが保存されているフォルダをカレントディレクトリとして実行されます。

例)「C:¥Program Files」配下のフォルダをリストアップする場合
コマンド:cmd /c "dir /S /B /ad "C:¥Program Files""

表 13-16 コマンド実行ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
②	コマンド	実行したいコマンドを指定してください。

13.2.4 コマンド実行結果をファイル保存

指定された CUI コマンドを実行し、その結果をファイルに保存します。
コマンドは、現在実行しているシナリオが保存されているフォルダをカレントディレクトリとして実行されます。

例)「C:¥Program Files」配下のフォルダをリストアップする場合
コマンド:dir /S /B /ad “C:¥Program Files”
保存ファイル名:c:¥folder_list.txt

表 13-17 コマンド実行結果をファイル保存ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	コマンド	実行したいコマンドを指定してください。
②	保存ファイル名	実行結果保存ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。 本ライブラリで相対パスを指定した場合は、実行中のシナリオファイルが配置されているフォルダが起点となります。

13.2.5 デスクトップにあるファイルを開く

指定されたデスクトップのファイルを開きます。

表 13-18 デスクトップにあるファイルを開くライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	開きたいデスクトップのファイル名を指定してください。

13.2.6 ファイルと関連づいているアプリ起動

ファイルをデフォルトのアプリケーションで開きます。

表 13-19 ファイルと関連づいているアプリ起動ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	パス	開くファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.2.7 ファイルコピー

指定されたファイルをコピーします。

表 13-20 ファイルコピーライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	コピー元ファイル名	ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	コピー先ファイル名	ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

注意事項

コピー先にファイルが既に存在する場合、コピー元のファイルで上書きされます。

13.2.8 ファイル削除(ワイルドカード指定)

ワイルドカードを含むファイル名に合致するファイルを削除します。
ワイルドカードとして使用可能な文字は「*」と「?」です。
削除ファイル名には、ワイルドカード文字を 1 文字以上含めてください。

削除ファイル名を相対パスで指定する場合、開いているシナリオのフォルダが起点となります。
シナリオの初回保存前にシナリオを実行すると、相対パス解決の次点のフォルダが起点となりますのでご注意ください。

誤指定によって全ファイルを削除することを防ぐため、削除ファイル名にワイルドカード 1 文字のみが指定されている場合はエラーとします。

表 13-21 ファイル削除(ワイルドカード指定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	削除ファイル名	削除したいファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.2.9 ファイル削除

指定されたファイルを削除します。
ワイルドカードを使って複数のファイルを削除したい場合は、13.2.8 ファイル削除(ワイルドカード指定)を使用してください。

表 13-22 ファイル削除ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	削除ファイル名	削除したいファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.2.10 ファイル存在有無チェック

指定ファイルが存在するかを取得します。

表 13-23 ファイル存在有無チェックライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイルパス	存在を確認するファイルパスを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	チェック結果	ファイルの存在結果を格納する変数を指定してください。 存在する場合 True、存在しない場合 False。

注意事項

フォルダの存在有無をチェックすることはできません。

13.2.11 ファイル情報取得(更新日時)

指定したファイルの更新日時を取得します。

表 13-24 ファイル情報取得(更新日時)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	格納先変数	取得した値を格納する変数を指定してください。

13.2.12 ファイル移動

指定されたファイルを移動します。

表 13-25 ファイル移動ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	移動元	移動したいファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	移動先	移動先のフォルダ名もしくはファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。 フォルダ名を指定した場合は、ファイル名を変更せずに指定フォルダへファイルを移動します。移動先フォルダでファイル名を変更したい場合は、ファイル名まで含めてください。

注意事項

移動先に既にファイルが存在する場合はエラーになります。

13.2.13 読み取り属性チェック

指定したファイルが読み取り専用の場合は「True」を返します。
ファイルのプロパティにて「属性: 読み取り専用(R)」にチェックが入っているかどうかを確認できます。
ファイルが読み取り専用で開かれているかどうかの確認には利用できません。

表 13-26 読み取り属性チェックライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	対象ファイルパス	読み取り属性をチェックするファイルパスを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	結果	結果を格納する変数を指定してください。 読み取り専用の場合は True、 そうでない場合は False が格納されます。

13.3 フォルダ操作

13.3.1 フォルダコピー

フォルダのコピーを作成します。
コピー先フォルダが既に存在している場合は上書きします。

表 13-27 フォルダコピーライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	コピー元フォルダ名	コピー元のフォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	コピー先フォルダ名	コピー先のフォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。 既存フォルダの配下にコピーしたい場合は、既存フォルダ名の最後に¥ を付けてください。

コピー元フォルダのサブフォルダにコピーすることはできません。

13.3.2 フォルダ作成

フォルダを作成します。

表 13-28 フォルダ作成ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	作成フォルダ名	作成するフォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.4 ファイル一覧

13.4.1 ファイルリスト作成

指定されたフォルダ配下のファイルリスト(絶対パス表記)を指定された出力先に作成します。
サブフォルダも再起的に処理します。

表 13-29 ファイルリスト作成ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ名	フォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	ファイルリスト出力先	作成したファイルリストの出力先を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.4.2 ファイルリスト作成(拡張子指定)

指定されたフォルダ配下のファイルから拡張子を指定し、
ファイルリスト(絶対パス表記)を作成します。
サブフォルダも再起的に処理します。

表 13-30 ファイルリスト作成(拡張子指定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ名	検索対象のフォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	拡張子	検索対象とするファイルの拡張子を指定してください。 例)*.txt
③	ファイルリスト出力先	ファイルリストの出力先を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.4.3 ファイル一覧(ファイル名)取得(ソート順あり)

フォルダ内の指定した位置にあるファイルまたはフォルダのフルパスを取得します。
隠しファイルのパスは取得できません。

表 13-31 ファイル一覧(ファイル名)取得(ソート順あり)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ名	検索対象のフォルダを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	ソート	ファイル一覧のソート順を選択してください。
③	カウンタ	取得したいファイルまたはフォルダの位置を 1 以上の整数で指定してください。
④	ファイルパス	ファイルパスを格納する変数を指定してください。
⑤	種別	種別を格納する変数を指定してください。 ファイルの場合は True、フォルダの場合は False が格納されます。

13.4.4 ファイル一覧(ファイル名)取得

フォルダ内のファイル名（絶対パス表記）を取得します。

表 13-32 ファイル一覧(ファイル名)取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ名	ファイル名を取得したいフォルダを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	カウンタ	取得したいファイル名の番号を指定してください。 0 以上の整数を指定してください。
③	ファイル名	カウンタ番号のファイル名(絶対パス)を格納する変数を指定してください。
④	種別	種別の判定結果を格納する変数を指定してください。 取得名がファイルの場合 True フォルダ（ファイル以外）の場合 False を格納します。

13.4.5 ファイル一覧(ファイル数)取得

フォルダ内のファイル数(フォルダ数も含む)を取得します。

表 13-33 ファイル一覧(ファイル数)取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ名	取得したいファイル一覧のフォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	ファイル数	取得したファイル数(フォルダ数含む) を格納する変数を指定してください。

13.4.6 ファイル検索

指定フォルダに存在し、検索条件に合致するファイルのファイルパス(絶対パス表記)を取得します。

表 13-34 ファイル検索ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	対象フォルダ	フォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	ファイル名フィルタ	ファイル名のパターンを指定してください。 例 : 拡張子 xls のファイル ⇒「*.xls」 全てのファイル ⇒「*」
③	インデックス番号(1~)	ファイルのインデックス番号を指定してください。 例 : 3 番目のファイルを選択 ⇒「3」
④	ファイルパス格納先	ファイルパス(絶対パス)を格納する変数を指定してください。

13.4.7 フォルダリスト作成

指定されたフォルダ配下のフォルダリスト(絶対パス表記)を指定された出力先に作成します。
サブフォルダも再起的に処理します。

表 13-35 フォルダリスト作成ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ名	フォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	フォルダリスト出力先	作成したフォルダリストの出力先を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

13.4.8 先頭ファイルの取得

フォルダの先頭ファイル名を取得します。

表 13-36 先頭ファイルの取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ名	フォルダ名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	ファイル名	先頭のファイル名を格納する変数を指定してください。

13.5 ファイル名

13.5.1 シナリオフォルダのファイルパス

現在実行中のシナリオフォルダを起点としたファイルパスを作成します。
シナリオが保存されていない場合は空の情報となります。

例)シナリオ保存先 → C:¥temp
ファイル名に a.txt を指定した場合
ファイルパス生成結果 → C:¥temp¥a.txt

表 13-37 シナリオフォルダのファイルパスライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	ファイル名を指定してください。
②	ファイルパス生成結果	ファイルパス生成結果を格納する変数を指定してください。

13.5.2 デスクトップフォルダのファイルパス

デスクトップを起点としたファイルパスを作成します。

例)デスクトップ → C:¥user¥desktop
ファイル名に a.txt を指定した場合
ファイルパス生成結果 → C:¥user¥desktop¥a.txt

表 13-38 デスクトップフォルダのファイルパスライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	ファイル名を指定してください。
②	ファイルパス生成結果	ファイルパス生成結果を格納する変数を指定してください。

13.5.3 デスクトップフォルダ取得

デスクトップフォルダのパスを取得します。

例)デスクトップフォルダ → C:¥user¥desktop

表 13-39 デスクトップフォルダ取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	デスクトップフォルダ	取得したデスクトップフォルダのパスを格納する変数を指定してください。

13.5.4 ファイルパスからフォルダパスとファイル名を取得

指定したファイルパスからフォルダパスとファイル名を取得します。

表 13-40 ファイルパスからフォルダパスとファイル名を取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	対象ファイルパス	対象ファイルパスを指定してください。
②	フォルダパス	取得したフォルダパスを格納する変数を指定してください。
③	ファイル名	取得したファイル名を格納する変数を指定してください。

対象ファイルパスにファイルでなくフォルダのパスを指定した場合は、下記の結果を取得します。

フォルダパス → 末端のフォルダ名を除いたフォルダパス

ファイル名 → 末端のフォルダ名

13.5.5 ファイル名から拡張子を取得

ファイル名もしくはファイルパスから拡張子を取得します。

表 13-41 ファイル名から拡張子を取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	ファイル名を拡張子を含む絶対パス／相対パス／URL のいずれかで指定してください。 ファイルの存在有無に関わらず指定したファイル名から拡張子を取得します。
②	拡張子	取得した拡張子を格納する変数を指定してください。

13.5.6 ファイル名変更(ファイル名指定)

対象ファイルのファイル名を変更します。

表 13-42 ファイル名変更(ファイル名指定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	変更前ファイルパス	変更したいファイルのファイルパスを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	変更後ファイル名	変更後のファイル名を、拡張子を含めて指定してください。 既存のファイルと同じファイル名を指定するとエラーになります。

13.5.7 フォルダパスとファイル名の連結

フォルダ名とファイル名を結合してパス情報を作成します。

表 13-43 フォルダパスとファイル名の連結ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	連結結果	フォルダ名とファイル名を連結したパス情報を格納する変数を指定してください。
②	フォルダ名	フォルダ名を指定してください。
③	ファイル名	ファイル名を指定してください。

13.5.8 マイドキュメントフォルダのファイルパス

マイドキュメントフォルダを起点としたファイルパスを作成します。

例)マイドキュメント → C:¥Users¥Documents
ファイル名に a.txt を指定した場合
ファイルパス生成結果 → C:¥Users¥Documents¥a.txt

表 13-44 マイドキュメントフォルダのファイルパスライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	ファイル名を指定してください。
②	ファイルパス生成結果	ファイルパス生成結果を格納する変数を指定してください。

13.5.9 マイドキュメントフォルダ取得

マイドキュメントフォルダのパスを取得します。

例)マイドキュメント → C:¥Users¥Documents
マイドキュメントフォルダ → C:¥Users¥Documents

表 13-45 マイドキュメントフォルダ取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	マイドキュメントフォルダ	パス取得結果を格納する変数を指定してください。

14 入力欄操作

14.1 エミュレーションで文字送信

エミュレーション方式で文字列送信を行います。前面に出ている画面が送信対象です。
必要に応じて直前に「11.4 ウィンドウの前面化」を配置してお使いください。
送信できる文字は、半角の a-z 、A-Z と 0-9 のみです。
英字を送信する場合は、CapsLock を解除して使用してください。

表 14-1 エミュレーションで文字送信ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	送信文字列	送信する文字列を指定してください。 送信できる文字は、半角の a-z、A-Z と 0-9 のみです。

14.2 テキスト入力グループ

入力欄へテキストを書き込むための一連の操作です。

本ライブラリは 2 つのノードと 1 つのライブラリから構成されています。

ノード(名前):

・画像マッチング(カーソル移動(画像マッチ))

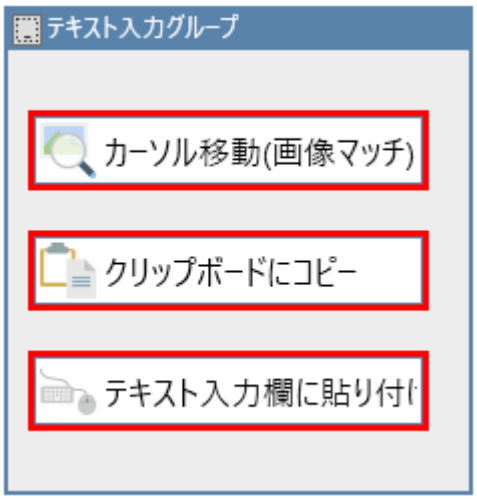
・クリップボード(クリップボードにコピー)

ライブラリ:

・テキスト入力欄に貼り付け

ノード「画像マッチング(カーソル移動(画像マッチ))」で対象のウィンドウのテキスト欄で左クリックを実施し、カーソルを移動させます。その後、ノード「クリップボード(クリップボードにコピー)」で指定した値をクリップボードへコピーし、ライブラリ「テキスト入力欄に貼り付け」でテキスト欄にエミュレーションでクリップボードの値を貼り付ける操作を実施します。

「画像マッチング」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『画像マッチング』の章を参照してください。
「クリップボード」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『クリップボード』の章を参照してください。



①入力欄にカーソル移動
カーソルを移動するための
画像マッチングの設定を行います。

②入力値をコピー
入力値を指定するための設定を
行います。

③入力欄へペースト
操作対象画面を指定するための
ウィンドウ識別名の設定を行います。

図 14-1 テキスト入力グループライブラリ

表 14-2 テキスト入力グループ／カーソル移動(画像マッチ) ノード設定項目

No.	項目	内容
①	イメージ画像	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動する対象のイメージ画像を選択してください。
②	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動する対象のウィンドウを選択してください。

表 14-3 テキスト入力グループ／クリップボードにコピーノード設定項目

No.	項目	内容
①	設定値	本ノードの操作として「クリップボードへ値を設定」をあらかじめ選択しています。クリップボードへ設定する値をこの設定項目で指定してください。

表 14-4 テキスト入力グループ／テキスト入力欄に貼り付けライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、テキストを入力する対象のウィンドウを選択してください。本ライブラリの「操作」で指定されているエミュレーションに従い、クリップボードの値を入力します。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

14.3 テキスト入力欄に貼り付け

カーソルがあるテキスト入力欄にクリップボートの値を貼り付けます。
CTRL+A、Delete、CTRL+V のキー操作を行います。

表 14-5 テキスト入力欄に貼り付けライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、テキストを貼り付ける対象のウィンドウを選択してください。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

14.4 テキスト入力欄に貼り付け(追記)

カーソルがあるテキスト入力欄にクリップボートの値を追記形式で貼り付けます。
CTRL+V のキー操作を行います。

表 14-6 テキスト入力欄に貼り付け(追記)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、テキストを貼り付ける対象のウィンドウを選択してください。

No.	項目	内容
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

14.5 テキスト入力欄をコピー

カーソルがあるテキスト入力欄の値をコピーします。
CTRL+A、CTRL+C、END のキー操作を行います。

表 14-7 テキスト入力欄をコピーライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、テキスト入力欄をコピーする対象のウィンドウを選択してください。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。

No.	項目	内容
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

14.6 テキスト入力欄を空にする

カーソルがあるテキスト入力欄を空にします。

CTRL+A、Delete のキー操作を行います。

表 14-8 テキスト入力欄を空にするライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、テキスト入力欄を空にする対象のウィンドウを選択してください。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

14.7 テキスト読取りグループ

入力欄のテキストを読み取って、変数値に取り込むための一連の操作です。

本ライブラリは 2 つのノードと 1 つのライブラリから構成されています。

ノード(名前):

・画像マッチング(カーソル移動(画像マッチ))

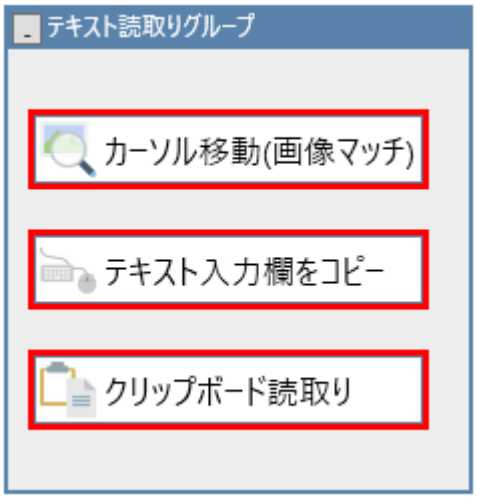
・クリップボード(クリップボード読取り)

ライブラリ:

・テキスト入力欄をコピー

ノード「画像マッチング(カーソル移動(画像マッチ))」で対象のウィンドウのテキスト欄で左クリックを実施し、カーソルを移動させます。その後、ライブラリ「テキスト入力欄をコピー」でテキスト欄の内容をエミュレーションでクリップボードに設定し、ノード「クリップボード(クリップボード読取り)」でクリップボードの値を変数に格納します。

「画像マッチング」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『画像マッチング』の章を参照してください。
「クリップボード」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『クリップボード』の章を参照してください。



①入力欄にカーソル移動
カーソルを移動するための
画像マッチングの設定を行います。

②入力欄の内容をコピー
操作対象画面を指定するための
ウィンドウ識別名の設定を行います。

③クリップボード読取り
読み取った情報を取り込むための
変数名を設定します。

図 14-2 テキスト読取りグループライブラリ

表 14-9 テキスト読取りグループ／カーソル移動(画像マッチ)ノード設定項目

No.	項目	内容
①	イメージ画像	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動する対象のイメージ画像を選択してください。
②	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動する対象のウィンドウを選択してください。

表 14-10 テキスト読取りグループ／テキスト入力欄をコピーライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、テキストを読取る対象のウィンドウを選択してください。本ライブラリの「操作」で指定されているエミュレーションに従い、テキスト欄の内容をクリップボードへ設定します。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

表 14-11 テキスト読取りグループ／クリップボード読取りノード設定項目

No.	項目	内容
①	取得結果	本ノードの操作として「クリップボードの値を取得」をあらかじめ選択しています。クリップボードの値を格納する変数を指定してください。

14.8 テキスト転記グループ

入力欄 A のテキストを入力欄 B に転記するための一連の操作です。

本ライブラリは 2 つのノードと 2 つのライブラリから構成されています。

ノード(名前):

・画像マッチング(カーソル移動(画像マッチ))

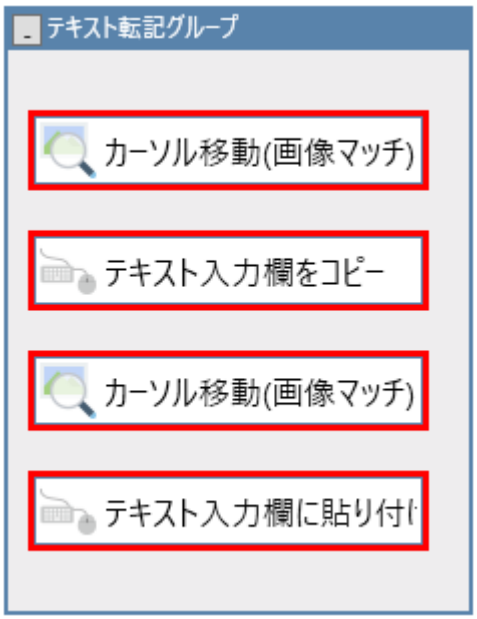
ライブラリ:

・テキスト入力欄をコピー

・テキスト入力欄に貼り付け

ノード「画像マッチング(カーソル移動(画像マッチ))」は 2 つ配置されています。
1 つ目のノード「画像マッチング(カーソル移動(画像マッチ))」で、転記元の対象のウィンドウのテキスト欄で左クリックを実施してカーソルを移動させ、ライブラリ「テキスト入力欄をコピー」でテキスト欄の内容をエミュレーションでクリップボードに設定します。その後、2 つ目のノード「画像マッチング(カーソル移動(画像マッチ))」で、転記先の対象のウィンドウのテキスト欄で左クリックを実施してカーソルを移動させ、ライブラリ「テキスト入力欄に貼り付け」でテキスト欄にエミュレーションでクリップボードの値を貼り付ける操作を実施します。

「画像マッチング」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『画像マッチング』の章を参照してください。
「クリップボード」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『クリップボード』の章を参照してください。



①入力欄 A にカーソル移動
カーソルを移動するための
画像マッチングの設定を行います。

②入力欄 A の内容をコピー
操作対象画面を指定するための
ウィンドウ識別名の設定を行います。

③入力欄 B にカーソル移動
カーソルを移動するための
画像マッチングの設定を行います。

④入力欄 B にペースト
操作対象画面を指定するための
ウィンドウ識別名の設定を行います。

図 14-3 テキスト転記グループライブラリ

表 14-12 テキスト転記グループ／カーソル移動(画像マッチ)(1 つ目)ノード設定項目

No.	項目	内容
①	イメージ画像	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動するテキストを読取る対象のイメージ画像を選択してください。
②	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動するテキストを読取る対象のウィンドウを選択してください。

表 14-13 テキスト転記グループ／テキスト入力欄をコピーライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、テキストを読取る対象のウィンドウを選択してください。本ライブラリの「操作」で指定されているエミュレーションに従い、テキスト欄の内容をクリップボードへ設定します。

No.	項目	内容
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

表 14-14 テキスト転記グループ／カーソル移動(画像マッチ)(2 つ目)ノード設定項目

No.	項目	内容
①	イメージ画像	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動するテキストを入力する対象のイメージ画像を選択してください。
②	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動するテキストを入力する対象のウィンドウを選択してください。

表 14-15 テキスト転記グループ／テキスト入力欄に貼り付けライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、テキストを入力する対象のウィンドウを選択してください。本ライブラリの「操作」で指定されているエミュレーションに従い、クリップボードの値を入力します。

No.	項目	内容
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

14.9 名前を付けて保存画面ファイル名入力

指定されたファイル名で名前をつけてファイルを保存します。

本ライブラリは 1 つのノードと 1 つのライブラリから構成されています。

ノード(名前)

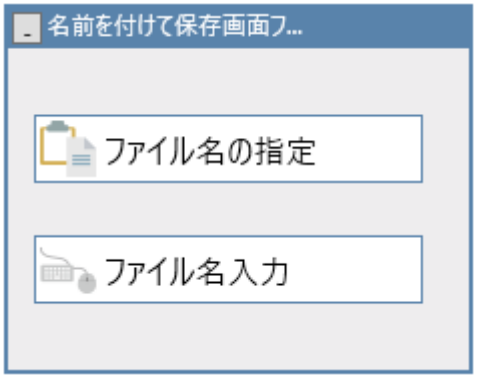
・クリップボード(ファイル名の指定)

ライブラリ

・ファイル名入力

ノード「クリップボード(ファイル名の指定)」で指定したファイル名をクリップボードへコピーします。その後、ライブラリ「ファイル名入力」でクリップボードのファイル名を、「名前を付けて保存」ダイアログの「ファイル名」の欄に貼付け、保存する操作をエミュレーションで実施します。

「クリップボード」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『クリップボード』の章を参照してください。



① ファイル名の指定
ファイル名を指定してください。

② ファイル名入力
指定したファイル名を入力します。
操作対象画面を指定するための
ウィンドウ識別名の設定をしてください。

図 14-4 名前を付けて保存画面ファイル名入力ライブラリ

表 14-16 名前を付けて保存画面ファイル名入力／ファイル名の指定ノード設定項目

No.	項目	内容
①	設定値	本ノードの操作として「クリップボードへ値を設定」をあらかじめ選択しています。名前を付けて保存するファイル名をこの設定項目で指定してください。

表 14-17 名前を付けて保存画面ファイル名入力／ファイル名入力ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、名前を付けて保存画面のウィンドウを選択してください。本ライブラリの「操作」で指定されているエミュレーションに従い、クリップボードのファイル名でファイルを保存します。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

メモ帳や Office のソフトなど Windows の「名前を付けて保存」ダイアログが表示された状態である必要があります。

14.10 次の入力欄へ

次の入力欄にカーソルを移動します。

Tab のキー操作を行います。

表 14-18 次の入力欄へライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、カーソルを移動する対象のウィンドウを選択してください。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

15 画像マッチング関連

15.1 画像マッチング(ファイル指定)

指定したウィンドウと画像を比較します。
画像が一致した際にマウス、キーボード操作を組み合わせることができます。

表 15-1 画像マッチング(ファイル指定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、比較するウィンドウを選択してください。
②	マッチ率	画像比較のマッチ率[%]を指定してください。
③	移動量(x)	マッチ位置からのマウスの移動量(x)を指定してください。
④	移動量(y)	マッチ位置からのマウスの移動量(y)を指定してください。
⑤	マウス操作	マウス操作を選択してください。 “状態チェックのみ”を選択した場合、マウス操作は行いません。 “カーソル移動”を選択した場合、マウスの移動のみ行います。 “〇〇クリック”を選択した場合、マウスの移動後にクリックを行います。
⑥	キーボード操作	キーボード操作を選択してください。 “何もしない”を選択した場合、キーボード操作は行いません。 “Shift”を選択した場合、Shiftを押下した状態でマウス操作を行います。 “Ctrl”を選択した場合、Ctrl を押下した状態でマウス操作を行います。
⑦	画像	比較する画像ファイル名を指定してください。 “・・・”ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが表示されます。
⑧	結果	画像マッチング結果(True/False)を格納する変数を指定してください。
⑨	ターゲット枠有無	マッチング箇所のターゲット枠の表示有無を選択してください。 “無効にする”を選択した場合、一致した箇所のハイライトはされません。 “有効にする”を選択した場合、一致した箇所がハイライトされます。 WinActor 本体のオプション画面でターゲット枠を非表示にしている場合は、“有効にする”を指定しても適用されません。

No.	項目	内容
⑩	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑪	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

15.2 画像マッチング箇所の取得

最後にマッチした画像マッチングの座標(操作位置)を取得します。
※マッチしなかった画像マッチングの座標(操作位置)は取得できません。

表 15-2 画像マッチング箇所の取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	マッチング位置	直前の画像マッチングでマッチした座標(操作位置) を格納する変数を指定してください。

16 画面キャプチャ色判定

16.1 画面キャプチャ(アクティブなウィンドウ)

アクティブウィンドウのキャプチャ画像をファイルに保存します。

表 16-1 画面キャプチャ(アクティブなウィンドウ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	キャプチャの保存先を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。 例:C:¥Users¥XXX¥Desktop¥キャプチャ.JPG
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

16.2 画面キャプチャ(デスクトップ)

デスクトップの画面キャプチャを撮りファイルに保存します。

表 16-2 画面キャプチャ(デスクトップ)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	画面キャプチャした画像を保存するファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。

16.3 画面キャプチャ(指定画面)

指定画面のキャプチャを撮りファイルに保存します。

表 16-3 画面キャプチャ(指定画面)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、画面キャプチャするウィンドウを選択してください。
②	ファイル名	画面キャプチャした画像を保存するファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

16.4 直前画像マッチング箇所の色判定

直前画像マッチングで＋マーク箇所の色を取得します。

表 16-4 直前画像マッチング箇所の色判定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	色	取得した箇所の RGB 値を格納する変数を指定してください。

16.5 色判定

指定画面の指定位置の色を取得します。

表 16-5 色判定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、色判定をする対象のウィンドウを選択してください。
②	位置	色判定をする位置（座標）を指定してください。
③	色	取得した箇所の RGB 値を格納する変数を指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17 IE 関連

17.1 IE デバッグ

17.1.1 IE 操作(Debug class 名指定 情報出力)

指定された class 名のタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-1 IE 操作(Debug class 名指定 情報出力)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	class 名	class 名を指定してください。
③	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.2 IE 操作(Debug Class 情報)

操作対象 IE の全 class 名のタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-2 IE 操作(Debug Class 情報)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.3 IE 操作(Debug Href 情報)

操作対象 IE の Href を持つ全てのタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-3 IE 操作(Debug Href 情報)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.4 IE 操作(Debug ID 情報)

操作対象IEのIDを持つ全てのタグの情報をExcelファイルに書き出します。

表 17-4 IE 操作(Debug ID 情報)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.5 IE 操作(Debug id 指定 情報出力)

指定された ID を持つタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-5 IE 操作(Debug id 指定 情報出力)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	id	id を指定してください。
③	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.6 IE 操作(Debug Name 情報)

操作対象 IE の Name を持つ全てのタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-6 IE 操作(Debug Name 情報)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイル指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.7 IE 操作(Debug name 指定 情報出力)

指定された name を持つタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-7 IE 操作(Debug name 指定 情報出力)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	name	name を指定してください。
③	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.8 IE 操作(Debug Value 情報)

操作対象 IE の Value を持つ全てのタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-8 IE 操作(Debug Value 情報)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.9 IE 操作(Debug タグ名指定 情報出力)

指定されたタグ名のタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-9 IE 操作(Debug タグ名指定 情報出力)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	タグ名	タグを指定してください。
③	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.10 IE 操作(Debug 表示検索)

指定された検索文字を表示しているタグの情報を Excel ファイルに書き出します。

表 17-10 IE 操作(Debug 表示検索)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	検索文字	検索したい文字を指定してください。
③	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.11 IE 操作(Debug 全タグ情報簡易版)

全てのタグの情報を Excel ファイルに書き出します。
No / FrameNum / Tag / TagNum / Name / Id / Class / Value / Href / InnerText の 10 項目の情報を書き出します。

表 17-11 IE 操作(Debug 全タグ情報簡易版)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.1.12 IE 操作(Debug 全タグ情報詳細版)

全てのタグの情報を Excel ファイルに書き出します。
No / FrameNum / Tag / TagNum / Name / Type / Id / Class / Area / Value / Shape / Coords / Alt / Title / Src / Href / InnerText の 17 項目の情報を書き出します。

表 17-12 IE 操作(Debug 全タグ情報詳細版)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	書き込みファイルパス	検索結果のタグ情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.2 クリック

17.2.1 IE 操作(イメージマップをクリック)

IE のイメージマップ画面において、指定されたエリアをクリックします。

表 17-13 IE 操作(イメージマップをクリック)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0~)	操作対象が存在するフレーム番号を指定してください。
③	エリアの代替テキスト	クリックしたいエリアに設定された代替テキストを指定してください。 代替テキストはエリアにマウスカーソルを合わせると表示されます。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

実行例

円型マークと WinActor の文字列にそれぞれリンクが設定されております。

この例では円型マークをクリックしたいので、フレーム番号を「0」、エリアの代替テキストを「リンク 1」と設定します。

シナリオを実行させると、円型マークがクリックされリンク先画面が表示されます。

図 17-1 イメージマップ画面と代替テキスト

図 17-2 リンク先画面

17.2.2 IE 操作(指定 CLASS をクリック)

ドキュメント内の指定されたクラスをクリックします。

表 17-14 IE 操作(指定 CLASS をクリック)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0～)	操作対象のフレームの番号を指定してください。 フレームの番号はフレーム構造の親子関係に関わらず以下のように上から番号が振られます。 <frame> フレーム番号 1 <frame></frame> フレーム番号 2 <frame></frame> フレーム番号 3 </frame> <frame> フレーム番号 4 以下同様 フレームを使用していない場合、あるいはフレーム外の要素を取得する場合は「0」を指定してください。
③	対象クラス名	クリック対象のクラス名を指定してください。
④	インデックス(0～)	操作対象のインデックスを指定してください。
⑤	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。

No.	項目	内容
⑥	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.2.3 IE 操作(指定タグの指定テキストをクリック)

IE 画面から指定されたタグの指定された文字列を含むテキストをクリックします。

表 17-15 IE 操作(指定テキストをクリック)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0~)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	クリック対象タグ	クリックしたいタグを指定してください。
④	クリック対象テキスト	クリックしたいテキストを指定してください。
⑤	クリックした文字	変数を指定してください。クリックしたテキストを取得します。
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

指定フレーム内に複数のテキストが存在する場合、先に配置されたテキストをクリックします。

17.2.4 IE 操作(指定テキストをクリック)

IE 画面から指定された文字列を含むテキストをクリックします。

表 17-16 IE 操作(指定テキストをクリック)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0~)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	クリック対象テキスト	クリックしたいテキストを指定してください。
④	クリックしたタグ	変数を指定してください。クリックしたタグを取得します。
⑤	クリックした文字	変数を指定してください。クリックしたテキストを取得します。
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

指定フレーム内に複数のテキストが存在する場合、先に配置されたテキストをクリックします。

17.2.5 IE 操作(指定リンクをクリック)

IE 画面内の指定されたリンクをクリックします。

表 17-17 IE 操作(指定リンクをクリック)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0~)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	リンクのテキスト	クリック対象のリンクに含まれるテキストを指定してください。
④	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑤	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

注意事項

指定フレーム内に複数のリンクが存在する場合、先に配置されたリンクをクリックします。

17.2.6 IE 操作(表内のコントロールをクリック1)

IE 画面内の表の指定セルに存在するコントロールをクリックします。

表 17-18 IE 操作(表内のコントロールをクリック1)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	frame index	コントロールが存在する frame index を指定してください。(※1)
③	tag index	クリックするコントロールの tag index を指定してください。(※1)
④	行番号	クリックするコントロールが存在する表の行番号を指定してください。(※1)
⑤	列番号	クリックするコントロールが存在する表の列番号を指定してください。(※1)
⑥	処理結果	取得結果を格納する変数を指定してください。 クリックに成功した場合は「クリック成功」の文字列が格納されます。
⑦	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑧	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

※1 ・・・「frame index」と「tag index」は『WinActor 操作マニュアル』の「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」の章をご参照ください。「行番号」と「列番号」は『WinActor 操作マニュアル』の「表の値取得のプロパティ」の章をご参照ください。

注意事項

指定フレーム内に複数のコントロールが存在する場合、先に配置された
コントロールをクリックします。

17.2.7 IE 操作(表内のコントロールをクリック2)

IE 画面内の表の指定セルに存在するコントロールをクリックします。
セル内に複数コントロールがある場合に指定できます。

表 17-19 IE 操作(表内のコントロールをクリック2)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	frame index(0~)	表が存在するフレーム番号を指定してください。
③	tag index(0~)	表のタグ番号を指定してください。
④	行番号(1~)	対象セルの行番号を指定してください。
⑤	列番号(1~)	対象セルの列番号を指定してください。
⑥	セル内の対象番号(1~)	対象セルの中に複数のクリック対象がある場合は、対象の番号を指定してください。(省略可)
⑦	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑧	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

※1 ・・・「frame index」と「tag index」は『WinActor 操作マニュアル』の「詳細設定タブ(IE モードで記録されたノード)」の章をご参照ください。「行番号」と「列番号」は『WinActor 操作マニュアル』の「表の値取得のプロパティ」の章をご参照ください。

17.3 テキスト取得

17.3.1 IE 操作(指定 CLASS 内のテキストを取得)

操作対象 IE の指定された CLASS 内のテキストを読み取ります。

表 17-20 IE 操作(指定 CLASS 内のテキストを取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0～)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	対象クラス名	読み取りたいテキストの CLASS を指定してください。
④	インデックス(0～)	読み取りたいクラスの番号を指定してください。
⑤	取得文字	取得したテキストを格納する変数を指定してください。
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.3.2 IE 操作(指定 ID 内のテキストを取得)

操作対象 IE の指定された ID 内のテキストを読み取ります。

表 17-21 IE 操作(指定 ID 内のテキストを取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0～)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	対象 ID	読み取りたいテキストの ID を指定してください。
④	取得文字	取得したテキストを格納する変数を指定してください。
⑤	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑥	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.3.3 IE 操作(指定タグの指定 ID 内のテキストを取得)

操作対象 IE の指定されたタグや ID 内のテキストを読み取ります。

表 17-22 IE 操作(指定タグの指定 ID 内のテキストを取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0～)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	対象タグ	読み取りたいテキストのタグを指定してください。
④	対象 ID	読み取りたいテキストの ID を指定してください。
⑤	取得文字	取得したテキストを格納する変数を指定してください。
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.4 Edge

17.4.1 MicrosoftEdge 起動

指定された URL で Microsoft Edge を起動します。

表 17-23 MicrosoftEdge 起動ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	URL	Edge 起動時に開く URL を指定してください。 ウィンドウの起動を待つ場合は、事前に Edge IE モードで開くように設定した URL を指定してください。 Edge IE モードで開くように設定していない URL を指定し、[ウィンドウ起動待ち]で「待つ」を指定した場合、常にタイムアウトエラーが発生します。
②	ウィンドウ起動待ち	ウィンドウの起動を待つ場合は「待つ」を指定します。 指定された URL と同じ URL を開いたウィンドウが既に存在している場合は待ちません。
③	タイムアウト(秒)	ウィンドウ起動待ちタイムアウト(秒)を指定してください。

17.5 HTTP ファイルダウンロード

URL で指定したファイルをダウンロードし、指定のファイル名で保存します。

表 17-24 HTTP ファイルダウンロードライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	URL	HTTP ファイルの URL を指定してください。 例 ： http://127.0.0.1/hoge/sample.pdf
②	保存ファイル名	保存ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。 例 ： c:¥temp¥sample.pdf

17.6 IE 操作(IE を閉じてから URL を開く)

IE を起動し、設定した URL を開きます。
起動済みの IE がある場合は、それらすべてを閉じてから IE を再起動し、設定した URL のみを開きます。

表 17-25 IE 操作(IE を閉じてから URL を開く)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	URL	起動後に接続する URL を指定してください。
②	URL を開くブラウザ	URL を開くブラウザを選択してください。

17.7 IE 操作(URL 指定)

指定された URL に遷移します。

表 17-26 IE 操作(URL 指定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	URL	遷移先の URL を指定してください。
③	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
④	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.8 IE 操作(位置・サイズ変更)

IE のウィンドウの位置とサイズを変更します。

表 17-27 IE 操作(位置・サイズ変更)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	ウィンドウ左上の X 座標	ウィンドウの X 座標を指定してください。
③	ウィンドウ左上の Y 座標	ウィンドウの Y 座標を指定してください。
④	ウィンドウ幅	ウィンドウの幅を指定してください。
⑤	ウィンドウ高さ	ウィンドウの高さを指定してください。
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.9 IE 操作(全て閉じる)

全ての IE 画面を閉じます。

17.10 IE 操作(指定 CLASS 内のリンク先を取得)

操作対象 IE の指定された CLASS 内のリンクを取得します。

表 17-28 IE 操作(指定 CLASS 内のリンク先を取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0～)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	対象クラス名	取得したいリンクの CLASS を指定してください。
④	インデックス(0～)	読み取りたいクラスの番号を指定してください。
⑤	取得文字	取得したリンクを格納する変数を指定してください。
⑥	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑦	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.11 IE 操作(指定 URL の IE を Close)

指定された URL を開いている Window を閉じます。

表 17-29 IE 操作(指定 URL の IE を Close)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	URL	閉じたい Window が開いている URL を指定してください。 ウィンドウタイトルで区別できない IE を閉じます。 IE の個人設定に依存する可能性有があります。

17.12 IE 操作(表の値取得)

操作対象 IE の表のセルのテキストを取得します。

表 17-30 IE 操作(表の値取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0～)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	タグ番号(0～)。	操作対象の表の番号を指定してください。
④	行番号(1～)	操作対象のセルの行番号を指定してください。
⑤	列番号(1～)	操作対象のセルの列番号を指定してください。
⑥	取得文字	取得結果を格納する変数を指定してください。
⑦	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑧	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

17.13 IE 操作(読込完了待ち)

デスクトップ上の全ての IE が読み込み完了状態になるまで待機します。

17.14 IE 操作(読込完了待ち_タイムアウト付き)

設定したタイムアウト時間内で、
デスクトップ上の全ての IE が読み込み完了状態になるまで待機します。
設定したタイムアウト時間内に読み込みが完了しなかった場合、エラーとなります。
タイムアウト時間が空の場合、タイムアウトは設定されません。

表 17-31 IE 操作(読込完了待ち_タイムアウト付き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	タイムアウト時間	処理のタイムアウト時間を設定します。(秒) 例:60 ※空の場合、タイムアウトは設定されません。

17.15 URL を指定して IE 起動

指定された URL で IE を起動し、ウィンドウが起動するまで待ちます。
指定された URL と同じ URL を開いたウィンドウが既に存在している場合は待ちません。

表 17-32 URL を指定して IE 起動ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	URL	IE を起動する際の URL を指定してください。
②	タイムアウト(秒)	ウィンドウ起動待ちタイムアウト(秒)を指定してください。

17.16 リンクの文字列取得

IE 画面内のリンクが設定されている文字列を取得します。

表 17-33 リンクの文字列取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	的マークのボタンをクリックし、操作対象のウィンドウを選択してください。
②	フレーム番号(0~)	操作対象のフレーム番号を指定してください。
③	n番目の要素(tag)	対象のリンクの番号を指定してください。
④	取得文字列	取得した文字列を格納する変数を指定してください。
⑤	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
⑥	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

18 Excel 関連

18.1 ファイル操作

18.1.1 Excel ファイル名取得

指定されたフォルダ内の Excel ファイル名（絶対パス表記）を1つ取得します。
フォルダ内の先頭のファイルを取得します。

表 18-1 Excel ファイル名取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	フォルダ名	検索するフォルダを絶対パスか相対パスで指定してください。 相対パスと絶対パスが利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ですが、URL は指定できません。
②	ファイル名	結果を格納する変数を指定してください。

18.1.2 Excel 使用中チェック

指定された Excel ファイルが現在開かれているか確認します。
確認した Excel ファイルが使用中ではない場合、ファイルはその後開いたままになります。
ファイルが読み取り専用の場合、他のユーザが開いているかどうかに関わらず常に使用中と判定されます。
ファイル名に URL を指定した場合、ファイルが読み取り専用であっても、常に使用中ではないと判定されます。

表 18-2 Excel 使用中チェックライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	使用中フラグ	実行結果を格納する変数を指定してください。 指定された Excel ファイルが開いていた場合 True、 開いていなかった場合 False になります。

18.1.3 Excel 操作(csv を xls 形式で保存)

Excel で開いている csv ファイルを xls 形式で保存して開き直します。

表 18-3 Excel 操作(csv を xls 形式で保存)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	保存ファイル名	保存するファイル名を指定してください。拡張子を省略した場合は、自動的に.xls を付与します。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 既にファイルが存在する場合は上書きされます。
③	実行結果	実行結果を格納する変数を指定してください。成功した場合は true になります。

18.1.4 Excel 操作(CSV 形式で保存)

指定された Excel ファイルを CSV 形式で保存します。
対象の Excel ファイルは、事前に開いておく必要があります。

表 18-4 Excel 操作(CSV 形式で保存)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を、拡張子を含めて指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	実行結果	実行結果が格納される変数を指定してください。
③	保存ファイル名	保存するファイル名を、拡張子を含めて指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。

18.1.5 Excel 操作(上書き保存)

指定された Excel ファイルを上書き保存します。
対象の Excel ファイルは、事前に開いておく必要があります。

表 18-5 Excel 操作(上書き保存)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	保存後に閉じる	”閉じる”または”閉じない”のいずれかを選択してください。 ”閉じる”を選択した場合、操作対象のファイル保存後にワークブックが閉じられます。 ”閉じない” を選択した場合、操作対象のファイル保存後にワークブックが開かれたままになります。 保存に失敗した場合、”閉じる”を選択していても操作対象のワークブックは閉じられません。
③	実行結果	保存結果を格納する変数を指定してください。 保存に成功した場合は True、失敗した場合は False が格納されます。

18.1.6 Excel 操作(保存なしで閉じる)

指定された Excel ファイルを保存せずに閉じます。
対象の Excel ファイルは、事前に開いておく必要があります。

表 18-6 Excel 操作(保存なしで閉じる)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	実行結果	実行結果を格納する変数を指定してください。 閉じるのに成功した場合 True、失敗した場合 False になります。

18.1.7 Excel 操作(全て閉じる)

現在開いている全ての Excel ファイルを閉じます。

注意事項

保存されていない Excel ファイルは、変更内容を保存せず閉じます。
変更を行った Excel ファイルは保存してから本ライブラリをご使用ください。

18.1.8 Excel 操作(名前を付けて保存)

指定された Excel ファイルに名前を付けて保存します。
対象の Excel ファイルは、事前に開いておく必要があります。

表 18-7 Excel 操作(名前を付けて保存)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	保存ファイル名	保存するファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 指定したファイルが既に存在する場合は内容が上書きされます。
③	保存後に閉じる	”閉じる”または”閉じない”のいずれかを選択してください。 ”閉じる”を選択した場合、操作対象のファイル保存後にワークブックが閉じられます。 ”閉じない” を選択した場合、操作対象のファイル保存後にワークブックが開かれたままになります。 保存に失敗した場合、”閉じる”を選択していても操作対象のワークブックは閉じられません。
④	実行結果	保存結果を格納する変数を指定してください。 保存に成功した場合は True、失敗した場合は False が格納されます。

18.1.9 Excel 操作(新規作成)

指定された Excel ファイルを作成します。
存在しているファイルを指定した場合、確認ダイアログやエラーダイアログが表示され、処理は失敗します。

表 18-8 Excel 操作(新規作成)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	新規に作成するファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	アクティブなシート名を格納する変数を指定してください。

18.1.10 Excel 開く(前面化)

指定された Excel ファイルを開き、最前面に表示します。

表 18-9 Excel 開く(前面化)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.1.11 Excel 開く(書き込みパスワード付き)

書き込みパスワード付きの指定された Excel ファイルを開きます。

表 18-10 Excel 開く(書き込みパスワード付き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	書き込み PW	書き込みパスワードを指定してください。
③	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)

18.1.12 Excel 開く(読み取りパスワード付き)

読み取りパスワード付きの指定された Excel ファイルを開きます。

表 18-11 Excel 開く(読み取りパスワード付き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	読み取り PW	読み取りパスワードを指定してください。
③	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)

18.1.13 Excel 開く(読み取り＆書き込みパスワード付き)

読み取りパスワードと書き込みパスワード付きの指定された Excel ファイルを開きます。

表 18-12 Excel 開く(読み取り＆書き込みパスワード付き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	読み取り PW	読み取りパスワードを指定してください。
③	書き込み PW	書き込みパスワードを指定してください。
④	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)

18.2 シート操作

18.2.1 Excel 操作(yyyy.mm.dd のシート数取得)

指定された Excel ファイルのシート名が yyyy.mm.dd 形式となっているシートの数を取得します。

表 18-13 Excel 操作(yyyy.mm.dd のシート数取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート数	変数を指定してください。シート名が yyyy.mm.dd 形式のシート数を格納します。

注意事項

非表示シートもカウントされます。

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.2.2 Excel 操作(シートコピー)

指定された Excel ファイルのシートをコピーして先頭に複製します。

表 18-14 Excel 操作(シートコピー)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	コピー元シート名	コピーしたいシート名を指定してください。 指定されなかった場合はアクティブなシートが対象となります。
③	コピー先シート名	コピー先のシート名を指定してください。 指定されなかった場合は Excel により自動で生成されたシートが対象となります。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.2.3 Excel 操作(シート削除)

シート名で指定した Excel ファイルのシートを削除します。
指定されたシートにデータがある場合でも、警告を出さず削除します。

表 18-15 Excel 操作(シート削除)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	削除するシートの名前を指定してください。 指定がない場合はアクティブなシートが対象となります。

18.2.4 Excel 操作(シート名取得)

現在アクティブなシートの名前を取得します。

表 18-16 Excel 操作(シート名取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	シートの名前を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.2.5 Excel 操作(シート名変更)

指定した Excel ファイルのシートの名前を変更します。

表 18-17 Excel 操作(シート名変更)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	変更前シート名	名前を変更したいシート名を指定してください。 指定がない場合はアクティブなシートが対象となります。
③	変更後シート名	変更後のシート名を指定してください。 指定がない場合は変更されません。

18.2.6 Excel 操作(シート数取得)

指定された Excel ファイルのシート数を取得します。

表 18-18 Excel 操作(シート数取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート数	シート数を格納する変数を指定してください。

注意事項

非表示シートもカウントされます。

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.2.7 Excel 操作(シート追加)

指定された Excel ファイルにシートを追加します。

表 18-19 Excel 操作(シート追加)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	追加するシート名を指定してください。 指定がない場合は Excel によって自動で名前が設定されます。
③	追加位置	”前”または”後”のいずれかを選択してください。 ”前”を選択した場合、現在アクティブなシートの前(左)に新しいシートが追加されます。 ”後”を選択した場合、現在アクティブなシートの後(右)に新しいシートが追加されます。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.2.8 Excel 操作(シート選択)

指定された Excel ファイルのシートを選択します。
シート名、もしくはシートのインデックス番号による指定が可能です。

表 18-20 Excel 操作(シート選択)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート指定方法	”シート名”または”シートインデックス”のいずれかを選択してください。
③	選択シート	シート指定方法に”シート名”を選択した場合、シート名を指定してください。 シート指定方法に”シートインデックス”を選択した場合、シートのインデックス番号を 1 以上の整数値で指定してください。 シートのインデックス番号は左から 1、2、3…と割り当てられます。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.2.9 Excel 操作(別 Book のシートコピー)

別 Book のシートをコピーして最後尾に複製します。

表 18-21 Excel 操作(別 Book のシートコピー)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	コピー元ファイルパス	複製元のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	コピー先ファイルパス	追加先のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	コピー元シート名	複製するシートの名前を指定してください。 指定されなかった場合はアクティブなシートが対象となります。
④	コピー先シート名	追加するシートの名前を指定します。 指定が無い場合、または既に同名のシートが 存在する場合は Excel によって名前が付けられます。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3 行列操作

18.3.1 Excel 操作(列の読み取り)

指定した Excel ファイルの列の読み取りを行います。

表 18-22 Excel 操作(列の読み取り)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	列(自動カウントアップ)	読み込む列の番号を変数で指定してください。 (1 = A 列、2 = B 列、3 = C 列...) 読み込みが終了するとカウントを 1 アップします。 ファイルが開けなかった等の理由により途中でエラーが発生した場合でも、カウントアップが行われます。
②	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	シート名	操作対象のシートを指定してください。未指定の場合はアクティブなシートになります。
④	1 行	1 行の取得した値を格納する変数を指定してください。
⑤	2 行	2 行の取得した値を格納する変数を指定してください。
⑥	3 行	3 行の取得した値を格納する変数を指定してください。
⑦	4 行	4 行の取得した値を格納する変数を指定してください。
⑧	5 行	5 行の取得した値を格納する変数を指定してください。

18.3.2 Excel 操作(列コピー)

指定する列をコピーします。

表 18-23 Excel 操作(列コピー)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	列目	コピーする列を指定してください。 例)A

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.3 Excel 操作(列ペースト)

指定する列に上書き列ペーストをします。

表 18-24 Excel 操作(列ペースト)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	列目	上書きペーストする列の位置を指定してください。 例)A

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.4 Excel 操作(列削除)

指定する列の削除を行います。

表 18-25 Excel 操作(列削除)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	列目	削除する列を指定してください。指定列が削除されます。 例)A

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.5 Excel 操作(列挿入)

指定する列に列挿入をします。

表 18-26 Excel 操作(列挿入)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	挿入列	空列を挿入する位置を指定してください。指定列に空列が挿入されます。 例)A

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.6 Excel 操作(列移動)

指定する列の移動を行います。

表 18-27 Excel 操作(列移動)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	切取列	移動したい列を指定してください。(例:A 列→1、E 列→5)
④	挿入列	移動先の列を指定してください。(例:A 列→1、E 列→5) 挿入列が切取列よりも右側の場合、挿入列には目的位置に+1 した値を指定してください。(例:切取列が A 列、挿入列が E 列の場合は、切取列→1、挿入列→6)

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.7 Excel 操作(列複製)

指定する列の複製を列挿入します。

表 18-28 Excel 操作(列複製)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	複製列	複製する列の位置を指定してください。 例)A
④	挿入列	列の挿入位置を指定してください。 例)B

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.8 Excel 操作(最終行取得　その1)

指定したシートの最終行を取得します。
UsedRange で使用されているセルの範囲を自動的に求めます。

表 18-29 Excel 操作(最終行取得　その1)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	最終行	取得した最終行を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.9 Excel 操作(最終行取得　その2)

指定したセルの最終行を取得します。
(最初に空白となった行-1 になります。)
※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-30 Excel 操作(最終行取得　その2)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	開始行	操作対象の開始行を指定してください。
④	検索列	検索する列を指定してください。
⑤	最終行	取得した最終行を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.10 Excel 操作(最終行取得 その3)

指定した列の最終行を取得します。
(検索列の 2 行目以降に最初に空白になったセル － 1 を最終行として取得します。)
※A1 形式の列指定のみ対応

表 18-31 Excel 操作(最終行取得 その3)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	検索列	検索する列を指定してください。
④	最終行	取得した最終行を格納する変数を指定してください。

制限事項①:「検索と置換」ダイアログの「検索対象」が「コメント」に変更されている状態で本ライブラリを実行すると、実行結果は常に 1 となります。
制限事項②:本ライブラリ実行により「検索と置換」ダイアログのオプションが以下の通りに変更されます。(括弧内は Range オブジェクトの Find メソッドパラメータ名)

- 検索場所:[シート]に変更
- 検索方向(SearchOrder):実行前の設定を引き継ぎ
- 検索対象(LookIn):実行前の設定を引き継ぎ
- 大文字と小文字を区別する(MatchCase):[チェックなし]に変更
- セル内容が完全に同一であるものを検索する(LookAt):実行前の設定を引き継ぎ
- 半角と全角を区別する(MatchByte):[チェックあり]に変更

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.11 Excel 操作(最終行取得 その4)

指定した列の最終行を取得します。
(シートの最終行から Ctrl + UP したセルの位置を取得します。)
※A1 形式の列指定のみ対応

表 18-32 Excel 操作(最終行取得 その4)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	検索列	検索する列を指定してください。
④	最終行	取得した最終行を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.12 Excel 操作(行の読み取り)

行の読み取りを行います。

表 18-33 Excel 操作(行の読み取り)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	行(自動カウントアップ)	読み込む行の番号を変数で指定してください。 読み取りが終了するとカウントを 1 アップします。 ファイルが開けなかった等の理由により途中でエラーが発生した場合でも、カウントアップが行われます。
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
④	取得方法	セルの値の取得方法を選択してください。 値はセル上の値を取得し、テキストは書式を反映した表示文字を取得します。
⑤	A 列	A列の読み取り結果を格納する変数を指定してください。
⑥	B 列	B列の読み取り結果を格納する変数を指定してください。
⑦	C 列	C列の読み取り結果を格納する変数を指定してください。
⑧	D 列	D列の読み取り結果を格納する変数を指定してください。
⑨	E 列	E列の読み取り結果を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.13 Excel 操作(行コピー)

指定する行をコピーします。

表 18-34 Excel 操作(行コピー)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	行目	コピーする行を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.14 Excel 操作(行ペースト)

指定する行に上書き行ペーストをします。

表 18-35 Excel 操作(行ペースト)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
②	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	行目	上書きペーストする行の位置を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.15 Excel 操作(行列変換ペースト)

指定されたセルへクリップボードの内容をペーストします。
その際、行と列は変換されます。

※1 事前にセルの範囲コピーを行ってください。
※2 A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-36 Excel 操作(行列変換ペースト)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	セル	ペーストを行うセルの位置を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.16 Excel 操作(行削除)

指定する行の削除を行います。

表 18-37 Excel 操作(行削除)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	行目	削除する行を指定してください。指定行が削除されます。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.17 Excel 操作(行挿入)

指定する行に行挿入をします。

表 18-38 Excel 操作(行挿入)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	行目	空行を挿入する位置を指定してください。指定行に空行が挿入されます。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.18 Excel 操作(行移動)

指定する行の移動を行います。

表 18-39 Excel 操作(行移動)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	切取行	移動したい行を指定してください。
④	挿入行	移動先の行を指定してください。 挿入行が切取行よりも下側の場合、挿入行には目的位置に+1 した値を指定してください。(例:切取行が 1 行目、挿入行が 5 行目の場合は、切取行→1、挿入行→6)

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.3.19 Excel 操作(行複製)

指定する行の複製を行挿入します。

表 18-40 Excel 操作(行複製)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。(空の場合はアクティブなシート)
③	複製行	複製する行の位置を指定してください。
④	挿入行	行の挿入位置を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.4 セル操作

18.4.1 Excel 操作(HyperLink をクリック)

指定されたセルのハイパーリンクをクリックします。

※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-41 Excel 操作(HyperLink をクリック)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル	操作対象のセルの位置を A1 形式で指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.4.2 Excel 操作(アクティブセルから指定位置の値取得)

指定された Excel ファイルの現在アクティブなセルから指定された数移動し、移動先のセルの値を取得します。
※カーソル自体の移動はせず、値の参照のみとなります。

例)アクティブなセル → A1
x の値 → 2 、 y の値 → 3
C4 の値を取得します。(アクティブなセルは A1 のままです。)

表 18-42 Excel 操作(アクティブセルから指定位置の値取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	x	アクティブセルからの移動数(水平方向)を指定してください。 例)アクティブセルから水平方向に 1 セル分移動したい場合 右方向に移動 → 1 左方向に移動 → -1
④	y	アクティブセルからの移動数(垂直方向)を指定してください。 例)アクティブセルから垂直方向に 1 セル分移動したい場合 下方向に移動 → 1 上方向に移動 → -1
⑤	格納先変数	取得した値を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.4.3 Excel 操作(アクティブセルのセル位置を取得)

指定した Excel ファイルのアクティブセルのセル位置を取得します。

(例)
アクティブセルが B5 の場合は、以下の値が格納されます。
・行(数値):5
・列(数値):2
・A1 形式:B5
・R1C1 形式:R5C2

表 18-43 Excel 操作(アクティブセルのセル位置を取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシートを指定してください。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
③	行(数値)	取得した行(数値)を格納する変数を指定してください。
④	列(数値)	取得した列(数値)を格納する変数を指定してください。
⑤	A1 形式	A1 形式で取得したセル位置を格納する変数を指定してください。
⑥	R1C1 形式	R1C1 形式で取得したセル位置を格納する変数を指定してください。

18.5 数式

18.5.1 Excel 操作(数式の取得)

指定したセルの数式を取得します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-44 Excel 操作(数式の取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル位置	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。
④	格納先変数	指定したセルの数式を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.5.2 Excel 操作(数式の設定)

指定したセルに数式を設定します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-45 Excel 操作(数式の設定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	設定値	操作対象のセルに設定する数式を指定してください。
②	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
④	セル位置	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.6 文字色＆背景色

18.6.1 Excel 操作(文字色を付ける(セル指定))

指定したセルに文字色を設定します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-46 Excel 操作(文字色を付ける(セル指定))ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル位置	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。
④	赤	RGB 値の赤の強さを 0～255 の間で指定してください。
⑤	緑	RGB 値の緑の強さを 0～255 の間で指定してください。
⑥	青	RGB 値の青の強さを 0～255 の間で指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.6.2 Excel 操作(文字色を付ける(範囲指定))

指定した範囲のセルに文字色を設定します。
※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-47 Excel 操作(文字色を付ける(範囲指定))ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	開始セル	操作対象の開始セルを指定してください。
④	終了セル	操作対象の終了セルを指定してください。
⑤	赤	RGB 値の赤の強さを 0～255 の間で指定してください。
⑥	緑	RGB 値の緑の強さを 0～255 の間で指定してください。
⑦	青	RGB 値の青の強さを 0～255 の間で指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.6.3 Excel 操作(背景色を付ける(セル指定))

指定したセルに背景色を設定します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-48 Excel 操作(背景色を付ける(セル指定))ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル位置	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。
④	赤	RGB 値の赤の強さを 0～255 の間で指定してください。
⑤	緑	RGB 値の緑の強さを 0～255 の間で指定してください。
⑥	青	RGB 値の青の強さを 0～255 の間で指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.6.4 Excel 操作(背景色を付ける(範囲指定))

指定した範囲のセルに背景色を設定します。
※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-49 Excel 操作(背景色を付ける(範囲指定))ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	開始セル	操作対象の開始セルを指定してください。
④	終了セル	操作対象の終了セルを指定してください。
⑤	赤	RGB 値の赤の強さを 0～255 の間で指定してください。
⑥	緑	RGB 値の緑の強さを 0～255 の間で指定してください。
⑦	青	RGB 値の青の強さを 0～255 の間で指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.6.5 Excel 操作(背景色クリア(セル指定))

指定したセルの背景色をクリアします。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-50 Excel 操作(背景色クリア(セル指定))ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル位置	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.6.6 Excel 操作(背景色クリア(範囲指定))

指定した範囲のセルの背景色をクリアします。
※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-51 Excel 操作(背景色クリア(範囲指定))ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	開始セル	操作対象の開始セルを指定してください。
④	終了セル	操作対象の終了セルを指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.7 コピー＆ペースト

18.7.1 Excel 操作(カーソル位置へペースト)

現在開いている Excel ファイルのカーソル位置へ、クリップボードの内容をペーストします。
書式情報を含めてペーストします。

表 18-52 Excel 操作(カーソル位置へペースト)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.7.2 Excel 操作(カーソル位置へ値のみペースト)

現在開いている Excel ファイルのカーソル位置へ、クリップボードの内容をペーストします。
(形式選択:値の貼り付け)
対象の Excel ファイルは、事前に開いておく必要があります。

本ライブラリは、Excel のセルのペーストに対応します。
文字列などのペーストには対応しません。(エラーが発生します)
文字列などをペーストしたい場合は、18.7.1 Excel 操作(カーソル位置へペースト)をご使用ください。

表 18-53 Excel 操作(カーソル位置へ値のみペースト)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.7.3 Excel 操作(ペースト)

指定されたセルへクリップボードの内容を貼り付けます。
※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-54 Excel 操作(ペースト)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル	貼り付けするセルの位置を指定してください。 例 : A1

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.7.4 Excel 操作(値のみペースト)

指定されたセルへクリップボードの内容をペーストします。
(形式選択:値の貼り付け)
対象の Excel ファイルは、事前に開いておく必要があります。
※Excel 以外をペーストする場合にはエラーが発生します。
セルをコピーして値のみペーストする場合にご利用ください。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

本ライブラリは、Excel のセルのペーストに対応します。
文字列などのペーストには対応しません。(エラーが発生します)
文字列などをペーストしたい場合は、18.7.3 Excel 操作(ペースト)をご使用ください。

表 18-55 Excel 操作(値のみペースト)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.7.5 Excel 操作(書式を含めたコピー)

開始セルと終了セル間の範囲を選択しコピーし、指定した場所へペーストします。
※A1 形式のセル指定のみ対応

本ライブラリは 2 つのライブラリから構成されています。
・Excel 操作(範囲コピー)
・Excel 操作(ペースト)

ライブラリ「Excel 操作(範囲コピー)」で指定した範囲のセルをコピーします。その後、ライブラリ「Excel 操作(ペースト)」で指定したセルに、コピーした範囲のセルをペーストします。

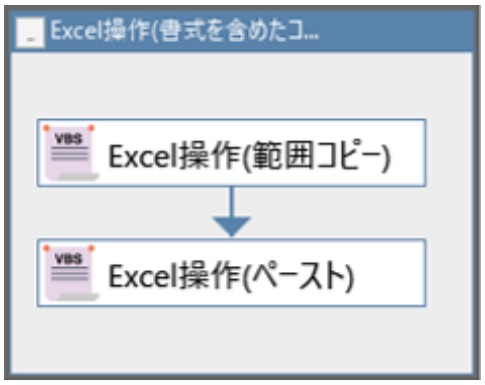


図 18-1Excel 操作(書式を含めたコピー)ライブラリ

表 18-56 Excel 操作(範囲コピー)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	開始セル	操作対象の開始セルを A1 形式で指定してください。
④	終了セル	操作対象の終了セルを A1 形式で指定してください。

表 18-57 Excel 操作(ペースト)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル	ペーストする基点となるセルを A1 形式で指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.7.6 Excel 操作(コピー状態解除)

指定された Excel ファイルのコピーモードまたは切り取りモードを解除し、点滅している枠線を取り除きます。
対象のファイルは事前に開いてください。

表 18-58 Excel 操作(コピー状態解除)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。

18.8 範囲

18.8.1 Excel 操作(AutoFill)

指定されたセルの範囲に AutoFill を適用します。

表 18-59 Excel 操作(AutoFill)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
③	開始セル	AutoFill の開始セルの位置を A1 形式で指定します。
④	終了セル	AutoFill の終了セルの位置を A1 形式で指定します。

18.8.2 Excel 操作(ソート)

指定された Excel ファイルの選択範囲をソートします。

表 18-60 Excel 操作(ソート)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
③	開始セル	ソートしたい範囲の開始セルの位置を A1 形式で指定してください。
④	終了セル	ソートしたい範囲の終了セルの位置を A1 形式で指定してください。
⑤	ソートキーのセル位置	ソートのキーとするセルを、A1 形式か R1C1 形式で指定してください。
⑥	並び替え順序	ソート順序を昇順または降順で指定してください。
⑦	1 行目の扱い	選択範囲の 1 行目を見出しとするかどうかを指定してください。 見出しとする場合は、1 行目がソート対象外になります。 見出しとしない場合は、全範囲がソート対象です。

18.8.3 Excel 操作(範囲を指定して置換)

指定したセルの範囲で置換を行います。
本ライブラリで使用している Find および Replace メソッドは、Excel の「検索と置換」ダイアログの設定を引き継ぐため、本ライブラリ実行前に設定されているオプションにより動作が異なります。

本ライブラリ実行により「検索と置換」ダイアログのオプションが以下の通りに変更されます。(括弧内は Range オブジェクトの Find メソッドパラメータ名)

- 検索場所:[シート]に変更
- 検索方向(SearchOrder):実行前の設定を引き継ぎ
- 検索対象(LookIn):数式に変更
- 大文字と小文字を区別する(MatchCase):[チェックなし]に変更
- セル内容が完全に同一であるものを検索する(LookAt):実行前の設定を引き継ぎ
- 半角と全角を区別する(MatchByte):[チェックあり]に変更

表 18-61 Excel 操作(範囲を指定して置換)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシートの名前を指定してください。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
③	開始セル	置換対象範囲の開始セルの位置を A1 形式で指定してください。
④	終了セル	置換対象範囲の終了セルの位置を A1 形式で指定してください。
⑤	検索する文字列	検索する文字列を指定してください。
⑥	置換後の文字列	置換後の文字列を指定してください。 指定なしの場合は空白で置換されます。

18.8.4 Excel 操作(範囲コピー)

指定されたセルの範囲をクリップボードへコピーします。
※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-62 Excel 操作(範囲コピー)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	開始セル	範囲コピーの開始セルの位置を指定してください。 例 : A1
④	終了セル	範囲コピーの終了セルの位置を指定してください。 例 : B1

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.8.5 Excel 操作(範囲値削除)

指定された範囲のセルの値を削除します。
※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-63 Excel 操作(範囲値削除)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	開始セル	範囲削除の開始セルの位置を指定してください。 例 ： A1
④	終了セル	範囲削除の終了セルの位置を指定してください。 例 ： C3

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.8.6 Excel 操作(範囲指定貼り付け)

Excel ファイルの指定したセル範囲をコピーし、貼付け方法に従って貼付けます。[ファイル名]と[貼付け先ファイル名]に、同一ファイル名で異なるフォルダのブックは指定できません。
開始/終了/貼付け先セルは、A1 形式/R1C1 形式/行/列のいずれかに統一して指定してください。

(例)

A1 形式	開始セル:A1 終了セル:F15 貼付け先:G1
R1C1 形式	開始セル:R1C1 終了セル:R15C65 貼付け先:R1C66
行	開始セル:1 終了セル:155 貼付け先:156
列	開始セル:A 終了セル:F 貼付け先:G

表 18-64 Excel 操作(範囲指定貼り付け)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルパスを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 空の場合はアクティブなシートが設定されます。
③	貼付け方法	貼付け方法を指定してください。それぞれの処理は、Excel の貼り付けと同じです。 開始/終了/貼付けセルが、行/列の指定の場合、「行/列の入れ替え(T)」は選択できません。
④	開始セル	コピーする範囲の開始セルを指定してください。
⑤	終了セル	コピーする範囲の終了セルを指定してください。
⑥	貼付け先ファイル名	操作対象のファイルパスを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 貼付け先が[ファイル名]と同じ場合は、空にしてください。
⑦	貼付け先シート名	操作対象のシート名を指定してください。空の場合はアクティブなシートが設定されます。 また、[ファイル名]と[貼付け先ファイル名]が同じで[貼付け先シート名]が空の場合は、[貼付け先シート名]は[シート名]と同じ値が設定されます。
⑧	貼付け先セル	貼付け先の先頭のセルを指定してください。

18.8.7 Excel 操作(範囲検索)

指定されたセル範囲から指定された文字列を検索します。
※A1 形式のセル指定のみ対応

なお、本ライブラリ実行により「検索と置換」ダイアログのオプションが以下の通りに変更されます。(括弧内は Range オブジェクトの Find メソッドパラメータ名)

- 検索場所:[シート]に変更
- 検索方向(SearchOrder):実行前の設定を引き継ぎ
- 検索対象(LookIn):実行前の設定を引き継ぎ
- 大文字と小文字を区別する(MatchCase):[チェックなし]に変更
- セル内容が完全に同一であるものを検索する(LookAt):実行前の設定を引き継ぎ
- 半角と全角を区別する(MatchByte):[チェックあり]に変更

表 18-65 Excel 操作(範囲検索)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	検索単語	検索する文字列を指定してください。
④	開始セル	範囲検索の開始セルの位置を指定してください。 例 : A1
⑤	終了セル	範囲検索の終了セルの位置を指定してください。 例 : B1

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.8.8 Excel 操作(範囲選択)

指定されたセルの範囲を選択します。
※A1 形式のセル指定のみ対応

表 18-66 Excel 操作(範囲選択)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	開始セル	範囲選択の開始セルの位置を指定してください。 例 : A1
④	終了セル	範囲選択の終了セルの位置を指定してください。 例 : B1

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.9 セル位置

指定されたセル位置から移動したセル位置を変数に格納します。
実際の Excel ファイルは使用しません。

18.9.1 A1 形式→R1C1 形式 その1

Excel のセル指定を、A1 形式から R1C1 形式に変換します。

表 18-67 A1 形式→R1C1 形式 その1ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	A1 形式列	A1 形式の列を指定してください。 例）B3→B または b
②	A1 形式行	A1 形式の行を指定してください。 例）B3→3
③	結果(R1C1 形式)	変換後の結果を格納する変数を指定してください。

18.9.2 A1 形式→R1C1 形式 その2

Excel のセル指定を、A1 形式から R1C1 形式に変換します。

表 18-68 A1 形式→R1C1 形式 その2ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	A1 形式セル	A1 形式のセルを指定してください。 例）B3→B3 または b3
②	結果(R1C1 形式)	変換後の結果を格納する変数を指定してください。

18.9.3 A1 形式　次の行へ

A1 形式の Excel のセル位置を次の行へ移動します。
変数に「A1」が格納されていた場合、「A2」に変更します。

表 18-69 A1 形式　次の行へライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	セル位置 1(A1 形式)	セル位置が格納された変数を指定してください。
②	セル位置 2(A1 形式)	セル位置が格納された変数を指定してください。
③	セル位置 3(A1 形式)	セル位置が格納された変数を指定してください。
④	セル位置 4(A1 形式)	セル位置が格納された変数を指定してください。
⑤	セル位置 5(A1 形式)	セル位置が格納された変数を指定してください。

18.9.4 Excel 関連(次の列のセル位置を取得)

指定されたセル位置の 1 列右のセル位置を返します。

(例)

「C3」という値の変数「セル」を指定した場合(「変数名:値」)

実行前「セル:C3」→実行後「セル:D3」

表 18-70 Excel 関連(次の列のセル位置を取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	セル位置 1(A1 形式)	A1 形式のセル位置が格納された変数を指定してください。 指定位置から 1 列右に移動したセル位置を取得します。 指定された変数の値を上書きします。
②	セル位置 2(A1 形式)	同上
③	セル位置 3(A1 形式)	同上
④	セル位置 4(A1 形式)	同上
⑤	セル位置 5(A1 形式)	同上

18.9.5 R1C1 形式→A1 形式 その1

Excel のセル指定を、R1C1 形式から A1 形式に変換します。

表 18-71 R1C1 形式→A1 形式 その1ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	R1C1 形式行	R1C1 形式の行を指定してください。 例)R3C2→3
②	R1C1 形式列	R1C1 形式の列を指定してください。 例)R3C2→2
③	結果(A1 形式)	変換後の結果を格納する変数を指定してください。

18.9.6 R1C1 形式→A1 形式 その2

Excel のセル指定を、R1C1 形式から A1 形式に変換します。

表 18-72 R1C1 形式→A1 形式 その2ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	R1C1 形式セル	R1C1 形式のセルを指定してください。 例)R3C2 または r3c2
②	結果(A1 形式)	変換後の結果を格納する変数を指定してください。

18.9.7 R1C1 形式 列移動(上書き)

R1C1 形式の Excel のセル位置を指定列数分移動します。

表 18-73 R1C1 形式 列移動(上書き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	セル位置(R1C1 形式)	セルの位置を指定してください。 移動後のセル位置が上書きされます。
②	列移動数	移動する列数を指定してください。

18.9.8 R1C1 形式　列移動(複製)

R1C1 形式の Excel のセル位置を指定列数分移動します。

表 18-74 R1C1 形式　列移動(複製)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	基点のセル位置(R1C1 形式)	セルの位置を指定してください。
②	列移動数	移動する列数を指定してください。
③	移動結果	変数を指定してください。移動結果が格納されます。

18.9.9 R1C1 形式　次の列へ

R1C1 形式の Excel のセル位置を次の列へ移動します。

変数に「R1C1」が格納されていた場合、「R1C2」に変更します。

表 18-75 R1C1 形式　次の列へライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	セル位置(R1C1 形式)	セルの位置を指定してください。

18.9.10 R1C1 形式　次の行へ

R1C1 形式の Excel のセル位置を次の行へ移動します。

変数に「R1C1」が格納されていた場合、「R2C1」に変更します。

表 18-76 R1C1 形式　次の行へライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	セル位置(R1C1 形式)	セルの位置を指定してください。

18.9.11 R1C1 形式　行列移動(上書き)

R1C1 形式の Excel のセル位置を指定行列数分移動します。

表 18-77 R1C1 形式　行列移動(上書き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	セル位置(R1C1 形式)	セルの位置を指定してください。 移動後のセル位置が上書きされます。
②	行移動数	移動する行数を指定してください。
③	列移動数	移動する列数を指定してください。

18.9.12 R1C1 形式　行列移動(複製)

R1C1 形式の Excel のセル位置を指定行列数分移動します。

表 18-78 R1C1 形式　行列移動(複製)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	基点のセル位置(R1C1 形式)	セルの位置を指定してください。
②	行移動数	移動する行数を指定してください。
③	列移動数	移動する列数を指定してください。
④	移動結果	変数を指定してください。移動結果が格納されます。

18.9.13 R1C1 形式　行移動(上書き)

R1C1 形式の Excel のセル位置を指定行数分移動します。

表 18-79 R1C1 形式　行移動(上書き)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	セル位置(R1C1 形式)	セルの位置を指定してください。 移動後のセル位置が上書きされます。
②	行移動数	移動する行数を指定してください。

18.9.14 R1C1 形式　行移動(複製)

R1C1 形式の Excel のセル位置を指定行数分移動します。

表 18-80 R1C1 形式　行移動(複製)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	基点のセル位置(R1C1 形式)	セルの位置を指定してください。
②	行移動数	移動する行数を指定してください。
③	移動結果	移動結果を格納する変数を指定してください。

18.10 フィルタ操作

18.10.1 Excel 操作(フィルタ条件設定)

指定された Excel ファイルのセルにフィルタを設定します。
フィルタ設定後、条件を絞って表示するセルを制限することができます。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-81 Excel 操作(フィルタ条件設定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 指定がなかった場合はアクティブなシートが対象となります。
③	セル位置	フィルタを設定したいセルを、単一セルまたはセル範囲で指定してください。 単一セルによる指定の場合は、当該セルを含むテーブルの 1 行目がヘッダ行として扱われます。単一セルによる指定は、A1 形式または R1C1 形式による指定が可能です。A1 形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。 セル範囲による指定の場合は、指定したセル範囲がヘッダとして扱われます。セル範囲による指定は、A1 形式のみ使用可能です。 例えば A2～C2 をヘッダとして扱いたい場合は、「A2:C2」を指定してください。
④	列番号	絞り込み条件を設定する列を番号で指定してください。 列番号はフィルタ範囲の左から 1、2、3…と割り当てられます。 (例)B4:F10 がフィルタ範囲(B3:F3 がヘッダ部分) B 列に絞り込み条件を設定する場合は 1、 D 列に絞り込み条件を設定する場合は 3 を指定してください。
⑤	絞り込みキー	表示したい条件を指定してください。 指定の値に等しいもののみ表示します。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.10.2 Excel 操作(フィルタ条件設定、件数取得)

指定された Excel ファイルのセルに条件付きのフィルタを設定します。
また、フィルタした結果の件数を取得します。

表 18-82 Excel 操作(フィルタ条件設定、件数取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
③	セル位置	フィルタを設定したいセルを、単一セルまたはセル範囲で指定してください。 単一セルによる指定は、A1 形式または R1C1 形式による指定が可能です。A1 形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。 セル範囲による指定の場合は、指定したセル範囲がヘッダとして扱われます。セル範囲による指定は、A1 形式のみ使用可能です。 (例) A2～C2 をヘッダとして扱いたい場合⇒A2:C2
④	列番号	絞り込み条件をかける列を番号で指定してください。 フィルタが設定されるフィールドの左から 1,2…となります。
⑤	絞込みキー	絞込み用のキーワードを設定してください。 未指定の場合は空白としてフィルタが適用されます。この場合、件数は取得されません。
⑥	データ検索列	データ件数を検索する列を指定してください。 指定する列は、フィルタ範囲に含まれている必要があります。 (例) C 列のデータ件数を確認したい場合⇒C
⑦	データ件数	フィルタ適用後に表示されているデータの件数を格納する変数を指定してください。

18.10.3 Excel 操作(フィルタ複数条件設定(論理演算))

指定した Excel ファイルのセルにフィルタを設定します。
また、2 つの条件の and または or をフィルタ条件として適用します。

(例)
論理演算に and を指定し、
絞り込みキー1:>1
絞り込みキー2:<5
と設定すると、フィルタ条件は「1 より大きく、5 より小さい」となります。

表 18-83 Excel 操作(フィルタ複数条件設定(論理演算))ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
③	セル位置	フィルタを設定したいセルを、単一セルまたはセル範囲で指定してください。 単一セルによる指定は、A1 形式または R1C1 形式による指定が可能です。A1 形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。 セル範囲による指定の場合は、指定したセル範囲がヘッダとして扱われます。セル範囲による指定は、A1 形式のみ使用可能です。 (例) A2～C2 をヘッダとして扱いたい場合⇒A2:C2
④	列番号	絞り込み条件をかける列を番号で指定してください。 フィルタが設定されるフィールドの左から 1,2…となります。
⑤	絞込みキー1	絞込み用の 1 つ目の条件を設定してください。
⑥	論理演算	絞り込みキー1 と絞り込みキー2 の論理演算を、and または or で指定してください。
⑦	絞込みキー2	絞込み用の 2 つ目の条件を設定してください。

18.10.4 Excel 操作(フィルタ複数条件設定)

指定された Excel ファイルのセルにフィルタを設定します。
フィルタ設定後、条件を絞って表示するセルを制限することができます。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能
※絞込キーに<>(空ではないセル)を指定することはできません。

表 18-84 Excel 操作(フィルタ複数条件設定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 指定がなかった場合はアクティブなシートが対象となります。
③	セル位置	フィルタを設定したいセルを、単一セルまたはセル範囲で指定してください。 単一セルによる指定の場合は、当該セルを含むテーブルの 1 行目がヘッダ行として扱われます。単一セルによる指定は、A1 形式または R1C1 形式による指定が可能です。A1 形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。 セル範囲による指定の場合は、指定したセル範囲がヘッダとして扱われます。セル範囲による指定は、A1 形式のみ使用可能です。 例えば A2～C2 をヘッダとして扱いたい場合は、「A2:C2」を指定してください。
④	列番号	絞り込み条件を設定する列を番号で指定してください。 列番号はフィルタ範囲の左から 1、2、3…と割り当てられます。 (例)B4:F10 がフィルタ範囲(B3:F3 がヘッダ部分) B 列に絞り込み条件を設定する場合は 1、 D 列に絞り込み条件を設定する場合は 3 を指定してください。
⑤	絞り込みキー1	表示したい条件を指定してください。 指定の値に等しいもののみ表示します。
⑥	絞り込みキー2	表示したい条件を指定してください。 指定の値に等しいもののみ表示します。

No.	項目	内容
⑦	絞り込みキー3	表示したい条件を指定してください。 指定の値に等しいもののみ表示します。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.10.5 Excel 操作(フィルタ解除)

指定された Excel ファイルのセルのフィルタを解除します。

表 18-85 Excel 操作(フィルタ解除)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 指定がなかった場合はアクティブなシートが対象となります。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.10.6 Excel 操作(フィルタ設定)

指定された Excel ファイルのセルにフィルタを設定します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-86 Excel 操作(フィルタ設定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 指定がなかった場合はアクティブなシートが対象となります。
③	セル位置	フィルタを設定したいセルを、単一セルまたはセル範囲で指定してください。 単一セルによる指定の場合は、当該セルを含むテーブルの 1 行目がヘッダ行として扱われます。単一セルによる指定は、A1 形式または R1C1 形式による指定が可能です。A1 形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。 セル範囲による指定の場合は、指定したセル範囲がヘッダとして扱われます。セル範囲による指定は、A1 形式のみ使用可能です。 例えば A2～C2 をヘッダとして扱いたい場合は、「A2:C2」を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.11 カーソル操作

18.11.1 Excel 操作(カーソル位置の読み取り)

指定された Excel ファイルのカーソル位置を A1 形式で取得します。

表 18-87 Excel 操作(カーソル位置の読み取り)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	カーソル位置	カーソルの位置を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.11.2 Excel 操作(カーソル移動)

指定された Excel ファイルのセルにカーソルを移動します。

※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-88 Excel 操作(カーソル移動)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 指定がなかった場合はアクティブなシートが対象となります。
③	セル位置	カーソルを移動させるセルを指定してください。 A1形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.12 書式

18.12.1 Excel の書式設定

指定された Excel のセルに書式を設定します。

表 18-89 Excel の書式設定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 指定がなかった場合はアクティブなシートが対象となります。
③	対象セル範囲	操作対象のセルを指定してください。 A1形式のみ対応しています。
④	書式設定	対象セル範囲に設定する書式を選択してください。 ”標準”の場合、書式を 標準 に設定します。 ”時刻(hh:mm:ss 表示) ”の場合、 hh:mm:ss 形式 の書式に設定します。 ”日付(yyyymmdd 表示)”の場合、 yyyymmdd 形式 の書式に設定します。 ”日時(yyyy/mm/dd hh:mm:ss 表示)”の場合、yyyy/mm/dd hh:mm:ss 形式 の書式に設定します。 ”数値(右端スペース付き) ”の場合、 0_形式 の数値書式に設定します。 ”8 桁数値(0 フィル) ”の場合、 00000000 形式 の数値書式に設定します。 ”文字列”の場合、書式を 文字列 に設定します。 ”通貨”の場合、 ¥#,##0;¥-#,##0 形式 の書式に設定します。 ”パーセンテージ(%) ”の場合、 0%形式 の書式に設定します。
⑤	ユーザ定義	設定したい書式が④のリストに無かった場合に指定してください。 ④で選択されている書式よりも優先されます。不正な書式はエラーになります。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.13 Excel 操作(PDF 形式で出力)

指定した Excel ファイルを PDF 形式で出力します。

表 18-90 Excel 操作(PDF 形式で出力)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	書き込みファイル名	出力する PDF ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 既に同じ名前の PDF ファイルがある場合、上書きされます。同じ名前の PDF ファイルがアプリケーションなどで開かれている場合は、エラーになります。

18.14 Excel 操作(データー覧連携)

データー覧で開いている Excel ファイルから値を取得します。

表 18-91 Excel 操作(データー覧連携)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	操作	デフォルトで[値の取得]が指定されています。 設定は必要ありません。
②	ファイル名	デフォルトで[$DATALIST-FILE]が指定されています。 設定は必要ありません。
③	シート名	設定は必要ありません。
④	セル位置	データー覧ファイルから値を取得したいセル位置を A1 形式で指定してください。
⑤	変数	取得した値を格納する変数を指定してください。

注意事項

データー覧を使用していない状態で実行した場合、
「指定されたファイルは存在しません。」というエラーが表示されます。

18.15 Excel 操作(マクロ実行)

指定された Excel ファイルのマクロを実行します。

表 18-92 Excel 操作(マクロ実行)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	マクロ名	実行するマクロ名を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.16 Excel 操作(マッチング)

指定したセル同士をマッチングさせ、データを結合します。

例)

ファイル 1	A	B
1	0001	りんご
2	0002	みかん

ファイル 2	E	F
5	0001	150 円
6	0002	100 円

出力ファイル	A	B	C
2	0001	りんご	150 円
3	0002	みかん	100 円

※A1 形式のみ対応

表 18-93 Excel 操作(マッチング)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	マッチングファイル名 1	マッチングを行うファイル名(1 つ目) を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名 1	操作対象のシート名を指定してください。
③	指定セル 1	マッチングを行う項目名のセルの位置を指定してください。 指定された位置から下方向に向かって項目数を算出します。 例 : A1
④	マッチングファイル名 2	マッチングを行うファイル名(2 つ目) を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
⑤	シート名 2	操作対象のシート名を指定してください。
⑥	指定セル 2	マッチングを行う項目名のセルの位置を指定してください。 指定された位置から下方向に向かって項目数を算出します。 例 : E5
⑦	出力ファイル名	結果を出力するファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
⑧	出力シート名	結果を出力するシート名を指定してください。
⑨	出力セル	結果を出力するセルの位置を指定してください。 例 : A2

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.17 Excel 操作(値、書式設定)

指定された Excel ファイルのセルに値と書式を設定します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-94 Excel 操作(値、書式設定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	設定値	設定する値を指定してください。
②	書式	値の書式を Excel の書式指定と同様に指定してください。 例:yyyy/mm/dd、m"月"d"日"、0.00、#,###
③	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
④	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
⑤	セル位置	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1 形式で B3 の場合、R1C1 形式で R3C2

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.18 Excel 操作(値の取得)

指定された Excel ファイルのセルの値を取得します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-95 Excel 操作(値の取得)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル位置	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1形式で B3(B3)の場合、R1C1 形式では R3C2 となります。
④	取得方法	セルの値の取得方法を選択してください。 value を選択した場合、指定したセルの値を取得します。非表示のセルや幅が小さいセルから値を取得したい場面などで選択してください。 text を選択した場合、指定したセルの表示文字列を取得します。表示設定が日付や時刻のセルから表示文字列を取得したい場面などで選択してください。
⑤	格納先変数	変数を指定してください。 取得したセルの値が格納されます。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.19 Excel 操作(値の取得2)

指定された Excel ファイルのセルの値を取得します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-96 Excel 操作(値の取得2)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
③	セル(行)	操作対象のセルの行を指定してください。 A1形式で 3 の場合、R1C1 形式では R3 となります。
④	セル(列)	操作対象のセルの列を指定してください。 A1形式で B の場合、R1C1 形式では C2 となります。
⑤	取得方法	セルの値の取得方法を選択してください。 value を選択した場合、指定したセルの値を取得します。非表示のセルや幅が小さいセルから値を取得したい場面などで選択してください。 text を選択した場合、指定したセルの表示文字列を取得します。表示設定が日付や時刻のセルから表示文字列を取得したい場面などで選択してください。
⑥	格納先変数	取得したセルの値を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.20 Excel 操作(値の設定)

指定された Excel ファイルのセルに値を設定します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-97 Excel 操作(値の設定)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	設定値	設定する値を指定してください。
②	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
④	セル位置	操作対象のセルの位置を指定してください。 A1 形式で B3 の場合、R1C1 形式で R3C2

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.21 Excel 操作(値の設定2)

指定された Excel ファイルのセルに値を設定します。
※A1 形式、または R1C1 形式でセルの指定可能

表 18-98 Excel 操作(値の設定2)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	設定値	設定する値を指定してください。
②	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
④	セル(行)	操作対象のセルの行を指定してください。 A1形式で 3 の場合、R1C1 形式では R3 となります。
⑤	セル(列)	操作対象のセルの列を指定してください。 A1形式で B の場合、R1C1 形式では C2 となります。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。
7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。
7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.22 Excel 操作(印刷)

指定した Excel ファイルを印刷します。
印刷に関する各種設定は、事前に Excel で実施してください。

表 18-99 Excel 操作(印刷)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	入力ファイル名	印刷するファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
②	シート名	印刷するシートを指定してください。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
③	プリンター名	プリンターの名前を指定します。 未指定や存在しないプリンター名を指定した場合は、Excel 上で選択されているプリンターが利用されます。 共有プリンターの場合は、"¥¥{コンピューター名}¥{共有プリンター名}"で指定してください。 (例) コンピューター名が"MyComputer"、共有プリンター名が"MyPrinter"の場合 ¥¥MyComputer¥MyPrinter
④	部数	印刷する部数を指定してください。 未指定の場合は 1 部になります。
⑤	部単位	複数部数の場合に、部単位で印刷するかどうかを指定してください。
⑥	開始ページ数	印刷開始ページ数を指定してください。 未指定の場合は先頭ページになります。
⑦	終了ページ数	印刷終了ページ数を指定してください。 未指定の場合は最終ページになります。

18.23 Excel 操作(引数付きでマクロを実行)

Excel ファイルのマクロを実行します。
本ライブラリはマクロ終了まで待機状態になります。

表 18-100 Excel 操作(引数付きでマクロを実行)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルパスを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	マクロ名	実行対象のマクロを指定してください。 複数のモジュールに同名のマクロがある場合は、モジュール名.マクロ名の形式で指定してください。 (例) Module3.InsertAddress
③	引数	実行対象のマクロの引数を指定してください。 引数が複数ある場合は、「,(カンマ)」で連結してください。 連結の際、カンマの前後には空白を入れないでください。 引数にカンマが含まれる場合や、先頭や末尾に空白が含まれる場合は、対象の引数をダブルクォーテーションで囲んでください。 引数の指定がない場合、空白を指定します。 (例) 引数が{順番,住所,電話番号,名前}で、住所にカンマが、名前に空白が含まれている場合 1,"Yokohama,Kanagawa",045-320-0000," Ichiro Tanaka "

18.24 Excel 操作(検索一致)

指定された範囲で一致したセルの行と列情報を取得します。
指定した範囲に検索単語が存在しない場合、A1 のセルがアクティブとなります。
指定した範囲で最も左上のセルから行方向で検索し、最初に一致したセルの情報を取得します。
※A1 形式のセル指定のみ対応

なお、本ライブラリ実行により「検索と置換」ダイアログのオプションが以下の通りに変更されます。(括弧内は Range オブジェクトの Find メソッドパラメータ名)

- 検索場所:[シート]に変更
- 検索方向(SearchOrder):実行前の設定を引き継ぎ
- 検索対象(LookIn):検索タイプに「文字列」を設定した場合には[値]に変更、検索タイプに「日付」を設定した場合には[数式]に変更
- 大文字と小文字を区別する(MatchCase):[チェックなし]に変更
- セル内容が完全に同一であるものを検索する(LookAt):実行前の設定を引き継ぎ
- 半角と全角を区別する(MatchByte):[チェックあり]に変更

表 18-101 Excel 操作(検索一致)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	検索タイプ	検索するセルの書式を日付か文字列のどちらかで指定してください。 文字列による検索を行う場合:「文字列」 日付による検索を行う場合 :「日付」
②	ファイル名	操作対象のファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	シート名	操作対象のシート名を指定してください。
④	検索単語	検索する単語を指定してください。 ※日付検索を行う場合、書式は「yyyy/m/d」を指定してください。 例:「2018/1/1」 その他の書式では日付検索を行う事ができません。
⑤	開始セル	検索する開始セルを指定してください。
⑥	終了セル	検索する終了セルを指定してください。
⑦	結果(行)	検索した結果の行番号を格納する変数を指定してください。

No.	項目	内容
⑧	結果(列)	検索した結果の列番号を格納する変数を指定してください。

注意事項

他のユーザが開いているファイルを指定した場合、7.1.1 以前と 7.2.0 以降の同梱ライブラリで動作が異なります。

7.1.1 以前に同梱されたライブラリでは、「使用中のファイル」確認ダイアログが表示され、読み取り専用で開くかどうかのユーザ入力が行われるまで処理が中断します。

7.2.0 以降に同梱されたライブラリでは、確認ダイアログなしに読み取り専用で開きます。

18.25 Excel 操作(重複データの削除)

Excel ファイルの指定されたセル範囲で、セルの値が重複しているデータを削除します。

表 18-102 Excel 操作(重複データの削除)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	操作対象のファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	シート名	操作対象のシート名を指定してください。 未指定の場合はアクティブなシートが使用されます。
③	開始セル	範囲の開始セルを A1 形式で指定してください。
④	終了セル	範囲の終了セルを A1 形式で指定してください。
⑤	列番号	重複データを判定するキーの列番号を 1 以上の整数で指定してください。 キーを複数指定する場合はカンマ区切りで指定してください。 例) 1,2
⑥	1 行目の扱い	選択範囲の 1 行目を見出しとするかどうかを指定してください。 見出しとする場合は、1 行目が処理対象外になります。 見出しとしない場合は、全範囲が処理対象です。

19 Word 関連

19.1 Word 操作(ブックマークの前へ挿入)

指定した Word ファイルの指定されたブックマークの前に文字列を挿入します。

表 19-1 Word 操作(ブックマークの前へ挿入)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイルパス	操作対象の Word ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	ブックマーク名	ブックマーク名を指定してください。
③	文字列	挿入する文字列を指定してください。

注意事項

ブックマークが画像を指定している場合、文字列挿入時に指定した画像が削除される場合があります。

19.2 Word 操作(ブックマークの後ろへ挿入)

指定した Word ファイルの指定されたブックマークの後ろに文字列を挿入します。

表 19-2 Word 操作(ブックマークの後ろへ挿入)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイルパス	操作対象の Word ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
①	ブックマーク名	ブックマーク名を指定してください。
②	文字列	挿入する文字列を指定してください。

注意事項

ブックマークが画像を指定している場合、文字列挿入時に指定した画像が削除される場合があります。

19.3 Word 操作(上書き保存)

指定した Word ファイルを上書き保存します。

表 19-3 Word 操作(上書き保存)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイルパス	操作対象の Word ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。

19.4 Word 操作(名前を付けて保存)

指定した Word ファイルに名前を付けて保存します。

表 19-4 Word 操作(名前を付けて保存)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	保存元ファイルパス	操作対象の Word ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
①	保存ファイル名	保存するファイル名を指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。

19.5 Word 操作(検索)

指定した Word ファイルから指定された文字列を検索します。
なお、本ライブラリ実行により「検索と置換」ダイアログの「検索オプション」が以下の通りに変更されます。

- あいまい検索:[チェックなし]に変更
- 完全に一致する単語だけを検索する:[チェックあり]に変更

表 19-5 Word 操作(検索)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイルパス	操作対象の Word ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	検索文字列	検索する文字列を指定してください。
③	結果	検索結果を格納する変数を指定してください。

19.6 Word 操作(表の内容修正)

指定した Word ファイルの表の内容を修正します。

表 19-6 Word 操作(表の内容修正)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
②	ファイルパス	操作対象の Word ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
②	表番号(1～)	修正する表の番号を指定してください。
③	行番号(1～)	修正するセルの行番号を指定してください。
④	列番号(1～)	修正するセルの列番号を指定してください。
⑤	修正文字列	修正する文字列を指定してください。

19.7 Word 操作(表の内容修正 2)

現在アクティブな Word ファイルの表の内容を修正します。

表 19-7 Word 操作(表の内容修正)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	表番号(1～)	修正する表の番号を指定してください。
②	行番号(1～)	修正するセルの行番号を指定してください。
③	列番号(1～)	修正するセルの列番号を指定してください。
④	修正文字列	修正する文字列を指定してください。

注意事項

アクティブなファイルが操作対象となるため、本ライブラリ前に対象ファイルをアクティブにしてください。

19.8 Word 操作(閉じる)

指定した Word ファイルを閉じます。
Word ファイルが編集されている場合、保存されません。

表 19-8 Word 操作(閉じる)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイルパス	操作対象の Word ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。

19.9 Word 操作(開く)

指定した Word ファイルを開きます。
同じファイルが既に開かれていた場合は、特に追加で開く操作を行いません。

表 19-9 Word 操作(開く)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
③	ファイルパス	操作対象の Word ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。

20 メール関連

20.1 Outlook 操作

Outlook 操作のライブラリは、Outlook のインストールやアカウントの設定が行われ、正常に動作する状態でご利用ください。ご利用になる環境状態により、ライブラリが動作しない場合がございます。

20.1.1 Outlook メールと添付ファイルを保存

選択状態のメールと添付ファイルを指定したフォルダに保存します。

表 20-1 Outlook メールと添付ファイルを保存ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル保存先	メールと添付ファイルを保存するフォルダを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
②	メールの連番	保存先に作成するフォルダの連番を数値 8 桁以内で指定してください。

注意事項

Microsoft Outlook の操作が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。

20.1.2 Outlook メール送信

Outlook を使って自動的にメール送信を行います。

表 20-2 Outlook メール送信ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	宛先(To)	宛先を指定してください。
②	宛先(Cc)	宛先(Cc)を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
③	件名	件名を指定してください。
④	本文	本文を指定してください。

注意事項

Microsoft Outlook でメールの送信が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。
「プログラムによって電子メールメッセージが送信されようとしています。」との警告が表れ、メールが送信できない場合は、
Outlook のプログラムによるアクセスに関するセキュリティ設定を変更していただくか、ご利用環境のセキュリティ設定をご確認ください。
本ライブラリは、Outlook のメーラが起動している状態でご利用ください。

20.1.3 Outlook メール送信(メーラ起動、停止含む)

Outlook のメーラを起動し、メール送信を行ない、メーラを停止します。

表 20-3 Outlook メール送信(メーラ起動、停止含む)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	宛先(To)	宛先を指定してください。
②	宛先(Cc)	宛先(Cc)を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
③	件名	件名を指定してください。
④	本文	本文を指定してください。

注意事項

Microsoft Outlook でメールの送信が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。
「プログラムによって電子メールメッセージが送信されようとしています。」との警告が表れ、メールが送信できない場合は、
Outlook のプログラムによるアクセスに関するセキュリティ設定を変更していただくか、ご利用環境のセキュリティ設定をご確認ください。
本ライブラリは、Outlook のメーラが起動していない状態でご利用ください。

20.1.4 Outlook メール送信(添付ファイル付)

Outlook を使って自動的にメール送信(添付ファイル付)を行います。

表 20-4 Outlook メール送信(添付ファイル付)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	宛先(To)	宛先を指定してください。
②	宛先(Cc)	宛先(Cc)を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
③	添付ファイル	添付ファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
④	添付タイトル	添付タイトルを指定してください。
⑤	件名	件名を指定してください。
⑥	本文	本文を指定してください。

注意事項

Microsoft Outlook でメールの送信が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。
「プログラムによって電子メールメッセージが送信されようとしています。」との警告が表れ、メールが送信できない場合は、
Outlook のプログラムによるアクセスに関するセキュリティ設定を変更していただくか、ご利用環境のセキュリティ設定をご確認ください。
本ライブラリは、Outlook のメーラが起動している状態でご利用ください。

20.1.5 Outlook メール送信(添付ファイル付)(メーラ起動、停止含む)

Outlook のメーラを起動し、メール送信(添付ファイル付)を行ない、メーラを停止します。

表 20-5 Outlook メール送信(添付ファイル付)(メーラ起動、停止含む)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	宛先(To)	宛先を指定してください。
②	宛先(Cc)	宛先(Cc)を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
③	添付ファイル	添付ファイルを指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です。
④	添付タイトル	添付タイトルを指定してください。
⑤	件名	件名を指定してください。
⑥	本文	本文を指定してください。

注意事項

Microsoft Outlook でメールの送信が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。
「プログラムによって電子メールメッセージが送信されようとしています。」との警告が表れ、メールが送信できない場合は、
Outlook のプログラムによるアクセスに関するセキュリティ設定を変更していただくか、ご利用環境のセキュリティ設定をご確認ください。
本ライブラリは、Outlook のメーラが起動していない状態でご利用ください。

20.1.6 Outlook 予定の検索

指定期間内の予定の有無を検索します。

表 20-6 Outlook 予定の検索ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	開始日時	開始日時を YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式で指定してください。
②	終了日時	終了日時を YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式で指定してください。 未指定の場合は「開始日時」と同様の指定を行います。
③	予定区分	終日予定を含めて検索するのかを指定してください。 0 または未指定の場合は「全体」、 1 を指定した場合は「終日予定を除く」となります。
④	予定検索結果	予定の検索結果を格納する変数を指定してください。 該当する結果がある場合は「1」、 ない場合は「0」を格納します。

注意事項

Microsoft Outlook の操作が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。

20.1.7 Outlook 受領メールを全員に返信(送信前)

選択状態のメールから「全員に返信する」でメールを作成します。

表 20-7 Outlook 受領メールを全員に返信(送信前)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	件名	返信メールの件名を指定してください。 未指定時はデフォルトの件名が設定されます。
②	メール内容	返信するメールの内容を指定してください。

注意事項

Microsoft Outlook でメールの送信が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。
作成したメールの送信は行いません。

20.1.8 Outlook 新しい予定の登録

新しい予定を登録します。

表 20-8 Outlook 新しい予定の登録ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	開始日時	開始日時を YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式で指定してください。
②	終了日時	終了日時を YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式で指定してください。
③	件名	件名を指定してください。
④	場所	場所情報を指定してください。
⑤	予定区分	予定区分(日時、終日)を指定してください。 0 または未指定の場合は「日時予定」、 1 を指定した場合は「終日予定」となります。
⑥	内容	詳細内容を指定してください。

注意事項

Microsoft Outlook の操作が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。

20.1.9 Outlook 条件を指定して対象メール件数取得

検索対象の受信フォルダから条件を指定してメールを検索し、検索条件に合ったメール数を取得します。
指定する検索条件を増やすことで、検索結果を絞ることができます。
検索対象とする受信フォルダは、「メールボックス¥フォルダ¥フォルダ¥・・・」形式で設定してください。(例 aaaa@bbb.cc¥受信トレイ)
件名、本文、差出人、宛先は部分一致となります。

表 20-9 Outlook 条件を指定して対象メール件数取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	検索対象フォルダ	検索対象とする受信フォルダを設定してください。
②	区切り文字	受信フォルダの階層を示す文字を指定してください。
③	件名	件名を指定してください。
④	本文	本文を指定してください。
⑤	差出人	差出人のメールアドレスを指定してください。
⑥	宛先	宛先の表示名または CC 表示名を指定してください。
⑦	受信日時	次から受信日時を選択してください。 昨日、今日、過去 7 日以内、先週、今週、先月、今月
⑧	送信日時	次から送信日時を選択してください。 昨日、今日、過去 7 日以内、先週、今週、先月、今月
⑨	添付ファイル有無	添付ファイルの有無を指定してください。
⑩	検索件数	検索条件に合ったメール数を格納する変数を指定してください。

注意事項

メールフォルダに次の文字を使用している場合は、正しく動作しない場合があります。本ライブラリを使用する前に、メールフォルダ名などを変更してください。「¥、/、#、$、%」
検索対象のメールが多い場合、処理に時間がかかる場合があります。
本ライブラリは、Outlook のメーラが起動している状態でご利用ください。

20.1.10 Outlook 条件を指定して対象メール保存

検索対象の受信フォルダから条件を指定してメールを検索し、検索条件に合ったメールを保存します。
この時、検索条件に合ったメール件数が保存上限数を越えている場合、メールの保存は行わず、検索条件に合ったメール件数を検索件数に指定した値に格納します。
検索条件に合ったメール件数が保存上限数より少ない場合、指定したファイル保存先にメールの保存を行い、保存したメール件数を保存件数に指定した値に格納します。
指定する検索条件が多いほど、検索結果を絞ることができます。
検索対象とする受信フォルダは、「メールボックス¥フォルダ¥フォルダ¥・・・」形式で設定してください。(例 aaaa@bbb.cc¥受信トレイ)
件名、本文、差出人、宛先は部分一致となります。
メールを保存するフォルダ名は、「受信日_受信時_8 桁通番」となります。8 桁通番は、ファイル保存先に同じ名前のフォルダができないように、通番を更新して設定します。

表 20-10 Outlook 条件を指定して対象メール保存ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル保存先	検索条件に合ったメールを保存するフォルダを設定してください。
②	検索対象フォルダ	検索対象とする受信フォルダを設定してください。
③	区切り文字	受信フォルダの階層を示す文字を指定してください。
④	件名	件名を指定してください。
⑤	本文	本文を指定してください。
⑥	差出人	差出人のメールアドレスを指定してください。
⑦	宛先	宛先の表示名または CC 表示名を指定してください。
⑧	受信日時	次から受信日時を選択してください。 昨日、今日、過去 7 日以内、先週、今週、先月、今月
⑨	送信日時	次から送信日時を選択してください。 昨日、今日、過去 7 日以内、先週、今週、先月、今月
⑩	添付ファイル有無	添付ファイルの有無を指定してください。
⑪	保存上限件数	保存上限件数を指定してください。
⑫	検索件数	検索条件に合ったメール数を格納する変数を指定してください。(検索条件に合ったメール件数が保存上限数を越えている場合のみ、結果が格納されます。)

No.	項目	内容
⑬	保存件数	保存したメール数を格納する変数を指定してください。(検索条件に合ったメール件数が保存上限数より少ない場合のみ、結果が格納されます。)

注意事項

メールフォルダに次の文字を使用している場合は、正しく動作しない場合があります。本ライブラリを使用する前に、メールフォルダ名などを変更してください。「¥、/、#、$、%」

保存上限数を指定しない場合、検索条件に合った全てのメールを保存します。

保存対象のメールが多い場合、処理に時間がかかる場合があります。

本ライブラリは、Outlook のメーラが起動している状態でご利用ください。

20.1.11 Outlook メーラ終了

起動している Outlook のメーラを終了します。複数のメーラが起動している場合、全てのメーラが終了します。
メーラを起動せずメールファイルを開いている状況は、本ライブラリの対象外です。

20.1.12 Outlook メーラ起動

Outlook のメーラを起動します。受信トレイが開きます。
すでにメーラが起動している場合、新たにメーラを追加で起動することはありません。

本ライブラリは 2 つのライブラリから構成されています。
・Outlook メーラ起動
・Outlook 画面前面化

ライブラリ「Outlook メーラ起動」で Outlook を起動し、ライブラリ「Outlook 画面前面化」で起動した Outlook の画面を前面化します。

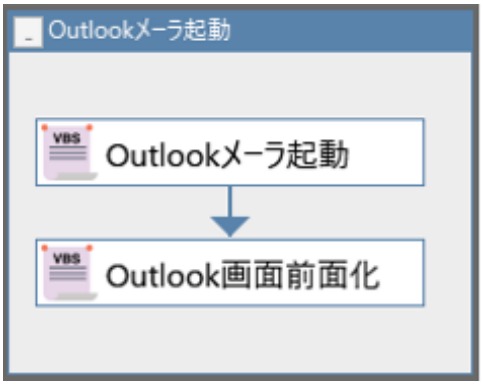


図 20-1 Outlook メーラ起動ライブラリ

表 20-11 Outlook メーラ起動ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ウィンドウ識別名	操作対象のウィンドウを指定します。 デフォルトで受信トレイが指定されています。 設定値の変更は必要ありません。
②	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト(ミリ秒)(任意)」の値が有効になります。
③	タイムアウト(ミリ秒)(任意)	「ウィンドウ識別名」で指定したウィンドウを見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

20.1.13 Outlook メーラ起動 2

Outlook のメーラを起動します。受信トレイが開きます。
本ライブラリは、Outlook のフォーカス切り替え処理を Alt＋Tab キー操作によって実現します。
すでにメーラが起動している場合、新たにメーラを追加で起動することはありません。

表 20-12 Outlook メーラ起動 2 ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	待機時間	フォーカスの切り替え処理を行う前後の時間をミリ秒単位で指定してください。

注意事項

本ライブラリの実行後、Outlook が最前面になるかどうかは不定です。
Outlook が最前面にあることを前提としたシナリオを作成したい場合は、本ライブラリの後に「ウィンドウの前面化」を実行し、Outlook を最前面に変更してから後続の処理を行うようにしてください。

20.1.14 Outlook メーラ起動確認

Outlook のメーラ起動状態を確認します。
メーラの起動状態によって以下の値を確認結果に格納します。

表 20-13 Outlook メーラ起動確認ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	確認結果	メーラ起動確認の結果を格納する変数を指定します。 メーラが起動している場合 True、起動していない場合 False、メールファイルを開いているのみの場合 False が格納されます

注意事項

Office の仕様により、起動した Office オブジェクトはすぐにはオブジェクトテーブル(ROT))に登録されないため、同一シナリオ内での初回の「Outlook メーラ起動」直後では正しい確認結果を得られない場合があります。
「Outlook メーラ起動」の前処理として、既に Outlook が起動しているかどうかの確認用としてお使いください。同一シナリオ内で起動した Outlook の起動確認には「Outlook メーラ起動確認」の代わりに「ウィンドウ状態待機」をお使いください。

20.1.15 Outlook 操作(メール下書き保存)

Outlook でメールを作成し、下書き保存します。
Outlook の件名は全角半角に関係なく 255 文字になります。256 文字以上指定した場合は 255 文字までが下書きに設定されます。

表 20-14 Outlook 操作(メール下書き保存)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	宛先(To)	宛先(To)のアドレスを指定してください。
②	宛先(Cc)	宛先(Cc)のアドレスを指定してください。
③	宛先(Bcc)	宛先(Bcc)のアドレスを指定してください。
④	件名	メールの件名を指定してください。
⑤	本文	メールの本文を指定してください。
⑥	下書き保存後	下書き保存後、メールの作成ウィンドウを閉じるかそのままにするかを指定してください。

20.2 ThunderBird 操作

20.2.1 ThunderBird メール送信

ThunderBird を使って自動的にメール送信を行います。

本ライブラリは 7 つのノードと 5 つのライブラリから構成されています。

ノード(名前):

- ・ウィンドウ状態待機
- ・指定時間待機
- ・クリップボード(宛先)
- ・クリップボード(件名)
- ・クリップボード(本文)

ライブラリ

- ・新規メール作成
- ・貼り付け
- ・送信

ノード「指定時間待機」は 3 つ配置されています。
ライブラリ「貼り付け」は 3 つ配置されています。

本ライブラリはサブルーチングループのため、「サブルーチンの呼び出し」ノードを使用して呼び出してください。
本ライブラリをフローチャートに追加時、自動的に変数「宛先」「件名」「本文」「結果」が追加されます。
変数「宛先」「件名」「本文」の指定方法は、下記の表を参照してください。
変数「結果」には本ライブラリ内の「ウィンドウ状態待機」で ThunderBird のメール作成画面を取得した結果が格納されます。
ライブラリ「新規メール作成」で ThunderBird の作成ウィンドウを開き、ノード「ウィンドウ状態待機」で作成ウィンドウが開くまで待機します。「宛先」グループではノード「指定時間待機」で指定時間待機後に、ノード「クリップボード(宛先)」で指定した宛先の値をクリップボードに設定します。ライブラリ「貼り付け」で、作成ウィンドウに宛先をエミュレーションで貼り付けます。同様に、「件名」グループでは件名を、「本文」グループでは本文を作成ウィンドウに貼り付けます。その後、ライブラリ「送信」でメールをエミュレーションで送信します。

「ウィンドウ状態待機」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『ウィンドウ状態待機』の章を参照してください。
「指定時間待機」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『指定時間待機』の章を参照してください。
「クリップボード」の詳細は、『WinActor 操作マニュアル』の『クリップボード』の章を参照してください。

図 20-2 ThunderBird メール送信ライブラリ

表 20-15 ThunderBird メール送信／宛先ノード設定項目

No.	項目	内容
①	宛先	宛先を指定してください。

表 20-16 ThunderBird メール送信／件名ノード設定項目

No.	項目	内容
①	件名	件名を指定してください。

表 20-17 ThunderBird メール送信／本文ノード設定項目

No.	項目	内容
①	本文	本文を指定してください。

注意事項

ThunderBird でメールの送信が行なえるパソコンでのみ動作可能なライブラリです。

20.3 WinActor メール管理

メール受信ライブラリの詳細については、『WinActor メール受信シナリオ作成マニュアル』をご参照ください。

20.4 メール送信

自動的にメール送信を行います。

表 20-18 メール送信ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	差出人	差出人を指定してください。
②	宛先	宛先を指定してください。
③	件名	件名を指定してください。
④	本文	本文を指定してください。
⑤	SMTP サーバ	SMTP サーバを指定してください。
⑥	SMTP ポート	SMTP ポートを指定してください。

21 PowerPoint 関連

21.1 PowerPoint 操作(テキスト挿入)

現在アクティブな PowerPoint ファイルの指定されたスライドにテキストを追加します。

表 21-1 PowerPoint 操作(テキスト挿入)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	テキスト	挿入したいテキストを指定してください。
②	スライド番号	挿入先のスライド番号を指定してください。
③	挿入位置	テキストを挿入する位置を x,y,w,h 形式で指定してください。 例)10,10,200,100

22 OS 関連

22.1 HDD 情報収集

ハードディスクの情報を収集して Excel ファイルに書き出します。

収集する情報
ドライブ名、容量(GB)、空き(GB)、ファイルシステム

表 22-1 HDD 情報収集ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	書き込みファイルパス	収集した HDD 情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。

22.2 イベントログ登録(エラー)

OS のイベントログにエラー情報を登録します。
エラーのソースは WSH になります。

表 22-2 イベント登録(エラー)ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	情報	登録するエラー情報を指定してください。

22.3 コンピュータ名取得

コンピュータ名を取得します。

表 22-3 コンピュータ名取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	コンピュータ名	取得したコンピュータ名を格納する変数を指定してください。

22.4 ネットワーク情報収集

ネットワークの情報を収集して Excel ファイルに書き出します。

収集する情報

IP、NIC 名

表 22-4 ネットワーク情報収集ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	書き込みファイルパス	収集したネットワーク情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。

22.5 マシン情報収集

マシン情報を収集して Excel ファイルに書き出します。

収集する情報

BIOS_種類、BIOS_製造元、BIOS_シリアルナンバー、BIOS_バージョン、
Processor_種類、Processor_名前、Processor_製造元、
BaseBoard_種類、BaseBoard_製造元、BaseBoard_製品、
OperatingSystem_種類、OperatingSystem_BOOT、
OperatingSystem_CAPTION

表 22-5 マシン情報収集ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	書き込みファイルパス	収集したマシン情報を書き込む Excel ファイルを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。 本ライブラリは Office 関連ではありませんが、URL も指定できます。

23 ブラウザ関連

23.1 ブラウザ操作

ブラウザ関連ライブラリの詳細については、『WinActor ブラウザ操作シナリオ作成マニュアル』をご参照ください。

24 Java 関連

24.1 Java アプリケーション操作

Java 関連ライブラリの詳細については、『WinActor Java アプリケーション操作シナリオ作成マニュアル』をご参照ください。

25 WinActor ノート

25.1 WinActor ノート

WinActor ノートを用いたテキスト処理機能関連ライブラリの詳細については、『WinActor ノート テキスト処理シナリオ作成マニュアル』をご参照ください。
※WinActor ノートの操作や機能については、『WinActor ノート 操作マニュアル』をご参照ください。

26 WinActorEye

26.1 WinActorEye

WinActorEye を用いた WinActorEye 関連ライブラリの詳細については、『WinActorEye シナリオ作成マニュアル』をご参照ください。

※WinActorEye の操作や機能については、『WinActorEye 操作マニュアル』をご参照ください。

27 MicrosoftGraph 関連

27.1 Excel

27.1.1 値の取得

Microsoft Graph を使って、OneDrive 上にある Excel ファイル内のセルの値を取得します。

本機能を実行する前に、「ツール」メニュー ＞「外部サービス連携」画面 ＞「Microsoft 連携」画面でサインインを行い、トークンを取得してください。
また、トークンの有効期限が切れた場合は、再度「Microsoft 連携」画面でトークンを取得してください。

表 27-1 MicrosoftGraph 関連/Excel/値の取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	対象の Excel ファイル名を、OneDrive のルートフォルダからの相対パスで指定してください。 フォルダ・ファイル名の区切りは、/（スラッシュ）にしてください。
②	シート名	対象のシート名を指定してください。
③	セル位置（A1 形式）	対象のセル位置を、A1 形式で指定してください。 単一のセルのみ指定可能で、複数のセルを含む範囲（A1:B2 など）は指定できません。 列は A～XFD、行は 1～1048576 の範囲が指定できます。
④	変数名	取得したセルの値を格納する変数名を指定してください。 存在しない変数名を指定すると、エラーになります。
⑤	タイムアウト時間（秒）	タイムアウト時間を秒単位で指定してください。 0 を指定すると、タイムアウトなしとなり、無限に待機します。

27.1.2 値の設定

Microsoft Graph を使って、OneDrive 上にある Excel ファイル内のセルの値を設定します。

本機能を実行する前に、「ツール」メニュー ＞「外部サービス連携」画面 ＞「Microsoft 連携」画面でサインインを行い、トークンを取得してください。
また、トークンの有効期限が切れた場合は、再度「Microsoft 連携」画面でトークンを取得してください。

表 27-2 MicrosoftGraph 関連/Excel/値の設定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	ファイル名	対象の Excel ファイル名を、OneDrive のルートフォルダからの相対パスで指定してください。 フォルダ・ファイル名の区切りは、/（スラッシュ）にしてください。
②	シート名	対象のシート名を指定してください。
③	セル位置（A1 形式）	対象のセル位置を、A1 形式で指定してください。 単一のセルのみ指定可能で、複数のセルを含む範囲（A1:B2 など）は指定できません。 列は A～XFD、行は 1～1048576 の範囲が指定できます。
④	変数名	セルに設定する値を格納した変数名を指定してください。 存在しない変数名を指定すると、エラーになります。
⑤	タイムアウト時間（秒）	タイムアウト時間を秒単位で指定してください。 0 を指定すると、タイムアウトなしとなり、無限に待機します。

27.2 Outlook

27.2.1 イベント一覧取得

Microsoft Graph を使って、イベント一覧を取得します。

本機能を実行する前に、「ツール」メニュー ＞「外部サービス連携」画面 ＞「Microsoft 連携」画面でサインインを行い、トークンを取得してください。

表 27-3 MicrosoftGraph 関連/Outlook/イベント一覧取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	開始日時	開始日時を指定してください。 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)
②	終了日時	終了日時を指定してください。 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS) 未指定の場合は、開始日時と同じ日時となります。
③	予定区分	予定区分(全体、日時予定、終日予定)を指定してください。
④	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。 Microsoft Graph API を通して取得したデータ「value」が格納されます。 配列の要素を読み取る場合は、「98_構造データ関連」配下のライブラリ(「01_JSON¥JSON 変数 配列読み取り」など)を使用してください。
⑤	タイムアウト（ミリ秒）	タイムアウト時間を指定してください。 未指定の場合は、10,000 ミリ秒となります。 0 を指定すると、タイムアウトなしとなり、無限に待機します。

27.2.2 イベント作成

Microsoft Graph を使って、新しいイベントを作成します。

本機能を実行する前に、「ツール」メニュー ＞「外部サービス連携」画面 ＞「Microsoft 連携」画面でサインインを行い、トークンを取得してください。

表 27-4 MicrosoftGraph 関連/Outlook/イベント作成ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	開始日時	開始日時を指定してください。 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)
②	終了日時	終了日時を指定してください。 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS) 未指定の場合は、開始日時と同じ日時となります。
③	件名	イベントの件名を指定してください。
④	場所	場所情報を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑤	予定区分	予定区分(日時予定、終日予定)を指定してください。
⑥	内容	イベントの内容を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑦	タイムアウト（ミリ秒）	タイムアウト時間を指定してください。 未指定の場合は、10,000 ミリ秒となります。 0 を指定すると、タイムアウトなしとなり、無限に待機します。

27.2.3 メール下書き作成

Microsoft Graph を使って、メール下書きを作成します。

本機能を実行する前に、「ツール」メニュー ＞「外部サービス連携」画面 ＞「Microsoft 連携」画面でサインインを行い、トークンを取得してください。

表 27-5 MicrosoftGraph 関連/Outlook/メール下書き作成ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	宛先(To)	宛先(To)メールアドレスを指定してください。 複数のメールアドレスを指定する場合は、; で区切ってください。
②	宛先(Cc)	宛先(Cc)メールアドレスを指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。 複数のメールアドレスを指定する場合は、; で区切ってください。
③	宛先(Bcc)	宛先(Bcc)メールアドレスを指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。 複数のメールアドレスを指定する場合は、; で区切ってください。
④	添付ファイル	添付ファイルを絶対パスか相対パスで指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑤	添付タイトル	添付ファイル名を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑥	件名	メールの件名を指定してください。
⑦	本文	メールの本文を指定してください。
⑧	タイムアウト(ミリ秒)	タイムアウト時間を指定してください。 未指定の場合は、10,000 ミリ秒となります。 0 を指定すると、タイムアウトなしとなり、無限に待機します。

27.2.4 メール検索

Microsoft Graph を使って、指定された条件のメール一覧を取得します。
指定する検索条件を増やすことで、検索結果を絞ることができます。

本機能を実行する前に、「ツール」メニュー ＞「外部サービス連携」画面 ＞
「Microsoft 連携」画面でサインインを行い、トークンを取得してください。

表 27-6 MicrosoftGraph 関連/Outlook/メール検索ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	検索対象フォルダ	検索対象とするメールフォルダを指定してください。
②	差出人	差出人メールアドレスを指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
③	宛先(To)	宛先(To)メールアドレスを指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
④	宛先(Cc)	宛先(Cc)メールアドレスを指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑤	宛先(Bcc)	宛先(Bcc)メールアドレスを指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑥	添付ファイル有無	メールの添付ファイル有無を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑦	件名	メールの件名を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑧	本文	メールの本文を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑨	受信日	受信日を YYYY/MM/DD 形式で指定してください。 期間で指定する場合は、YYYY/MM/DD-YYYY/MM/DD 形式で指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑩	送信日	送信日を YYYY/MM/DD 形式で指定してください。 期間で指定する場合は、YYYY/MM/DD-YYYY/MM/DD 形式で指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑪	最大取得件数	取得するメール件数の上限を指定してください。

		未指定の場合は、10 件となります。 0 を指定すると、上限なしとなり、全件取得します。
⑫	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。 Microsoft Graph API を通して取得したデータ「value」が格納されます。 配列の要素を読み取る場合は、「98_構造データ関連」配下のライブラリ(「01_JSON¥JSON 変数 配列読み取り」など)を使用してください。
⑬	タイムアウト(ミリ秒)	タイムアウト時間を指定してください。 未指定の場合は、10,000 ミリ秒となります。 0 を指定すると、タイムアウトなしとなり、無限に待機します。

27.2.5 メール送信

Microsoft Graph を使って、メールを送信します。

本機能を実行する前に、「ツール」メニュー ＞「外部サービス連携」画面 ＞「Microsoft 連携」画面でサインインを行い、トークンを取得してください。

表 27-7 MicrosoftGraph 関連/Outlook/メール送信ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	宛先(To)	宛先(To)メールアドレスを指定してください。 複数のメールアドレスを指定する場合は、; で区切ってください。
②	宛先(Cc)	宛先(Cc)メールアドレスを指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。 複数のメールアドレスを指定する場合は、; で区切ってください。
③	宛先(Bcc)	宛先(Bcc)メールアドレスを指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。 複数のメールアドレスを指定する場合は、; で区切ってください。
④	添付ファイル	添付ファイルを絶対パスか相対パスで指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑤	添付タイトル	添付ファイル名を指定してください。 省略する場合は、未指定のままとしてください。
⑥	件名	メールの件名を指定してください。
⑦	本文	メールの本文を指定してください。
⑧	タイムアウト(ミリ秒)	タイムアウト時間を指定してください。 未指定の場合は、10,000 ミリ秒となります。 0 を指定すると、タイムアウトなしとなり、無限に待機します。

27.2.6 メール添付ファイル保存

Microsoft Graph を使って、メール添付ファイルを保存します。

本機能を実行する前に、「ツール」メニュー ＞「外部サービス連携」画面 ＞「Microsoft 連携」画面でサインインを行い、トークンを取得してください。

表 27-8 MicrosoftGraph 関連/Outlook/メール添付ファイル保存ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	メッセージ ID	「メール検索」にて取得したメール情報の id を指定してください。
②	ファイル保存先	ファイル保存先を絶対パスか相対パスで指定してください。
③	タイムアウト（ミリ秒）	タイムアウト時間を指定してください。 未指定の場合は、10,000 ミリ秒となります。 0 を指定すると、タイムアウトなしとなり、無限に待機します。

98 構造データ関連

98.1 JSON

98.1.1 JSON ファイル 配列サイズ

JSON 文字列内の配列要素の要素数を取得します。
ファイルに格納された JSON 文字列から配列の要素数を取得する際に使用します。

表 98-1 JSON ファイル 配列サイズライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON ファイル	取得元となる JSON ファイルパスを指定してください。 “…”ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが開きます。
②	キー	配列を要素とするキー名を指定してください。
③	配列数	配列の要素数を格納する変数名を指定してください。

98.1.2 JSON ファイル 配列読み取り

JSON 文字列内の配列要素から値を取得します。
ファイルに格納された JSON 文字列から配列要素を取得する際に使用します。

表 98-2 JSON ファイル 配列読み取りライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON ファイル	取得元となる JSON ファイルパスを指定してください。 “…”ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが開きます。
②	キー	配列を要素とするキー名を指定してください。
③	インデックス	取得する配列のインデックス値を指定してください。
④	読み取り目的	要素を読み取る目的を選択してください。 “転記”は、取得した値を別の JSON 文字列に転記する際に使用します。 “値参照”は、JSON 文字列の要素を直接取得する際に使用します。 “転記”と“値参照”の違いは下記 2 点になります。 ・STRING 型の要素について “転記”の場合、「文字列」が変数に格納されます。 “値参照”の場合、「“文字列”」が変数に格納されます。 ・NULL 型の要素について “転記”の場合、「」(空値)が変数に格納されます。 “値参照”の場合、「null」が変数に格納されます。 “型判定”は、要素の型を利用する際に使用します。 型には、INTEGER(整数)、FLOAT(小数)、STRING(文字列)、OBJECT(オブジェクト)、ARRAY(配列)、BOOLEAN(真偽)、NULL(空)の 7 種類があります。
⑤	値	取得した値を格納する変数名を指定してください。

98.1.3 JSON 変数 ファイル保存

JSON 文字列を JSON ファイルに保存します。

表 98-3 JSON 変数 ファイル保存ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON 変数	保存する JSON 文字列が格納されている変数名を指定してください。
②	JSON ファイル	保存する JSON ファイルパスを指定してください。 “…”ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが開きます。

98.1.4 JSON 変数 新規オブジェクト

JSON 文字列を変数に格納します。
オブジェクトを新規で作成する際、最初に呼び出す必要があります。

表 98-4 JSON 変数 新規オブジェクトライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON 変数	JSON 文字列を格納する変数名を指定してください。

98.1.5 JSON 変数 新規配列

JSON 文字列を変数に格納します。
配列要素を新規で作成する際、最初に呼び出す必要があります。

表 98-5 JSON 変数 新規配列ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON 変数	JSON 文字列を格納する変数名を指定してください。

98.1.6 JSON 変数 要素追加

JSON 文字列を変数に格納します。
JSON 文字列に要素を追加します。

表 98-6 JSON 変数 要素追加ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON 変数	追加元となる JSON 文字列が格納されている変数名を指定してください。
②	キー	追加する要素名を指定してください。
③	型	追加する要素の型を選択してください。 “オブジェクト”は、子要素に JSON 文字列を持たせる場合に使用します。 “JSON 変数 新規オブジェクト”等で作成した JSON 文字列を指定します。 “配列”は、子要素に配列を持たせる場合に使用します。 “JSON 変数 新規配列”等で作成した JSON 文字列を指定します。 “Null 値”は、null 値を追加する際に使用します。 空値を指定した場合のみ null 値が追加され、それ以外は文字列値と同じ動作になります。
④	値	追加する要素の値を指定してください。 型の合わない値を設定した場合、実行エラーになります。 例）整数型に文字列を指定した場合

98.1.7 JSON 変数 読み取り

JSON 文字列内の要素を読み取り変数に格納します。
変数に格納された JSON 文字列から配列以外の要素を取得する際に使用します。

表 98-7 JSON 変数読み取りライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON 変数	取得元となる JSON 文字列が格納されている変数名を指定してください。
②	キー	読み取る要素のキー名を指定してください。
③	読み取り目的	要素を読み取る目的を選択してください。 “転記”は、取得した値を別の JSON 文字列に転記する際に使用します。 “値参照”は、JSON 文字列の要素を直接取得する際に使用します。 “転記”と“値参照”の違いは下記 2 点になります。 ・STRING 型の要素について “転記”の場合、「文字列」が変数に格納されます。 “値参照”の場合、「“文字列”」が変数に格納されます。 ・NULL 型の要素について “転記”の場合、「」(空値)が変数に格納されます。 “値参照”の場合、「null」が変数に格納されます。 “型判定”は、要素の型を利用する際に使用します。 型には、INTEGER(整数)、FLOAT(小数)、STRING(文字列)、OBJECT(オブジェクト)、ARRAY(配列)、BOOLEAN(真偽)、NULL(空)の 7 種類があります。
④	値	取得した値を格納する変数名を指定してください。

98.1.8 JSON 変数 配列サイズ

JSON 文字列内の配列要素の要素数を取得します。
変数に格納された JSON 文字列から配列の要素数を取得する際に使用します。

表 98-8 JSON 変数 配列サイズライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON 変数	取得元となる JSON 文字列が格納されている変数名を指定してください。
②	キー	配列を要素とするキー名を指定してください。
③	配列数	配列の要素数を格納する変数名を指定してください。

98.1.9 JSON 変数 配列要素追加

JSON 文字列を変数に格納します。
配列に要素を追加する際に使用します。

表 98-9 JSON 変数 配列要素追加

No.	項目	内容
①	JSON 変数	保存する JSON 文字列が格納されている変数名を指定してください。
②	型	追加する要素の型を選択してください。 “オブジェクト”は、子要素に JSON 文字列を持たせる場合に使用します。 “JSON 変数 新規オブジェクト”等で作成した JSON 文字列を指定します。 “配列”は、子要素に配列を持たせる場合に使用します。 “JSON 変数 新規配列”等で作成した JSON 文字列を指定します。 “Null 値”は、null 値を追加する際に使用します。 空値を指定した場合のみ null 値が追加され、それ以外は文字列値と同じ動作になります。
③	値	追加する要素の値を指定してください。 型の合わない値を設定した場合、実行エラーになります。 例）整数型に文字列を指定した場合

98.1.10 JSON 変数 配列読み取り

JSON 文字列内の配列要素から値を取得します。
変数に格納された JSON 文字列から配列要素を取得する際に使用します。

表 98-10 JSON 変数 配列読み取りライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON 変数	取得元となる JSON 文字列が格納されている変数名を指定してください。
②	キー	配列を要素とするキー名を指定してください。
③	インデックス	取得する配列のインデックス値を指定してください。
④	読み取り目的	要素を読み取る目的を選択してください。 “転記”は、取得した値を別の JSON 文字列に転記する際に使用します。 “値参照”は、JSON 文字列の要素を直接取得する際に使用します。 “転記”と“値参照”の違いは下記 2 点になります。 ・STRING 型の要素について “転記”の場合、「文字列」が変数に格納されます。 “値参照”の場合、「“文字列”」が変数に格納されます。 ・NULL 型の要素について “転記”の場合、「」(空値)が変数に格納されます。 “値参照”の場合、「null」が変数に格納されます。 “型判定”は、要素の型を利用する際に使用します。 型には、INTEGER(整数)、FLOAT(小数)、STRING(文字列)、OBJECT(オブジェクト)、ARRAY(配列)、BOOLEAN(真偽)、NULL(空)の 7 種類があります。
⑤	値	取得した値を格納する変数名を指定してください。

98.1.11 JSON 形式書き込み

JSON ファイルまたは JSON 文字列を書き込みます。
キーと型と値で指定された内容が、JSON 形式に変換および整形され、JSON ファイル、または変数に格納します。

表 98-11 JSON 形式書き込みライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON ファイルに保存	ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です
②	変数に格納	変数を指定してください。
③	キーと型と値	キーと型と値を指定してください。

98.1.12 JSON 形式読み取り

JSON ファイルまたは JSON 文字列を読み取り、変数に格納します。
JSON ファイル、または変数に格納されている JSON 文字列を変換した文字列を、キーと値（値）に指定されている変数に格納します。

表 98-12 JSON 形式読み取りライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON ファイルから読み取り	ファイル名を指定してください。 絶対パスか相対パスが利用可能です
②	変数から読み取り	変数を指定してください。変数に設定されている文字列は、JSON 形式として扱います。
③	キーと値	キーと値を指定してください。 ※WinActor は内部では全て文字列型で扱います。 型の指定は書き込みの際に行います。

98.2 JSON

98.2.1 デバッグ

98.2.1.1 JSON オブジェクト JSON 整形

指定した JSON オブジェクトを整形します。

表 98-13 JSON オブジェクト JSON 整形ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	整形後の JSON オブジェクト	整形した後の JSON オブジェクトを格納する変数を指定してください。

98.2.2 JSON オブジェクト キーの一覧の取得

JSON オブジェクトからキーの一覧を取得します。

表 98-14 JSON オブジェクト キーの一覧の取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	取得対象キー	キーの一覧を取得する対象のキーを指定してください。 ルート要素を指定する場合は空欄としてください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	区切り文字(任意)	取得したキーの一覧を変数に格納する際の区切り文字を指定してください。 未指定の場合、カンマ(,)を区切り文字とします。
④	取得したキーの一覧	取得したキーの一覧を格納する変数を指定してください。 キーが 2 つ以上取得できた場合、指定した区切り文字で連結した文字列として格納します。

98.2.3 JSON オブジェクト キーの削除

JSON オブジェクトから指定したキーを削除します。

表 98-15 JSON オブジェクト キーの削除ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	削除対象キー	削除する対象のキーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	削除後の JSON オブジェクト	指定したキーを削除した後の JSON オブジェクトを格納する変数を指定してください。
④	削除結果(任意)	削除結果を示すコードを格納する変数を指定してください。 「0」は削除成功、「1」は削除対象が存在しなかったことを示します。

98.2.4 JSON オブジェクト キーの数の取得

JSON オブジェクトからキーの数を取得します。

表 98-16 JSON オブジェクト キーの数の取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	取得対象キー	キーの数を取得する対象のキーを指定してください。 ルート要素を指定する場合は空欄としてください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	取得したキーの数	取得したキーの数を格納する変数を指定してください。

98.2.5 JSON オブジェクト 値の取得

JSON オブジェクトから指定したキーの値を取得します。

表 98-17 JSON オブジェクト 値の取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	取得対象キー	値を取得する対象のキーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	区切り文字(任意)	値が複数取得できた際に、結果を変数に格納する際の区切り文字を指定してください。 未指定の場合、カンマ(,)を区切り文字とします。
④	文字列取得時の動作	取得した値が文字列型であった場合の動作を指定してください。 「何も付けない」を選択した場合、両端のダブルクオートを省略した文字列を設定します。 「ダブルクォートを付ける」を選択した場合、両端にダブルクォートが付いた文字列を設定します。
⑤	取得した値	取得した値を格納する変数を指定してください。

98.2.6 JSON オブジェクト 値の設定

JSON オブジェクトの指定したキーに値を設定します。

表 98-18 JSON オブジェクト 値の設定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	設定対象キー	値を設定する対象のキーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	設定する値	設定する値を指定してください。 文字列を指定する場合のダブルクォート補完は型の指定に基づいて自動的に行います。 文字のエスケープ処理は自動的に行います。
④	設定する値の型	設定する値の型を指定してください。 「文字列」を選択した場合、設定する値の両端にダブルクォートを補完します。 「文字列以外」を選択した場合、指定した値をそのまま設定します。
⑤	既にキーが存在する場合の動作	設定対象キーが既に存在する場合の動作を指定してください。 「上書き」を選択した場合、元から存在する値を指定した値で上書きします。 「エラー」を選択した場合、シナリオ実行を中断します。
⑥	設定後の JSON オブジェクト	値を設定した後の JSON オブジェクトを格納する変数を指定してください。

98.2.7 JSON オブジェクト 配列指定 値の削除

JSON オブジェクトから指定した配列の値を削除します。

表 98-19 JSON オブジェクト 配列指定 値の削除ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	対象配列キー	値を削除する対象の配列キーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	インデックス	値を削除する対象の配列インデックスを指定してください。 インデックスは 0 から始まる数値としてください。 「-1」を指定した場合は配列末尾を指定したものとして扱います。
④	削除後の JSON オブジェクト	指定したインデックスの値を削除した後の JSON オブジェクトを格納する変数を指定してください。
⑤	削除結果(任意)	削除結果を示すコードを格納する変数を指定してください。 「0」は削除成功、「1」は削除対象が存在しなかったことを示します。

98.2.8 JSON オブジェクト 配列指定 値の取得

JSON オブジェクトから指定した配列の値を取得します。

表 98-20 JSON オブジェクト 配列指定 値の取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	対象配列キー	値を取得する対象の配列キーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	インデックス	値を取得する対象の配列インデックスを指定してください。 インデックスは 0 から始まる数値としてください。
④	区切り文字(任意)	値が複数取得できた際に、結果を変数に格納する際の区切り文字を指定してください。 未指定の場合、カンマ(,)を区切り文字とします。
⑤	文字列取得時の動作	取得した値が文字列型であった場合の動作を指定してください。 「何も付けない」を選択した場合、両端のダブルクオートを省略した文字列を設定します。 「ダブルクォートを付ける」を選択した場合、両端にダブルクォートが付いた文字列を設定します。
⑥	取得した値	取得した値を格納する変数を指定してください。

98.2.9 JSON オブジェクト 配列指定 値の設定

JSON オブジェクトの指定した配列に値を設定します。
例) 配列["A","B","C"]にインデックス「1」を指定して"D"を設定した場合、設定後の配列は["A","D","C"]となります。

表 98-21 JSON オブジェクト 配列指定 値の設定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	対象配列キー	値を設定する対象の配列キーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	インデックス	値を設定する対象の配列インデックスを指定してください。 インデックスは 0 から始まる数値としてください。 配列の範囲外のインデックスを指定した場合は配列末尾に値を追加します。
④	設定する値	設定する値を指定してください。 文字列を指定する場合のダブルクォート補完は型の指定に基づいて自動的に行います。 文字のエスケープ処理は自動的に行います。
⑤	設定する値の型	設定する値の型を指定してください。 「文字列」を選択した場合、設定する値の両端にダブルクォートを補完します。 「文字列以外」を選択した場合、指定した値をそのまま設定します。
⑥	既にキーが存在する場合の動作	設定対象キーが既に存在する場合の動作を指定してください。 「上書き」を選択した場合、元から存在する値を指定した値で上書きします。 「エラー」を選択した場合、シナリオ実行を中断します。
⑦	設定後の JSON オブジェクト	値を設定した後の JSON オブジェクトを格納する変数を指定してください。

98.2.10 JSON オブジェクト 配列指定 値の追加

JSON オブジェクトの指定した配列に値を追加します。
例) 配列["A","B","C"]にインデックス「1」を指定して"D"を追加した場合、追加後の配列は["A","D","B","C"]となります。

表 98-22 JSON オブジェクト 配列指定 値の追加ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	対象配列キー	値を追加する対象の配列キーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	インデックス	値を追加する対象の配列インデックスを指定してください。 インデックスは 0 から始まる数値としてください。 「-1」を指定した場合は、配列末尾に値を追加します。
④	追加する値	追加する値を指定してください。 文字列を指定する場合のダブルクォート補完は型の指定に基づいて自動的に行います。 文字のエスケープ処理は自動的に行います。
⑤	追加する値の型	追加する値の型を指定してください。 「文字列」を選択した場合、追加する値の両端にダブルクォートを補完します。 「文字列以外」を選択した場合、指定した値をそのまま追加します。
⑥	追加後の JSON オブジェクト	値を追加した後の JSON オブジェクトを格納する変数を指定してください。

98.2.11 JSON オブジェクト 配列指定 全要素削除

JSON オブジェクトから指定した配列の要素を全て削除します。

表 98-23 JSON オブジェクト 配列指定 全要素削除ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	対象配列キー	全要素を削除する対象の配列キーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	削除後の JSON オブジェクト	指定した配列の全要素を削除した後の JSON オブジェクトを格納する変数を指定してください。

98.2.12 JSON オブジェクト 配列指定 要素数取得

JSON オブジェクトから指定した配列の要素数を取得します。

表 98-24 JSON オブジェクト 配列指定 要素数取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	JSON オブジェクト	対象の JSON オブジェクトを指定してください。
②	対象配列キー	要素数を取得する対象の配列キーを指定してください。 入れ子構造のキーを指定する際はドット(.)区切りで記載し、配列の要素を指定する際は 0 始まりのインデックスを記載してください。 例) A.B[0].C
③	取得した要素数	取得した要素数を格納する変数を指定してください。

98.2.13 雛形・データ 書き込み

指定された Excel/csv ファイルに雛形・データが持つ値を設定します。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-25 雛形・データ 書き込みライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	ファイルに設定する雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	ファイル名	値を設定する対象のファイルパスを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	シート名	値を設定する対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。

98.2.14 雛形・データ 表形式指定 ソート

指定された表形式の雛形・データ内の行または列をキーとしてソートを行います。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-26 雛形・データ 表形式指定 ソートライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	操作対象の雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	表形式名	操作対象の表形式名を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
③	ソートキーの列名または行名	ソートのキーとする列名または行名を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は列名、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は行名を指定してください。
④	ソート順序	ソート順序を昇順/降順から指定してください。
⑤	ソート後の雛形・データの格納先変数	変数を指定してください。 ソート後の雛形・データ(JSON)が格納されます。

98.2.15 雛形・データ 表形式指定 フィルタリング

指定された表形式の雛形・データ内の行または列に対して絞り込みを行います。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-27 雛形・データ 表形式指定 フィルタリングライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	操作対象の雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	表形式名	操作対象の表形式名を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
③	列名または行名	絞り込み条件をかける列名または行名を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は列名、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は行名を指定してください。
④	絞り込みキー	絞込み用のキーワードを指定してください。
⑤	絞り込みキーの検索方法	絞込み用のキーワードの検索方法を完全一致/部分一致から指定してください。
⑥	絞り込み後の雛形・データの格納先変数	変数を指定してください。 絞り込み後の雛形・データ(JSON)が格納されます。

98.2.16 雛形・データ 表形式指定 値の取得

指定された表形式の雛形・データのセルから値を取得します。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-28 雛形・データ 表形式指定 値の取得ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	操作対象の雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	表形式名	操作対象の表形式名を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
③	列名または行名	操作対象のセルの列名または行名を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は列名、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は行名を指定してください。
④	行番号または列番号	操作対象のセルの行番号または列番号を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は行番号、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は列番号を指定してください。 行番号または列番号は 1 から始まる数値としてください。「-1」を指定した場合は、行または列の末尾にある値を取得します。
⑤	格納先変数	変数を指定してください。 取得した値が格納されます。

98.2.17 雛形・データ 表形式指定 値の設定

指定された表形式の雛形・データのセルに値を設定します。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-29 雛形・データ 表形式指定 値の設定ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	操作対象の雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	表形式名	操作対象の表形式名を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
③	列名または行名	操作対象のセルの列名または行名を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は列名、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は行名を指定してください。
④	行番号または列番号	操作対象のセルの行番号または列番号を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は行番号、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は列番号を指定してください。 行番号または列番号は 1 から始まる数値としてください。「-1」を指定した場合は、行または列の末尾の値を設定します。
⑤	設定する値	設定する値を指定してください。
⑥	設定後の雛形・データの格納先変数	変数を指定してください。 値を設定後の雛形・データ(JSON)が格納されます。

98.2.18 雛形・データ 表形式指定 結合

指定された 2 つの表形式の雛形・データを結合します。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-30 雛形・データ 表形式指定 結合設定項目

No.	項目	内容
①	結合の種類	結合の種類を内部結合/左外部結合/完全外部結合/交差結合から選択してください。
②	雛形・データ 1	結合する対象の雛形・データ(JSON)(1 つ目)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
③	表形式名 1	結合する対象の表形式名(1 つ目)を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
④	キーとする列名または行名 1	結合のキーとする列名または行名(1 つ目)を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は列名、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は行名を指定してください。
⑤	雛形・データ 2	結合する対象の雛形・データ(JSON)(2 つ目)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
⑥	表形式名 2	結合する対象の表形式名(2 つ目)を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
⑦	キーとする列名または行名 2	結合のキーとする列名または行名(2 つ目)を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は列名、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は行名を指定してください。

No.	項目	内容
⑧	結合後の表形式名	結合して作成する表形式名を指定してください。
⑨	結合後の雛形・データの格納先変数	変数を指定してください。 結合して作成した表形式を含む雛形・データが格納されます。 結合により雛形・データ内で列名または行名が重複する場合は、1 から始まる重複数とおなじ桁数のシーケンス番号を例のように追加します。 (例) 元が「変数名」の場合:変数名_001

98.2.19 雛形・データ 表形式指定 行または列の削除

指定された表形式の雛形・データ内の行または列を削除します。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-31 雛形・データ 表形式指定 行または列の削除ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	操作対象の雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	表形式名	操作対象の表形式名を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
③	削除行または削除列	行または列を削除する位置を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は指定行、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は指定列を削除します。 削除行または削除列は 1 から始まる数値としてください。「-1」を指定した場合は、表形式のデータの末尾を指定したものとして扱います。
④	行または列削除後の雛形・データの格納先変数	変数を指定してください。 行または列を削除後の雛形・データ(JSON)が格納されます。

98.2.20 雛形・データ 表形式指定 行または列の挿入

指定された表形式の雛形・データに空行または空列を挿入します。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-32 雛形・データ 表形式指定 行または列の挿入ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	操作対象の雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	表形式名	操作対象の表形式名を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
③	挿入行または挿入列	空行または空列を挿入する位置を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は指定行に空行、指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は指定列に空列が挿入されます。 挿入行または挿入列は 1 から始まる数値としてください。「-1」を指定した場合は、表形式のデータの末尾に空行または空列を追加します。
④	行または列挿入後の雛形・データの格納先変数	変数を指定してください。 行または列を挿入後の雛形・データ(JSON)が格納されます。

本ライブラリを使用するシナリオの例を下図に示します。
はじめに、本ライブラリを配置します。
本ライブラリには、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した雛形・データ(JSON)内の表形式の雛形・データを指定します。
「雛形・データ 読み取り」ライブラリを用いることで、本ライブラリで追加した行または列にファイルから値を設定することができます。

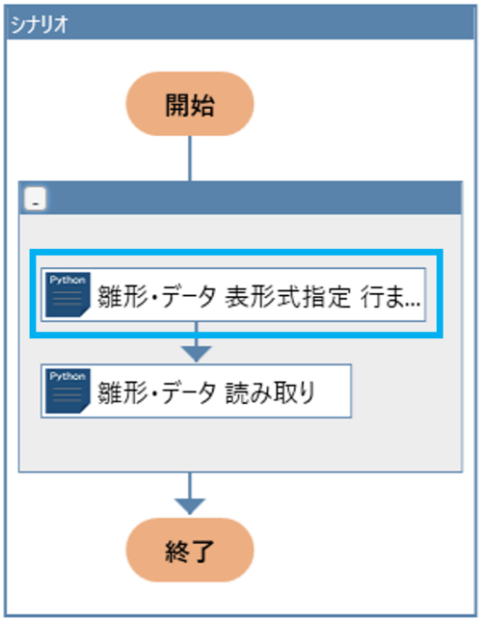


図 98-1 雛形・データ 表形式指定 行または列の挿入のシナリオ例

98.2.21 雛形・データ 表形式指定 重複データの削除

指定された表形式の雛形・データ内の行または列で、値が重複しているデータを削除します。

※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-33 雛形・データ 表形式指定 重複データの削除ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	操作対象の雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成AI利用)にて、作成したJSON形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	表形式名	操作対象の表形式名を指定してください。 表形式名は、雛形・データ抽出(生成 AI 利用)機能利用時に表示される雛形・データに取り込むデータを選択する画面、または変数一覧画面に作成されたグループ名から確認できます。 例) table1
③	列名または行名	重複データを判定するキーの列名または行名を指定してください。 指定された表形式のデータが行方向に並んでいる場合は列名、 指定された表形式のデータが列方向に並んでいる場合は行名を指定してください。 空の場合はすべての列名または行名が指定されます。 キーを複数指定する場合は半角スペース区切りで指定してください。 例) 列名 1 列名 2
④	重複データ削除後の雛形・データの格納先変数	変数を指定してください。 重複データを削除後の雛形・データ(JSON)が格納されます。

98.2.22 雛形・データ 読み取り

指定された Excel/csv ファイルから値を取得して、雛形・データに設定します。
※ 雛形・データは、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成することができます。

表 98-34 雛形・データ 読み取りライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	雛形・データ	ファイルから値を取得して、設定する雛形・データ(JSON)を指定してください。 変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した JSON 形式の雛形・データを変数で入力してください。
②	ファイル名	値を取得する対象のファイルパスを指定してください。 相対パス、絶対パス、または URL が利用可能です。
③	シート名	値を取得する対象のシート名を指定してください。 省略した場合、現在選択されているシートが操作対象になります。
④	値の取得方法	セルの値の取得方法を選択してください。 value を選択した場合、指定したセルの値を取得します。非表示のセルや幅が小さいセルから値を取得したい場面などで選択してください。 text を選択した場合、指定したセルの表示文字列を取得します。 表示設定が日付や時刻のセルから表示文字列を取得したい場面などで選択してください。
⑤	設定後の雛形・データの格納先変数	変数を指定してください。 値を設定後の雛形・データ(JSON)が格納されます。

「雛形・データ 読み取り」ライブラリと「雛形・データ 書き込み」ライブラリを使用するシナリオの例を下図に示します。
はじめに、「雛形・データ 読み取り」ライブラリを配置し、変数一覧画面/雛形・データ抽出(生成 AI 利用)にて、作成した雛形・データ(JSON)を指定して、ファイル内の値を雛形・データ(JSON)に設定します。
「繰り返し」ノードで雛形・データ(JSON)に対して、値の更新などの処理を行います。
※「繰り返し」ノードでは、繰り返しごとに処理をした結果を雛形・データ(JSON)に設定することができます。
最後に、「雛形・データ 書き込み」ライブラリを配置し、シナリオで更新した雛形・データ(JSON)を指定して、雛形・データ(JSON)が持つ値をファイルに設定します。

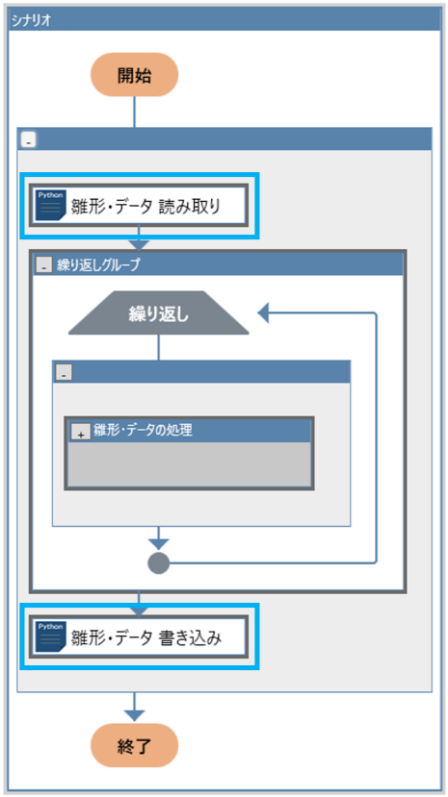


図 98-2「雛形・データ　読み取り」ライブラリと「雛形・データ　書き込み」ライブラリのシナリオ例

99 外部サービス連携

99.1 OAuth 関連

OAuth 関連ライブラリの詳細については、『WinActor 外部サービス連携_OAuth 関連ライブラリシナリオ作成マニュアル』をご参照ください。

99.2 HTTP 関連

99.2.1 HTTP（詳細）

HTTP(詳細)ノードは指定された URL に対し、HTTP 通信を行います。
下記の機能があります。

- http、https プロトコルを使用し、text、json、パラメータ形式、任意の形式のデータをボディ部に設定し HTTP 要求が可能です。
- マルチパート形式でファイルアップロード、ダウンロードが可能です。
- クッキーの設定、取得が可能です。
- BASIC 認証が行えます。
- WinActor 設定のプロキシサーバの使用有無が指定できます。

表 99-1 HTTP（詳細）ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	メソッド	実行したいメソッドを指定してください。 GET、HEAD の場合、ボディ、ファイルアップロードの選択はできません。 また、DELETE の場合、ファイルアップロードの選択はできません。
②	URL	URL を指定してください。
③	要求ヘッダ	要求ヘッダを指定するか、またはヘッダの設定を記載しているファイルを指定してください。 指定する形式は JSON 形式となります。詳細は表 99-2 をご参照ください。

No.	項目	内容
④	パラメータ	パラメータを指定するか、またはパラメータの設定を記載しているファイルを指定してください。 指定する形式は JSON 形式となります。詳細は表 99-4 をご参照ください。 「マルチパートを使用」をチェックすると、パラメータをマルチパート形式で作成します。 POST、PUT、PATCH では、パラメータとボディは何方か一方しか指定できません。
⑤	要求ボディ	要求ボディを指定するか、または要求ボディの内容を記載しているファイルを指定してください。 POST、PUT、PATCH では、パラメータとボディは何方か一方しか指定できません
⑥	ファイルアップロード	アップロードするファイル名、name、ContentType を指定してください。 または、アップロードファイル一覧を記載したファイルを指定してください。 ファイルに記載する内容は JSON 形式となります。詳細は表 99-5 をご参照ください。 「ファイル名と name 属性を base64 エンコードしない」をチェックすると、他のブラウザアプリケーション等と同様に、マルチパート内の Content-Disposition ヘッダに指定されるファイル名や name 属性がマルチバイト文字を含む時、utf-8 エンコードの文字列となります。 「ファイル名と name 属性を base64 エンコードしない」をチェックしないと、utf-8 エンコードの文字列がさらに base64 エンコードされた値になります。 Content-Disposition ヘッダについては表 99-10 をご参照ください。
⑦	認証	「BASIC 認証」をチェックすると BASIC 認証を行うことができます。 BASIC 認証に使用するユーザ名、パスワードを指定してください。
⑧	要求クッキー	クッキーを指定するか、またはクッキーの値が設定されているファイルを指定してください。 指定する形式は JSON 形式となります。詳細は表 99-6 をご参照ください。
⑨	オプション設定のプロキシサーバを使用する	オプション設定のプロキシサーバの使用有無を指定します。
⑩	応答タイムアウト	タイムアウト時間を設定します。(ミリ秒) 設定したタイムアウト時間内に応答が無い場合、エラーとなります。

No.	項目	内容
⑪	応答ヘッダ	応答ヘッダを取得する変数または、ファイル名を指定してください。 「JSON 形式で取得」チェックを入すると、JSON 形式で取得します。詳細は表 99-3 をご参照ください。
⑫	応答ボディ	応答ボディを取得する変数または、ファイル名を指定してください。 「multipart/form-data の場合、自動的に分割する」について以下に示します。 (チェックされている場合) ・Content-Type が multipart/form-data 以外の場合、⑪で指定されたファイルに保存します。 ・Content-Type が multipart/form-data の場合、応答の各パートを⑪で指定されたファイルと同じフォルダに、「<⑪で指定されたファイル名の拡張子以外>-<通し番号(0 始まり)>.<⑪で指定されたファイル名の拡張子>」で保存します。 (チェックされていない場合) ・応答の Content-Type に関わらず、⑪で指定されたファイルに保存します。 「multipart/form-data の場合、自動的に分割する」の動作例については、表 99-8 をご参照ください。
⑬	応答クッキー	クッキー取得する変数または、ファイル名を指定してください。 「JSON 形式で取得」をチェックすると、JSON 形式で取得します。詳細は表 99-7 をご参照ください。
⑭	HTTP バージョン	HTTP バージョンを格納する変数を指定してください。
⑮	ステータスコード	ステータスコードを格納する変数を指定してください。 値により、HTTP リクエストが正常に完了したかどうかが分かります。 (例)200 正常 補助メッセージを格納する変数を指定してください。
⑯	補助メッセージ	ステータスコードに対応したメッセージを取得できます。 (例) 200(正常)の場合は「OK」が取得できます。

本機能では、ヘッダ設定などで、JSON を使用します。各 JSON フォーマットについて以下をご参照ください。

表 99-2 要求ヘッダの JSON フォーマット

フォーマット

```
{
  "(ヘッダ名)": "(設定値)",
  "(ヘッダ名)": "(設定値)",
        ・
        ・
}
```

説明
要求ヘッダに設定する内容を、JSON のキーにヘッダ名、値にヘッダの値を記入します。 ヘッダの値が複数ある場合は、"(ヘッダ項目)" :["(設定値 1)","(設定値 2)",・・・]と記載します。

記入例

```
{
  "Content-Type":"text/html; charset=utf-8",
  "Transfer-Encoding":"gzip"
}
```

表 99-3 応答ヘッダの JSON フォーマット

フォーマット

```
{
  "(ヘッダ名)": "(設定値)",
  "(ヘッダ名)": "(設定値)",
        ・
        ・
}
```

説明
受信した応答ヘッダの内容を、JSON のキーにヘッダ名、値にヘッダの値で保存します。 ヘッダの値が複数ある場合は、"(ヘッダ項目)" :["(設定値 1)","(設定値 2)",・・・]となります。

出力例

```
{
  "Content-Type":"text/html; charset=utf-8",
  "Transfer-Encoding":"gzip"
  "Set-Cookie": ["value=100", "value2=200"]
}
```

表 99-4 パラメータの JSON フォーマット

フォーマット

{
"(パラメータ名)": "(設定値)",
"(パラメータ名)": "(設定値)",
・
・
}

説明
パラメータに設定する内容を、JSON のキーにパラメータ名、値にパラメータの値を記入します。
記入例

{
"data1":"100",
"data2":"200"
}

表 99-5 ファイルアップロードの JSON フォーマット

フォーマット
[{"FileName": "(ファイル名)", "name": "(name)", "ContentType": "(ContentType)"}, {"FileName": "(ファイル名)", "name": "(name)", "ContentType": "(ContentType)"}, ・ ・]
説明
ファイルアップロードの対象名を、FileName と name、ContentType に値を記入します。
記入例
[{"FileName": "c:¥¥Upload¥¥file.txt", "name": "file.txt", "ContentType": "text/plain"}, {"FileName": "c:¥¥Upload¥¥file.json", "name": "file.json", "ContentType": "application/json"}]

表 99-6 要求クッキーの JSON フォーマット

フォーマット

{
"(クッキー名)": "(設定値)",
"(クッキー名)": "(設定値)",
・
・
}

説明
要求クッキーに設定する内容を、JSON のキーにクッキー名、値にクッキーの値を記入します。
記入例

{
"data1":"100",
"data2":"200"
}

表 99-7 応答クッキーの JSON フォーマット

フォーマット

[
{
"values": {"(クッキー名)": "(値)"},
"attributes": {"(クッキー名)": "(値)", "(属性名)": "(値)", ・・・}
},
{
"values": {"(属性名)": "(値)"},
"attributes": {"(属性名)": "(値)", "(属性名)": "(値)", ・・・}
}
・
・
]

説明
受信した応答クッキーの内容を、クッキーの設定値と属性値で、名前、値で保存します。 values ： クッキーの設定値、attributes ： クッキーの属性となります。
出力例
[

```
  {
    "values": {
      "date1":"100"
    },
    "attributes": {
      "Domain":"10.10.10.10",
      "Expires":"Wed, 23 Mar 2021 07:28:00 GMT"
    }
  },
  {
    "values": {
      "date1":"100"
    },
    "attributes": {
      "Domain":"10.10.10.10"
    }
  }
]
```

表 99-8「multipart/form-data の場合、自動的に分割する」の動作例

応答例
HTTP/1.1 200 OK Date: Thu, 11 Mar 2021 05:18:29 GMT Content-Type:multipart/form-data; boundary="12345" Content-Length: 158 --12345 Content-Disposition: form-data; filename=test.txt hello　　① --12345 Content-Disposition: form-data; filename=test1.txt hello　　② --12345--　　③
保存されるファイルの例
ボディのファイル名を file.txt とします。

「multipart/form-data の場合、自動的に分割する」がチェックされている場合。
①を file0.txt、②を file1.txtとして保存します。
「multipart/form-data の場合、自動的に分割する」がチェックされていない場合。
④ を file.txt として保存します。

99.2.1.1 ライブラリで自動設定されるヘッダ

本機能では、自動設定されるヘッダがあります。自動設定されるヘッダを表 99-9、表 99-10 に示します。変更したい場合は要求ヘッダを設定することで、上書が出来ます。

表 99-9 自動設定されるヘッダ項目

No.	項目	設定値
①	Connection	keep-alive が設定されます。
②	Host	HTTP 要求を行った、IP アドレスまたはホスト名が設定されます。
③	Content-Type	設定内容により可変ですが、初期値は以下の値が設定されます。 パラメータ設定の場合：application/x-www-form-urlencoded ボディ設定の場合：text/plain アップロードファイル設定時：multipart/form-data; charset：utf-8
④	Content-Length	ボディのサイズ(byte) PUT、POST、PATCH の場合のみ設定します。
⑤	Authorization	BASIC 認証を行う場合、指定したユーザ名、パスワードを設定されます。
⑥	Cookie	指定したクッキー項目と値が設定されます。

マルチパートの場合、各パートに表 99-10 の項目が設定されます。（本ライブラリではアップロードファイルが設定された場合です。）

表 99-10 自動設定されるマルチパート部分

No.	項目	設定値
①	Content-Disposition	form-data; name="設定値"; filename="設定値" 設定値：ファイルアップロードで指定したファイル名
②	Content-Type	ファイルアップロードで指定した Content-Type が設定されます。

99.2.1.2 パラメータについての補足事項

パラメータは HTTP メソッドにより設定方法が変わります。表 99-11 に設定方法を示します。

表 99-11 パラメータの設定方法

No.	HTTP メソッド	設定方法
①	GET 、 HEAD 、 DELETE	・URL のクエリ部分に key=value の形式で設定され、複数ある場合は &で結合します。 ・エンコードは UTF-8 です。また、マルチバイト文字が含まれている場合、URL エンコーディングを行います。
②	POST 、 PUT 、 PATCH	・HTTP 要求のボディ部に key=value の形式で設定され、複数ある場合は&で結合します。 ・エンコードは UTF-8 です。また、マルチバイト文字が含まれている場合、URL エンコーディングを行います。

注意事項

外部サービスにアクセスする際にプロキシを経由する必要がある場合には WinActor 本体のプロキシ設定が行われている事を確認してください。
WinActor 本体のプロキシの設定方法につきましては『WinActor インストールマニュアル』または『WinActor 操作マニュアル』をご参照ください。

99.2.2 HTTP

指定された URL に対し、簡易的な HTTP 通信を行います。
RESTful API に関する知識をお持ちのユーザ向けライブラリです。

表 99-12 HTTP ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	メソッド	実行したいメソッドを指定してください。
②	URL	URL を指定してください。
③	要求ヘッダ	要求ヘッダをキーと値で指定してください。
④	要求ボディ	要求ボディをキーと値の型と値またはファイル名で指定してください。 キーと値の型と値を選んだ場合、JSON 形式に変換し送信します。
⑤	応答ヘッダ	応答ヘッダをキーと値で指定してください。
⑥	応答ボディ	応答ボディをキーと値またはファイル名で指定してください。 キーと値を選んだ場合、応答データを JSON 形式として扱います。
⑦	ステータスコード	ステータスコードを格納する変数を指定してください。 値により、HTTP リクエストが正常に完了したかどうかが分かります。 (例)200 正常
⑧	レスポンスデータの読み込みタイムアウト	タイムアウト時間を設定します。(ミリ秒) 設定したタイムアウト時間内に読み込みが完了しなかった場合、エラーとなります。

注意事項

日本語などマルチバイトの部分を URL エンコードされた文字列を変数の値として用いる場合、意図しない変換が発生する点にご注意ください。
一部の要求ヘッダは自動的に設定されます。変更したい場合は上書きできます。(例) Content-Length, Content-Type, Host 等
外部サービスにアクセスする際にプロキシを経由する必要がある場合には WinActor 本体のプロキシ設定が行われている事を確認してください。
WinActor 本体のプロキシの設定方法につきましては『WinActor インストールマニュアル』または『WinActor 操作マニュアル』をご参照ください。

99.3 Syslog 関連

99.3.1 syslog 送信

syslog を送信します。INFO レベルのログとして UDP で送信されます。
送信されるログメッセージは UTF-8 でエンコードされます。

表 99-13 syslog 送信ライブラリ設定項目

No.	項目	内容
①	送信先	送信先の IP アドレスもしくはホスト名を指定します。 ポート番号を指定する場合は“:”を付けて指定します。 ※ポート番号省略時は 514 ポートに送信します。 例1) 192.168.0.1 例2) 192.168.0.1:514
②	Facility	Local0～local7 を選択してください。
③	メッセージ	送信するログメッセージを入力してください。

99.4 Socket 関連

99.4.1 Socket 通信

ソケットを用いた基本的な TCP 通信を行います。
下記の機能があります。

- クライアントサーバモデルにおけるクライアント機能を提供します。サーバ機能はありません。
- 接続、送信、受信、切断の機能があります。
- 接続機能を実行するとソケットを作成し、コネクションを確立します。
- 1 つのソケットが保持できるコネクション数は 1 です。
- シナリオに本ライブラリを複数配置することで、複数のコネクションを確立できます。
- コネクション識別子を用いて、利用するコネクションを指定できます。
- 送受信時にテキストデータの文字コードおよび改行コードを変換するテキスト変換処理が可能です。
- 送受信時にバイナリデータをBase64 符号化または復号化するバイナリ変換処理が可能です。

基本設定タブでは、接続、送信、受信、切断の各機能の使用、または不使用を選択します。複数の機能の使用を選択した場合、接続→送信→受信→切断の順序で実行します。

表 99-14 Socket 通信ライブラリ設定項目（基本設定タブ）

No.	項目	内容
①	コネクション識別子	コネクション識別子を格納する変数、または格納している変数を指定してください。 コネクション識別子は接続機能を実行した時に自動的に割り当てられて、変数に格納されます。 接続機能を実行する場合、コネクション識別子を格納する変数には値を設定しないでください。 送信機能、受信機能または切断機能を実行する場合は、変数に格納されたコネクション識別子が示すコネクションを用いて通信が行われます。
②	接続	チェックすると、接続タブが表示されて、接続機能の使用および設定ができます。

No.	項目	内容
③	送信	チェックすると、送信タブが表示されて、送信機能の使用および設定ができます。
④	受信	チェックすると、受信タブが表示されて、受信機能の使用および設定ができます。
⑤	切断	チェックすると、切断タブが表示されて、切断機能の使用および設定ができます。

接続タブでは、ソケットを作成してコネクションを確立するための設定をします。

表 99-15 Socket 通信ライブラリ設定項目（接続タブ）

No.	項目	内容
①	IP アドレス／ホスト名	通信の相手先となる端末の IP アドレス（IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス）またはホスト名を指定してください。 ホスト名は、WinActor を実行するクライアントにて解決可能な名前を指定してください。
②	ポート番号	ソケット通信に使用する TCP ポート番号を設定してください。
③	接続タイムアウト	接続タイムアウト時間を設定してください。（ミリ秒） -1 を設定すると、タイムアウトしなくなります。
④	リトライ例外名	リトライすることで通信が成功する可能性のあるエラーが発生した場合の例外名を指定してください。 初期値は「アクション例外」です。 空欄とした場合、例外として扱わずに処理を継続します。 リトライ例外については、『99.4.1.1 リトライ例外』を参照してください。

送信タブでは、データを送信するための設定をします。

表 99-16 Socket 通信ライブラリ設定項目（送信タブ）

No.	項目	内容
①	送信タイムアウト	送信タイムアウト時間を設定してください。（ミリ秒）
②	データ取得元	送信データの取得元として「ファイル」または「変数または値」をチェックしてください。 「ファイル」をチェックした場合は、ファイルパスを指定してください。省略可能です。 「変数または値」をチェックした場合は、変数または値を指定してください。省略可能です。

No.	項目	内容
③	テキスト変換処理	送信データがテキストの場合、チェックすると、文字コードおよび改行コードを変換して送信します。「バイナリ変換処理」と同時に使用できません。 「入力」行には、変換前の送信データの文字コードおよび改行コードを指定してください。「データ取得元」にて「変数または値」を指定した場合は、「入力」行の文字コードは不活性となり指定できません。 「出力」行には、変換後の文字コードおよび改行コードを指定してください。 文字コードは、ドロップダウンリスト以外にも、IANA 登録名またはコードページ番号を入力することで指定できます。 「入力」行で「改行コードなし」を選択した場合、変換後の送信データの末尾に「出力」行で指定した改行コードを付加します。 「出力」行で「改行コードなし」を選択した場合、変換前の送信データに「入力」行で指定した改行コードがあれば除去します。 なお、変数内のテキストデータを扱う他のライブラリが「CR+LF」にのみ対応していることから、送信データを本ライブラリに変数で渡す場合、送信データに含まれている改行コードには「CR+LF」が使われます。このため、「データ取得元」に変数を指定した場合、「入力」行で選択できる改行コードは実質的に「CR+LF」のみです。
④	バイナリ変換処理	「Base64 復号化」をチェックすると、Base64 符号化済のテキストデータを復号化してバイナリデータとして送信します。「テキスト変換処理」と同時に使用できません。 「データ取得元」において、「ファイル」は送信データとしてテキストデータまたはバイナリデータを格納できますが、「変数または値」が格納できるのはテキストデータのみです。このため、「変数または値」を用いてバイナリデータを送信したい場合には、バイナリデータを Base64 符号化したテキストデータを変数に格納しておき、「Base64 復号化」にチェックを入れることで、バイナリデータを送信することができます。
⑤	送信バッファサイズ	送信バッファサイズを指定してください。(byte) 初期値は 8,192byte です。 実行環境に依存するため、実行時の値が設定値と異なる場合があります。
⑥	送信済データサイズ	送信完了時に送信済データサイズを格納する変数を指定してください。
⑦	送信シャットダウン	チェックすると、送信完了後にソケットをシャットダウンします。 シャットダウンすると、同じコネクション識別子での送信はできなくなります。

No.	項目	内容
⑧	リトライ例外名	リトライすることで通信が成功する可能性のあるエラーが発生した場合の例外名を指定してください。 初期値は「アクション例外」です。 空欄とした場合、例外として扱わずに処理を継続します。 リトライ例外については、『99.4.1.1 リトライ例外』を参照してください。

受信タブでは、データを受信するための設定をします。

表 99-17 Socket 通信ライブラリ設定項目（受信タブ）

No.	項目	内容
①	受信タイムアウト	受信タイムアウト時間を設定してください。（ミリ秒）
②	データ格納先	受信データの格納先として「ファイル」または「変数」をチェックしてください。 「ファイル」をチェックした場合は、ファイルパスを指定してください。シナリオ実行時に指定されたファイルが存在しなければ新たに作成し、存在する場合は上書きします。ファイルパスは省略可能です。 「変数」をチェックした場合は、変数を指定してください。省略可能です。

No.	項目	内容
③	テキスト変換処理	受信データがテキストの場合、チェックすると、受信データの文字コードおよび改行コードを変換します。「バイナリ変換処理」と同時に使用できません。 「入力」行には、変換前の受信データの文字コードおよび改行コードを指定してください。 「出力」行には、変換後の文字コードおよび改行コードを指定してください。 「データ格納先」にて「変数」を指定した場合は、「出力」行の文字コードは不活性となり指定できません。 文字コードは、ドロップダウンリスト以外にも、IANA 登録名またはコードページ番号を入力することで指定できます。 「入力」行で「改行コードなし」を選択した場合、変換後の受信データの末尾に「出力」行で指定した改行コードを付加します。 「出力」行で「改行コードなし」を選択した場合、変換前の受信データに「入力」行で指定した改行コードがあれば除去します。 なお、変数内のテキストデータを扱う他のライブラリが「CR+LF」にのみ対応していることから、受信データを変数に格納する場合、改行コードは「CR+LF」にする必要が生じます。このため、「データ格納先」に変数を指定した場合、「出力」行で選択できる改行コードは実質的に「CR+LF」のみです。
④	バイナリ変換処理	「Base64 符号化」をチェックすると、受信したバイナリデータを Base64 符号化して、テキストデータとして格納します。「テキスト変換処理」と同時に使用できません。
⑤	受信バッファサイズ	受信バッファサイズを指定してください。(byte) 初期値は 8,192byte です。 実行環境に依存するため、実行時の値が設定値と異なる場合があります。

No.	項目	内容
⑥	受信終了条件	受信処理の終了条件を選択してください。 指定された受信終了条件が満たされた時、または受信タイムアウトが満了した時、受信処理は終了します。 「FIN を受信するまで」:リモートホストから送信完了通知である FIN パケットを受信した時。 「指定の受信データサイズに到達するまで」:「受信データサイズ」で指定したデータサイズ分を読み出した時。「受信データサイズ」の入力欄は、この終了条件を選択した時に表示されますので、設定してください。 「読出し可能なデータがなくなるまで」:受信バッファからデータを読み出した後、受信バッファに残っているデータサイズが 0byte の時。
⑦	受信済データサイズ	受信完了時に受信済データサイズを格納する変数を指定してください。
⑧	受信シャットダウン	チェックすると、受信完了後にソケットをシャットダウンします。 シャットダウンすると、同じコネクション識別子での受信はできなくなります。
⑨	リトライ例外名	リトライすることで通信が成功する可能性のあるエラーが発生した場合の例外名を指定してください。 初期値は「アクション例外」です。 空欄とした場合、例外として扱わずに処理を継続します。 リトライ例外については、『99.4.1.1 リトライ例外』を参照してください。

切断タブでは、コネクションを切断し、ソケットのリソースを解放します。

表 99-18 Socket 通信ライブラリ設定項目(切断タブ)

No.	項目	内容
①	切断タイムアウト	切断タイムアウト時間を設定してください。(ミリ秒) -1 を設定すると、タイムアウトしなくなります。
②	リトライ例外名	リトライすることで通信が成功する可能性のあるエラーが発生した場合の例外名を指定してください。 初期値は「アクション例外」です。 空欄とした場合、例外として扱わずに処理を継続します。 リトライ例外については、『99.4.1.1 リトライ例外』を参照してください。

設定例

本ライブラリでは、1 つのライブラリで接続、送信、受信、切断の 4 機能を使用することも

できますし、1 つの機能を使用するライブラリを複数配置することもできます。
ここでは、1 つのライブラリで 4 機能を使用して、localhost の Web サーバからコンテンツを取得する設定例を示します。プロトコルには HTTP1.0 を使用しています。

送信データは下記とします。「↵」は改行コード CR+LF です。3 個必要です。
C:¥temp¥GetHTTP10.txt

```
GET / HTTP/1.0↵
↵
↵
```

表 99-19 Socket 通信ライブラリ設定例(基本設定タブ)

No.	項目	内容
①	コネクション識別子	connectionId (値を設定していない変数)
②	接続	チェックあり
③	送信	チェックあり
④	受信	チェックあり
⑤	切断	チェックあり

表 99-20 Socket 通信ライブラリ設定例(接続タブ)

No.	項目	内容
①	IP アドレス／ホスト名	値⇒ localhost
②	ポート番号	値⇒ 80
③	接続タイムアウト	値⇒ 10,000(初期値)
④	リトライ例外名	値⇒ アクション例外(初期値)

表 99-21 Socket 通信ライブラリ設定例(送信タブ)

No.	項目	内容
①	送信タイムアウト	値⇒ 10,000(初期値)
②	データ取得元	「ファイル」をチェック 値⇒ C:¥temp¥GetHTTP10.txt
③	テキスト変換処理	チェックなし
④	バイナリ変換処理	チェックなし

No.	項目	内容
⑤	送信バッファサイズ	値⇒ 8,192(初期値)
⑥	送信済データサイズ	sentSize
⑦	送信シャットダウン	チェックなし
⑧	リトライ例外名	値⇒ アクション例外(初期値)

表 99-22 Socket 通信ライブラリ設定例(受信タブ)

No.	項目	内容
①	受信タイムアウト	値⇒ 10,000(初期値)
②	データ格納先	「ファイル」をチェック 値⇒ C:¥temp¥output.txt
③	テキスト変換処理	チェックなし
④	バイナリ変換処理	チェックなし
⑤	受信バッファサイズ	値⇒ 8,192(初期値)
⑥	受信終了条件	FIN を受信するまで
⑦	受信済データサイズ	receivedSize
⑧	受信シャットダウン	チェックなし
⑨	リトライ例外名	値⇒ アクション例外(初期値)

表 99-23 Socket 通信ライブラリ設定例(切断タブ)

No.	項目	内容
①	切断タイムアウト	値⇒ 10,000(初期値)
②	リトライ例外名	値⇒ アクション例外(初期値)

99.4.1.1 リトライ例外

通信処理では様々な要因によってエラーが発生し、通信に失敗することがあります。しかし、リトライすることで通信が成功する場合もあります。
本ライブラリでは、リトライにより通信が成功する可能性のあるエラーが発生した場合の例外処理を「リトライ例外」と呼びます。通常の例外である「アクション例外」と分けて処理することができます。
本ライブラリが表示する通信関連のエラーメッセージと、リトライ例外とアクション例外の分類を下表に示します。

表 99-24 Socket 通信ライブラリのリトライ例外とアクション例外の分類

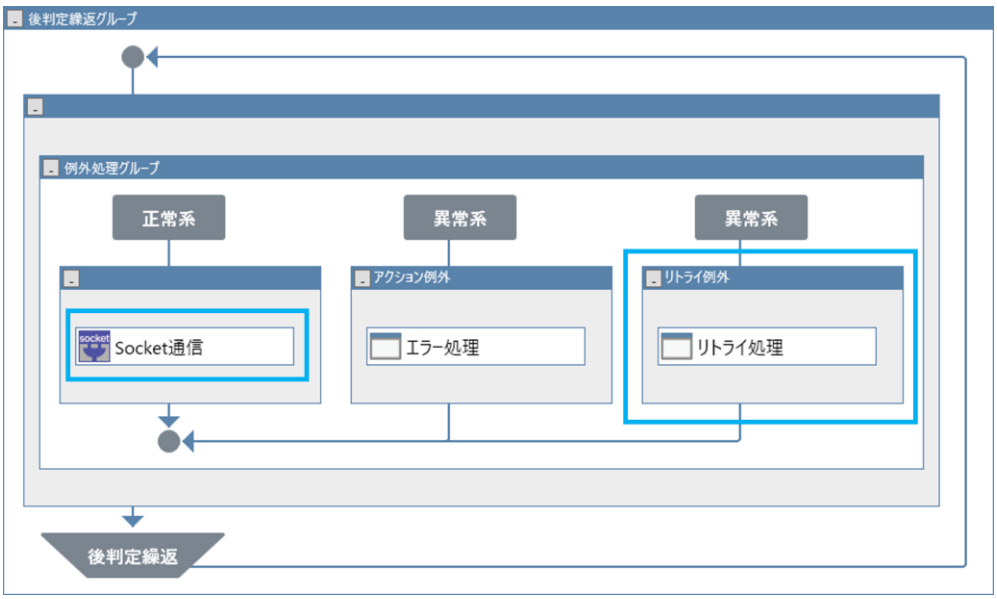
エラーメッセージ	表示条件	分類
ホスト名またはIPアドレスが正しくありません。	設定された宛先が名前解決できない	リトライ例外
ファイルの読み込みに失敗しました。	指定ファイルの読み込みに失敗	アクション例外
ファイルの書き込みに失敗しました。	指定ファイルに書き込みに失敗	アクション例外
リモートホストの理由により操作に失敗しました。	リモートホストの拒否・リセット・ダウンにより失敗	リトライ例外
ネットワークの理由により操作に失敗しました。	ネットワーク利用不可・到達不可により失敗	リトライ例外
接続時にタイムアウトが発生しました。	接続タイムアウト内に接続が完了しなかった場合	リトライ例外
送信時にタイムアウトが発生しました。	送信タイムアウト内に送信が完了しなかった場合	リトライ例外
受信時にタイムアウトが発生しました。	受信タイムアウト内に受信が完了しなかった場合	リトライ例外
切断時にタイムアウトが発生しました。	切断タイムアウト内に切断が完了しなかった場合	リトライ例外
接続に失敗しました。	リトライ例外以外の接続に関わる失敗	アクション例外
送信に失敗しました。	リトライ例外以外の送信に関わる失敗	アクション例外
受信に失敗しました。	リトライ例外以外の受信に関わる失敗	アクション例外
切断に失敗しました。	リトライ例外以外の切断に関わる失敗	アクション例外
有効な Base64 入力値ではありません。	有効な Base64 文字列でない場合	アクション例外
文字コード変換に失敗しました。	指定の文字コードでない場合	アクション例外

エラーメッセージ	表示条件	分類
利用できないソケットを使用しようとしました。	利用不可のソケットにアクセスしようとした場合	アクション例外
コネクション識別子に指定する変数に値は設定しないでください。	コネクション識別子の変数に値を設定した場合	アクション例外
接続していないソケットに対して操作を行おうとしました。送信、受信、切断の操作の前には必ず接続を実施してください。	未接続のソケットに対して接続以外の操作をしようとした場合	アクション例外

本ライブラリでは、接続タブ、送信タブ、受信タブ、切断タブそれぞれにおいてリトライ例外を設定することができます。初期値は「アクション例外」に設定されていますので、必要に応じてリトライ例外を作成して設定してください。

リトライ例外を使用するシナリオの例を下図に示します。
例外処理グループの正常系に本ライブラリを配置し、リトライ例外の処理を異常系に追記します。
このリトライ例外を呼び出すよう、接続タブ、送信タブ、受信タブ、切断タブの「リトライ例外名」に設定します。
繰り返しノードなどと組み合わせることで、エラー発生時にリトライするシナリオを作成することができます。

図 99-1 Socket 通信ライブラリのリトライ例外のシナリオ例



WinActor® ユーザライブラリサンプル説明書

NTTアドバンステクノロジ株式会社

Copyright © 2013-2026 NTT, Inc. & NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。

本マニュアルの内容は予告なく変更される場合があります。

WA7-F-20261022